

SHINSHU Arts Council 2024 ANNUAL REPORT

令和6年度活動報告
SHINSHU Arts Council
2024 ANNUAL REPORT

SHINSHU Arts Council 2024 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル令和6年度活動報告 目次

02 巻頭特集 | 信州アーツカウンシル2024パレード -とものつくるムーブメント-

08 ご挨拶

10 信州アーツカウンシルとは

12 令和6(2024)年度事業の概略・活動拠点一覧・アシスタントコーディネーターによる文化芸術の担い手調査報告

Aプログラム 活動推進支援

18	A01	合同会社 ARTWINGLABEL
19	A02	一般社団法人 阿智村全村博物館協会
20	A03	アトリエもも
21	A04	特定非営利活動法人 いいだ人形劇センター
22	A05	特定非営利活動法人 F.O.P
23	A06	おやこのカラダ
24	A07	ぐるぐるシネマ
25	A08	劇団野らぼう
26	A09	さくほミングル
27	A10	特定非営利活動法人 サポートC
28	A11	ちいさがた未来民話研究会
29	A12	Torus Vil.
30	A13	どんどろ流百鬼ゆめひな
31	A14	特定非営利活動法人 ながのアートミーティング
32	A15	人形芝居燕組
33	A16	ネイチャーピアノ
34	A17	特定非営利活動法人 ふるさと芸能研究所
35	A18	NPO法人 WHITE CANVAS
36	A19	むらびとアートプロジェクト
37	A20	特定非営利活動法人 リベルテ
38	A21	わかち座
39	A22	和力

Bプログラム 活動基盤強化支援

40	B01	特定非営利活動法人 アイダオ
41	B02	一般社団法人 大昔調査会
42	B03	医療法人社団 オレンジ
43	B04	木曾ペインティングス
44	B05	特定非営利活動法人 劇空間夢幻工房
45	B06	NPO法人 原始感覚舎
46	B07	株式会社 さきわいクレアシオン
47	B08	一般社団法人 シアター&アーツうえだ
48	B09	NPO法人 多津衛民芸館
49	B10	まつもとフィルム commons
50	B11	まるっとみんなで準備室
51	B12	一般社団法人 〇と編集社
52	B13	もんぜん千年祭実行委員会
53	B14	NPO法人 夢空間 松代のまちと心を育てる会

54 連携・協働プログラム | Shinshu Arts-Climate Camp

56 連携・協働プログラム | 伝統文化の支援体制構築に向けた連携／他地域のアーツカウンシルとの協働

58 社会包摂(インクルーシブ)プログラム | ザワメキサポートセンターとの連携

60 地域創造・交流プログラム | NAGANO ORGANIC AIR 2024

62 地域創造・交流プログラム | シンビズム 2024

66 [コラム] 文化共創パートナー／広域アートコミュニティ

68 [コラム] 信州アーツカウンシル アドバイザリーボードより

70 これまでとこれから ～コーディネーター座談会

アートを身近に 暮らしをゆたかに
様々な人が文化を創り 支え合う

長野県内の文化芸術の担い手を支援する「信州アーツカウンシル」が活動を始めて3年目。これまでの活動の成果を展示や交流会などで表現し、県内を“パレード”しながら地域の人々と共有するプロジェクトとして6月から2月にかけて県内5カ所をめぐるしました。



伊那市

はじまりの交流会

日時 6/15(土) 9:30~17:30
会場 長野県伊那文化会館 小ホール [伊那市西町5776]
料金 入場無料・入退場自由[予約不要]

プログラム

ワークショップ① [10:30~11:30]

■親子向け「出張・にちようカラダのワークショップ」
by おやこのカラダ(松本市)

信州アーツカウンシル2024交流会 [13:00~16:30]

- オープニングミニコンサート by ネイチャーピアノ(伊那市)
× NAGANO ORGANIC AIR 大鹿村
- 信州アーツカウンシル令和6年度事業紹介
- 「Re-SHINBISM(リ-シンビズム)2ーそして未来へ」展
企画発表
- 「ザワメキアート展 2024」事業紹介
- 令和6年度助成事業採択団体の紹介

展示 [9:30~17:30]

- トビチ美術館 by ○と編集社(辰野町)
- ザワメキ・キャラバン in 伊那文化会館
by ザワメキサポートセンター
- NAGANO ORGANIC AIR
- CULTURE.NAGANO 他、信州アーツカウンシルにかかわる
取組を紹介

「信州アーツカウンシル 2024 パレードーとものつくるムーブメント」の幕開けとなる「はじまりの交流会」では、主催事業や助成事業で関わりのあるトビチ美術館(辰野町)、奏の森(中川村)、ザワメキサポートセンター(長野市)などの展示が会場を彩りました。午前は親子向けプログラムとして、おやこのカラダ(松本市)と、いいだ人形劇センター(飯田市)によるワークショップを開催。午後は、ネイチャーピアノ(伊那市)のNAGANO ORGANIC AIRがコラボレーションしたミニコンサートで幕を開け、令和6年度事業の紹介、助成採択団体のマイクリレーと熱気あふれる交流会となりました。

動画はこちら



諏訪エリア

アーティストと文化施設のこれから

期間 8/4(日)~8/23(金)

オープンカウンシル! vol.1
アーティスト交流会@Re-SHINBISM2

日時 | 8月4日(日) 15:00~16:30
会場 | 茅野市民館 アトリエ [茅野市塚原一丁目1番1号]
料金 | 無料

みつばちプロジェクト夏休み特別編
人形芝居燕組「タマゴサーカス」「さんびきのこぶた」

【茅野会場】
日時 | 8月18日(日) 15:30開演
会場 | ゆいわーく茅野 [茅野市塚原2丁目5-45]
料金 | 500円(未就学児無料)

【岡谷会場】
日時 | 8月18日(日) 10:30開演
会場 | こどもだるま食堂 [岡谷市東銀座1-14-2 平成会館内]
料金 | 大人300円、こどもワンコイン※こども食堂利用の費用として

旅する信州アーツカウンシル・コワーキングDAY@茅野

日時 | 8月22日(木) 10:00~16:00
会場 | 荒神の古民家 [茅野市玉川神原4233]
料金 | 無料

アドバイザーボードフィールドワーク

日時 | 8月22日(木)~23日(金)
視察先 | 22日:わかち座(小諸市)、多津衛民芸館(佐久市)
アトリエもも(茅野市)、○と編集社(辰野町)
23日:大昔調査会(諏訪市)、藤森建築群、
「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展(茅野市)

オープンカウンシル! vol.2
信州アーツカウンシル・アドバイザーボード拡大会議
~信州から眼ざす、これからの地域・アート・文化施設~

日時 | 8月23日(金) 14:00~17:00 ※終了後に交流会あり
会場 | 茅野市民館 マルチホール
料金 | 無料
登壇者 | 金井直、辻野隆之、山本麻友美、若林朋子、吉本光宏
ロジャー・マクドナルド
進行 | 津村卓、野村政之

8月は「アーティストと文化施設のこれから」と題し、茅野市美術館で開催された「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展と並行して、諏訪エリアの文化施設と地域を行き来しました。信州アーツカウンシルのこれまで・これからを様々な人たちと議論する「オープンカウンシル!」が始動し「vol.1 アーティスト交流会」、「vol.2 信州アーツカウンシル・アドバイザーボード拡大会議」を開催。加えて、助成事業で支援している2つの団体がコラボレーションした人形劇公演、県内のアート拠点のフィールドワークなどを行いました。

動画はこちら





上田市

ケアのクリエイティビティ

期間 11/2日～11/3日

会場 長野県上田市 サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)
犀の角、上田映劇、リベルテ 屯-ton-

展示+ギャラリートーク

日時 | 展示 11月2日(土) 9:30～17:00
ギャラリートーク 11月2日(土) ①11:00～11:30 ②13:30～14:00 ③16:00～16:30
会場 | サントミュージゼ・多目的ルーム[上田市天神3-15-15]
料金 | 入場無料
展示団体 | NPO法人アイダオ、医療法人社団オレンジ
「こもろのうち」(NPO法人ながの アートミーティング)、さくほミングル
一般社団法人シアター&アーツうえだ、まるっとみんなで準備室、NPO法人リベルテ
アトリエもも、むらびとアートプロジェクト、NPO法人WHITE CANVAS、ザワメキサポートセンター

わかち座+鈴木ユキオプロジェクト「風景とともに」

日時 | 11月2日(土) 14:00～(上演時間約30分)
会場 | サントミュージゼ 多目的ルーム/プロムナード/大スタジオ
料金 | 観覧無料

「路地の開き～リベルテと世界を結ぶ街歩き～」特別編

日時 | 11月2日(土) 11:30～13:30
集合 | サントミュージゼ・多目的ルーム前
料金 | リベルテ 屯-ton- [上田市中央3-3-10]
1000円

映画『へんしんっ!』上映&トークセッション

日時 | 11月3日(日) 9:30開場/10:00開映
12:40トークセッション終了
会場 | 上田映劇 [上田市中央2-12-30]
料金 | ドネーション(投げ銭)制
登壇 | 大村麻弥(さくほミングル)
中村茜(まるっとみんなで準備室)
司会 | 直井恵(アイダオ/上田映劇)
野村政之(信州アーツカウンシル)

体験スペース「つながるサーカスワークショップ エアリアル&ジャグリング体験会！」

日時 | 11月2日(土) 10:30～15:45
小パフォーマンス 13:00～/15:30～
会場 | サントミュージゼ 大スタジオ

オープンカウンスル! vol.3 「アーツ&ケアのオープンマイク！」

日時 | 11月2日(土) 18:30～21:00
会場 | 犀の角 [上田市中央2-11-20]
料金 | 参加無料

3ヵ所目は上田市へ移動! 11月2～3日、「ケアのクリエイティビティ」にフォーカスし、福祉、教育、子ども、その他様々な支援の取り組みにおける「ケア」の視点と文化芸術を織りあわせ、創造的な活動を行っている団体の皆さんとともに、複数の会場で企画を行いました。

動画はこちら



Photo by Marehito Antoku



南信州エリア

伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ

期間 11/16日～2025年1/26日

<前半> 長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」

日時 | 11月16日(土) 13:00～16:30
会場 | 阿智村中央公民館 [下伊那郡阿智村駒場468-1]
内容 | 講演「琉球花火とその復元」茂木仁史(国立劇場おきなわ調査研究専門嘱託員、芸術学博士)
講演「南信州の煙火文化と清内路の手づくり花火」櫻井弘人(國學院大學兼任講師)
座談会「琉球花火と清内路の手づくり花火」
パネラー: 茂木仁史、櫻井信和(上清内路煙火同協会)
門野祐一(下清内路煙火有志会)・関島喜純(関島煙火製造所)

コーディネーター: 櫻井弘人
コメンテーター: 小川直之(国立劇場おきなわ運営財団理事・国学院大学名誉教授)
主催 | 阿智村、長野県、信州アーツカウンシル、南信州民俗芸能継承推進協議会
後援 | 上清内路煙火同協会、下清内路煙火有志会、国立劇場おきなわ、沖縄県

<後半> 第3回南信州民俗芸能フェスティバル

日時 | 1月26日(日) 10:30～15:30
会場 | 飯田市鼎文化センター [飯田市鼎中平1339-5]

日程・内容 |
10:30 開会・セレモニー
10:50 【第1部】講演「式三番と三番叟」小川直之
大鹿歌舞伎 三番叟(大鹿歌舞伎保存会)
湯原神社式三番(湯原神社式三番保存会)
12:15(昼休憩・南信州の民俗芸能 映像上映)
13:00 【第2部】
解説「信州の三番叟」櫻井弘人
親沢の人形三番叟(映像上映)(親沢区)
古田人形 三番叟(古田人形芝居保存会)
早稲田人形 三番叟(早稲田人形保存会)
黒田人形 三番叟(黒田人形保存会)
今田人形 二人三番叟(今田人形座)
15:10 講評 笹本正治・宮田繁幸
15:30 閉会
主催 | 南信州民俗芸能継承推進協議会、信州アーツカウンシル、長野県
後援 | 阿南町教育委員会、飯田市教育委員会、大鹿村教育委員会
小海町教育委員会、佐久市教育委員会、蓑輪町教育委員会

旅する信州アーツカウンシル・コワーキングDAY@阿智

日時 | 11月16日(木) 10:00～16:00
会場 | 古民家つばや [下伊那郡阿智村駒場1151]

「伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ」をテーマに11月と1月に南信州で開催の「パレード」の〈前半〉のプログラムとして11月16日に阿智村で実施した長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手づくり花火」講座、〈後半〉では1月26日に飯田市にて「第3回南信州民俗芸能フェスティバル」を開催しました。

長野×沖縄交流事業

動画はこちら



第3回南信州民俗芸能フェスティバル

動画はこちら





長野市

文化芸術と共創～とものつくるムーブメント

期間 **2/5 水～2/11 火・祝**

信州アーツカウンシル 活動紹介展示

日時 | 2月5日(水)～11日(火・祝) 10:00～17:00 ※10日(月)休
会場 | 県立長野図書館 3F「信州・学び創造ラボ」〔長野市若里1-1-4〕
くらしふと信州〔長野市問御所町1250-1〕
ホクト文化ホール 大ホール〔長野市若里1-1-3〕※ホクト文化ホール大ホールは11日のみ

オープンカウンシル! vol.4

『文化のソーシャルワーカー』をめぐる～越境する文化芸術の機能』

日時 | 2月5日(水) 13:30～16:30
会場 | 県立長野図書館3F「信州・学び創造ラボ」〔長野市若里1-1-4〕
出演 | 紅谷浩之(医療法人社団オレンジ)、森いづみ(県立長野図書館)、新雄太(東京大学)
モデレーター | 吉本光宏(一般財団法人長野県文化振興事業団、合同会社文化コモンズ研究所)
野村政之(信州アーツカウンシル)

オープンカウンシル! vol.5 『【〇〇×文化芸術】を県庁で話し合う座談会』

日時 | 2月7日(金) 13:30～16:00
会場 | 長野県庁西庁舎 110号会議室〔長野市大字南長野字幅下692-2〕
出演 | 中山拓郎(一般社団法人ナナイロ)、高橋潤(公益財団法人長野県みらい基金)
藤川まゆみ(NPO法人上田市民エネルギー)
モデレーター | 野村政之(信州アーツカウンシル)

旅する信州アーツカウンシル・コワーキングDAY@長野県庁

日時 | 2月7日(金) 10:00～16:30
会場 | 長野県庁西庁舎 110号会議室〔長野市大字南長野字幅下692-2〕

Photo by Marehito Antoku



＜パレード in長野×もんぜん千年祭 連携企画＞

NAGANO ORGANIC AIR 阿南 短編芝居「新野物語」長野市公演

日時 | 2月2日(日) 15:00
会場 | 満留八総本店〔長野市伊勢町325〕

NAGANO ORGANIC AIR 大鹿 秦雅則 写真展「PARALLEL MIRROR」

日時 | 2月5日(水)～11日(火祝) 10:00～17:00 ※10日(月)休
会場 | R-DEPOT〔長野市西後町610-12〕

もんぜん街中トーク「〈まち〉の現在と未来 宮本忠長アンビルト計画と長野西後町マッププロジェクト」

日時 | 2月8日(土) 10:00～12:00
会場 | R-DEPOT 2F大会議室〔長野市西後町610-12〕
登壇 | 倉石智典(R-DEPOT)、赤羽孝太(一般社団法人〇と編集社)
モデレーター | 野村政之(信州アーツカウンシル)

「信州アーツカウンシル 2024 パレード」フィナーレは長野市内に展開! 2月5日～11日の1週間にわたり、県立長野図書館では信州アーツカウンシル活動紹介展示やオープンカウンシルvol.4「文化のソーシャルワーカーをめぐる」、長野県庁ではオープンカウンシルvol.5「【〇〇×文化芸術】を県庁で話し合う座談会」、ホクト文化ホールではクロージングイベント開催、もんぜん千年祭とも連携し、多くの方に信州アーツカウンシルの3年間をお伝えすることができました。

クローージングイベント

＜信州アーツカウンシルの活動紹介展示&ミニショップ!＞

日時 | 2月11日(火・祝) 10:00～17:00
会場 | ホクト文化ホール 大ホール・ホワイエ

見て、聴いて、やってみる! 伝統文化おやこ体験フェスタ! by NPO法人ふるさと芸能研究所(伊那市)

日時 | 2月11日(火祝) 11:00～12:30
対象 | 小学生以上
内容 | 【えらべるワークショップ】
①和太鼓②南京玉すだれ③木曾踊り④ダンボール獅子舞体験
【伝統文化公演】田楽座、木曾踊り保存会

＜2025へ。繋がる「パレード」フィナーレ MIKUSA MEETING & マイクリレー＞

日時 | 2月11日(火・祝) 13:30～16:30
会場 | 大ホール 舞台上 入場 | 無料・入退場自由
出演 | KIMIYA SATO MIKUSA BAND(Torus Vil.)
信州アーツカウンシルの活動に関わった団体やアーティストの皆さん

動画はこちら



信州アーツカウンシル長 津村 卓

文化芸術が持つポテンシャルは、想像力から生まれる創造力によって人と人が繋がり新しい世界が創り出されることではないでしょうか。また文化芸術には以前から目的の重要なひとつとして、社会の変化による人々の生き方の変化や、地域に起こる課題に対しその解決の糸口としての役割や力があると言われてきました。振り返ると長野県が持つ地域に継承されてきた伝統文化から現代芸術まで、そのポテンシャルと担い手の方々の活動に関して社会がまだ生かしきれていない状況のなか、信州アーツカウンシルは自然災害やパンデミックを乗り越え最初の節目である3年間の活動を果たすことが出来ました。改めて長野県内において活動する文化芸術の担い手の皆さん、支援して頂いた関係者の方々の文化芸術また地域文化を次代へつなげていこうという強い思いを込めた力添えに感謝申し上げます。

スタート時に掲げた「長野県全域において文化芸術活動の創造力・発信力を高める」「文化芸術活動のポテンシャルを社

会の様々な領域に拡げる」「長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する」という3つのミッションをもとに、「文化芸術活動の担い手を支援する」「信州の多様な文化を多様な主体が支える」ことを目指した3年間でした。活動の柱として、助成支援では県内の文化芸術団体の持続的な活動を支援するため、単に助成するのではなく最後まで寄り添った支援を行い延べ94団体と並走しました。また協働共創では信州大学人文学部をはじめ連携協働の取り組みを行い、特に昨年度から始まった気候変動をはじめとする環境問題に対して文化芸術が果たす役割を問う「Shinshu Arts-Climate Camp」は着実に広がりを見せていると自負しています。また障がい者や高齢者の福祉、多文化共生の取り組みもザワメキアートセンター他との連携によって、誰もが参加できる社会づくりの一步を踏み出せました。次に発掘交流としてアーツカウンシルのスタート前から始まった、県内美術館の学芸員が所属を超えて交流し、信州ゆかりのアーティストの作品を紹介

するシンビズムは「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展としてSHINBISM2に出展された作家の皆さんの5年半の進化と今を見つめる展覧会。そして学校と連携した「対話型鑑賞会」を行うことが出来ました。また地域の担い手の方々との協働のもと行う「NAGANO ORGANIC AIR」も小谷村、大鹿村、阿南町などにおいてアーティストによる滞在制作を実施することが出来ました。

そして3年間の活動の集約として「ともにつくるムーブメント」として各地域の活動の成果を担い手の皆さんと展示や交流会として表現する「パレード」を伊那、諏訪エリア、上田エリア、南信州エリア、長野エリアの5箇所で開催しました。最も印象に残ったのは、アーツカウンシルの活動をきっかけに担い手の方々が協働共創するなか、新しいコミュニティとして繋がっていた事です。これまで出会うことのなかった人と人が出会い、それが地域と地域を繋げ、そして文化芸術と文化芸術が出会う「事件」が多発していることに改めてポテンシャルの力強さを驚嘆することになりました。

4年目を迎えるアーツカウンシルの活動として、そのポテンシャルをより多くの地域に拡げていくために、3年間一緒に

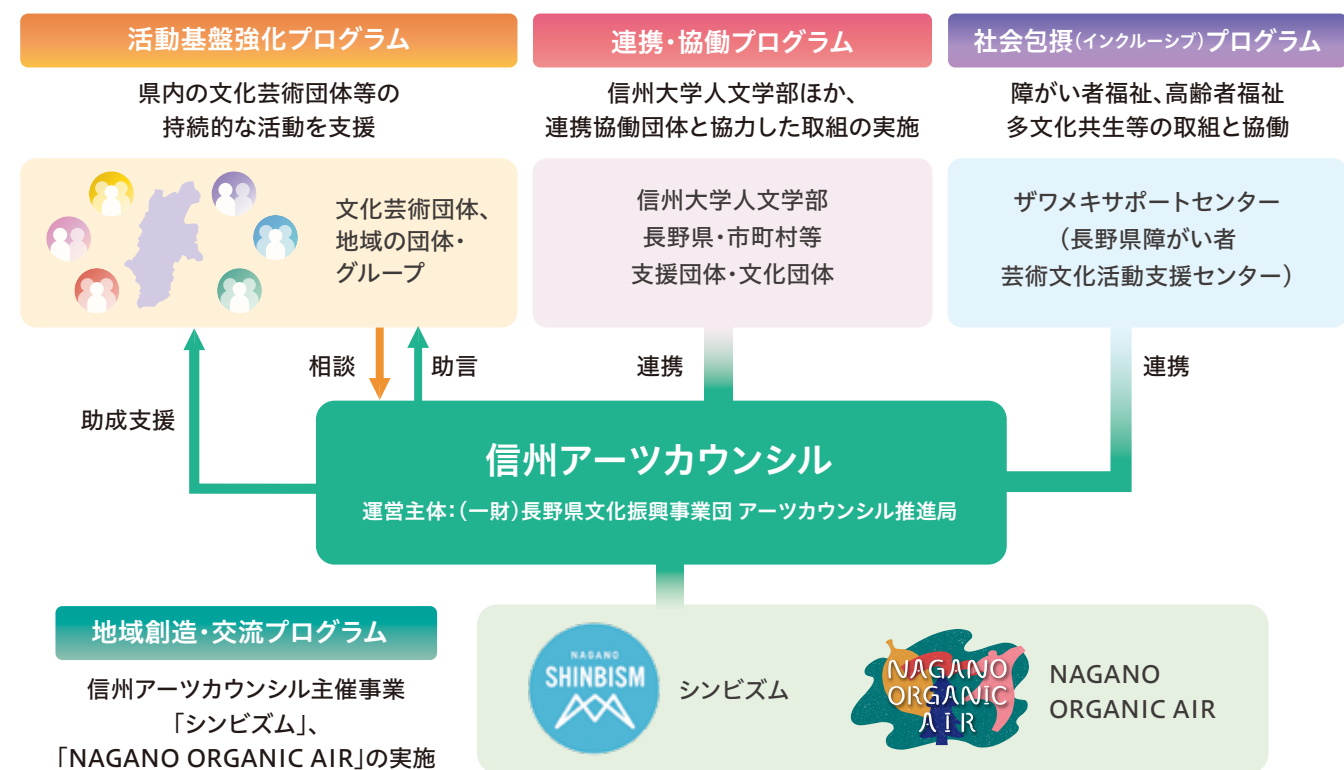
走ってきた担い手の人達が、次の担い手の人たちの伴走者となって貰うために「文化共創パートナー事業」として進めていくことで県内に多くのコーディネータが誕生することに期待をしたいと思います。また地域の文化施設において本来の目的である地域や市民と向き合う事業を核にしていく時期という思いから、「信州広域アートコミュニティ共創事業」として文化施設や学校、地域との連携協働の企画の相談また伴奏を進めていきます。そのほか連携協働として伝統文化の支援に関わることや、他の地域のアーツカウンシルとも積極的に取り組んでいく予定です。

我々にとっても新しい出会いや発見の3年間を、担い手と方々や団体と連携・協働共創させていただき、気候変動や社会の分断という大きな課題から身近な営みの課題解決の糸口として文化芸術の役割と力を社会全体で生かされることを可視化してきました。新たなフェーズに向かう4年目。引き続き、地域主体・県民主体による創造的な地域づくりを推進していきます。地域の担い手の方々はじめ信州アーツカウンシルにご協力いただいた皆様に感謝するとともに、引き続きのお力添えをお願いいたします。

信州アーツカウンシルとは

アートを身近に 暮らしをゆたかに 様々な人が文化を創り 支え合う

信州アーツカウンシルは、地域の文化芸術活動の担い手を支援しています。自然豊かな風土や学びを大切にする精神などから育まれる、信州・長野県の多様な地域文化や文化芸術の創造性を、持続的に発展させていくことを目的に、令和4(2022)年に始動しました。長野県、大学、公的機関、民間支援団体、市町村など、多様な主体がゆるやかに連携しながら、一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局が運営主体となり、地域・県民主体で行う文化事業の助成、相談・助言などの寄り添い型の支援を行っています。



広い県土に多様な地域性を有する長野県のアーツカウンシルとして
2つの観点を重視した文化芸術の環境づくりを進めています

01 文化芸術活動の「担い手」を支援する

文化芸術の場を開く「担い手」を広くとらえ、表現者、参加者、企画・運営者、支援者など、さまざまな人たちを支援します。

02 信州の多様な文化芸術を、多様な主体が支える

県、大学、民間支援団体、市町村、個人、さまざまな主体が連携し、長野県の多様な地域文化を支援する環境づくりを行います。

これらの活動を通して、3つのミッションを達成していきます。

Mission 01

長野県全域において
文化芸術活動の
創造力・発信力を高める。

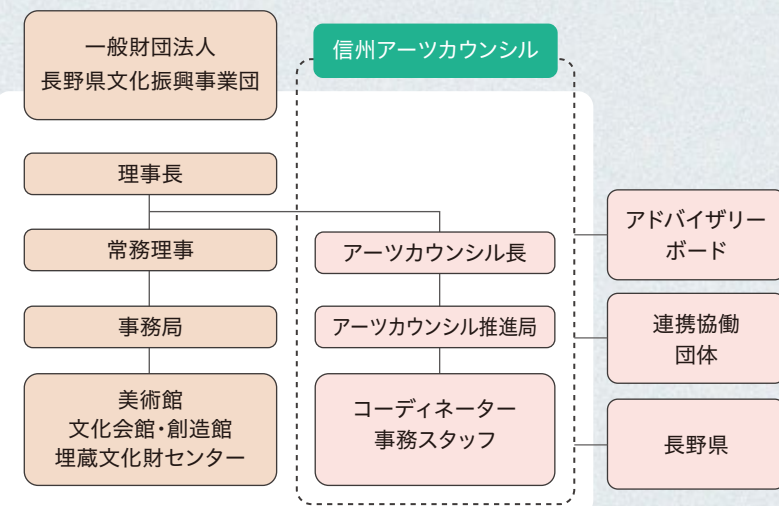
Mission 02

文化芸術活動の
ポテンシャルを
社会の様々な領域に広げる。

Mission 03

長野県内の文化芸術活動が
持続的に発展する環境を
醸成する。

組織図



令和6年度 信州アーツカウンシル アドバイザリーボード

金井直 信州大学人文学部 教授

辻野隆之 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造 シニアディレクター

山本麻友美 京都芸術センター副館長／京都市文化政策コーディネーター

若林朋子 プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院教員

令和6年度 信州アーツカウンシル スタッフ

■ アーツカウンシル長

津村 卓 つむら たかし

1956年大阪市生まれ。一般財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー。国内各地の公立劇場の運営に携わり、2016～20年3月上田市サントミュージアム館長。2016～21年長野県芸術監督(プロデュース)、2020～21年度長野県芸術監督団事業総合プロデューサー。

■ アーツカウンシル推進局【コーディネーター(専門スタッフ)】

ゼネラルコーディネーター | 野村 政之 のむら まさし

1978年生まれ。長野県塩尻市出身。舞台芸術の創作現場と公的文化的芸術支援に並行して携わる。公共ホール、民間劇場・劇団制作部、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサーを経て2018～22年3月長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーター。

チーフコーディネーター | 伊藤 羊子 いとう ようこ

1994年より(一財)長野県文化振興事業団学芸員として長野県立歴史館、長野県信濃美術館等での企画事業のほか、館外での普及事業を推進。2016年より「信州ミュージアム・ネットワーク事業」や、長野県芸術監督団事業「シンビズム」の制作を担当。

コーディネーター | 佐久間 圭子 さくま けいこ

長野県松本市出身。大阪芸術大学映像学科卒業後、テレビ朝日報道局、信州大学地域戦略センター、株式会社エイブルデザイン、信州地域デザインセンター(UDC信州)を経て現職。公・民・学さまざまな立場で情報発信やデザイン制作を軸にした地域づくりに携わる。

コーディネーター | 藤澤 智徳 ふじさわ ともり

1993年生まれ。長野県中野市出身。大学在学中よりダンス公演や芸術祭の企画制作やドラマトウルクとして活動。民間商業劇場を経て、2019年より(一財)長野県文化振興事業団で長野県芸術監督団事業に従事。おもに「NAGANO ORGANIC AIR」の制作を担当。

コーディネーター | 早川 綾音 はやかわ あやね

1998年生まれ。宮城県蔵王町出身。学部では主にアートプロジェクトやまちづくりについて、大学院では教育普及や美術鑑賞活動について学ぶ。在学中より文化芸術活動の運営に興味を持ち、芸術祭を中心にさまざまなプロジェクトに携わる。2024年5月より勤務。

コーディネーター | 田村 智揮 たむら ともし

2024年6月～2025年3月、コーディネーターとして勤務。

【事務スタッフ】

局長 | 峯村 高広 みねむら たかひろ

長野県長野市出身。1995年長野県庁入庁。2022年4月より派遣。

次長 | 岩井 千里 いわい ちさと

福島県出身。2015年長野県庁入庁。2024年4月より派遣。

主事 | 保谷 有美 ほや ともみ

長野県長野市出身。2022年7月より勤務。

沿革

- 2016年** 長野県文化振興基金を創設
長野県文化振興基金を活用し、長野県芸術監督団事業着手(演劇・美術・音楽・プロデュースの4分野の芸術監督による企画)
長野県芸術監督団事業 美術部門で「シンビズム」が開始
- 2018年** 第1期長野県文化芸術振興計画(2018～2022年度)に、「文化施策の推進体制」として「専門人材による中間支援機能(長野県版アーツカウンシル)の検討」が明記される
- 2019年 8月** 長野県版アーツカウンシル設立に向けた有識者懇談会による討議開始
- 2020年** 長野県芸術監督団事業プロデュース部門で「NAGANO ORGANIC AIR」が開始
- 2022年 4月** 一般財団法人長野県文化振興事業団にアーツカウンシル推進室設置
- 2022年 6月** 信州アーツカウンシルキックオフイベントを開催し、活動をスタート
- 2023年 4月** 一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局に改称

01 活動基盤強化プログラム

令和6年度アーツカウンシル助成事業

「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム」▶▶▶ P18

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて、社会における課題を設定し、さまざまな人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動を支援。

募集期間 | 令和6(2024)年2月6日～3月7日

事業期間 | 令和6(2024)年4月23日～令和7(2025)年2月28日

支援総額 | 38,632,938円

種 類	想定する活動・支援	上限額 助成率	応募数	採択数
A 活動推進支援 プログラム	● 地域における文化芸術活動の定着や新たな実施 ● 収益性に馴染まないが、他分野への波及が期待できる活動の立ち上げ支援 など	500,000円 10/10以内	66	22
B 活動基盤強化 プログラム	● 他分野や県内他地域に展開し、県内での新たな活力創出に取り組むもの ● 定着や自走の可能性がある活動を寄り添い型で支援 など	3,000,000円 1/2以内 (一般管理費 15%以内)	29	14



おやこのカラダ
(A 活動推進支援プログラム)



わかち座
(A 活動推進支援プログラム)



一般社団法人 大昔調査会
(B 活動基盤強化プログラム)

02 連携・協働 プログラム

Shinshu Arts-Climate Camp(信州大学人文学部との協働) ▶▶▶ P54

- 学生への講義(4月12日)
- 《座談会》気候とアートのダイアログ～北アルプス国際芸術祭2024編～「北アルプス林研グループ」 @くらしふと信州(9月25日)
- 《座談会》気候とアートのダイアログ～北アルプス国際芸術祭2024編～「《熱の連帯》村上慧 アーティストトーク」@信濃大町駅前インフォメーションセンター(10月14日)
- Shinshu Arts-Climate Camp×SHINBISM上映会&シンポジウム「地域とアート現場における資材循環を考える」 @inadani sees(12月22日)



伝統文化の支援体制構築に向けた連携 ▶▶▶ P56

- 南信州民俗芸能継承推進協議会、公益財団法人八十二文化財団との協働
- 民俗芸能の担い手等の交流会の実施(7月14日)
- 第3回 南信州民俗芸能フェスティバル【パレード】(1月26日)
- 「伝統文化がつなぐ新たな関係・世代・地域～祭り芸能の担い手座談会」オープンカウンシル! vol.6【パレード】(3月1日)



他地域のアーツカウンシルとの協働 ▶▶▶ P57

超老芸術展in池田町(7月6日～8月25日)【アーツカウンシルしずおかとの協働】

- 【関連イベント】いのちの記(しるし)コンサート(7月14日、8月11日)
合同会社ARTWINGLABEL/雅音人
- 【関連イベント】ギャラリートーク&ダイアログ(8月18日)

その他

- おかやま文化芸術アソシエイツおよびクリエイティブ・リンク・ナゴヤ主催イベントに登壇



文化芸術に対する寄付促進に向けた取組

- 公益財団法人長野県みらい基金との連携(信州の特色ある学び応援事業など)

03 社会包摂(インクルーシブ) プログラム

ザワメキサポートセンター

(長野県障がい者芸術文化活動支援センター/長野県社会福祉事業団)との連携 ▶▶▶ P58

- 連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換を行う
- ザワメキアート展およびザワメキ・キャラバンin大町を共催・広報支援
- 信州アーツカウンシル2024パレード×ザワメキ・キャラバンin大町
アーティスト浅井真至氏による〈名店街のどうぶつを描こう〉ワークショップの実施(9月16日)
- 信州アーツカウンシル2024パレード×ザワメキ・キャラバンin大町×北アルプス国際芸術祭2024
「北アルプス国際芸術祭2024を障がいのある方と巡るモニターツアー」の実施(9月23日)



04 地域創造・交流プログラム

信州アーツカウンシル2024パレード -とものつくるムーブメント- ▶▶▶ P02

- はじまりの交流会（6月15日）
- アーティストと文化施設のこれから（8月4日-23日）
- ケアのクリエイティビティ（11月2日-3日）
- 伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ＜前半＞（11月16日）
- 伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ＜後半＞（1月26日）
- 文化芸術と共創 -とものつくるムーブメント-（2月5日-11日）



NAGANO ORGANIC AIR 2024 ▶▶▶ P60

- 県内3地域に3組のアーティストが滞在し、ホストのコーディネートにより、地域と有機的に関わりながら活動を展開
- 信州フィルムコミッションネットワークとの連携で3地域に映画監督が滞在
- 県内のAIR情報をwebサイトで集約発信

シンビズム 2024 ▶▶▶ P62

- 美術展「Re-SHINBISM(リ-シンビズム) 2ーそして未来へ」開催（7月28日-9月1日）
- ギャラリートークの実施（8月4日）
- シンビズム展開催地域の小中学校と連携し、対話を通じた作品鑑賞（対話鑑賞）事業を実施（8月10日、21日、26日、28日、29日、30日）
- 長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業との連携
- シンビズム事業成果報告会の開催（2月7日）



05 情報発信・認知度向上の取組

- 「信州アーツカウンシル2024交流会」の開催（6月15日）
- 銀座NAGANO（東京）での移住定住・関係人口づくりのイベント開催（10月19日）
- コワーキングDAYの開催
長野市（7月17日県立長野図書館）、茅野市（8月22日荒神の古民家）
東京都（10月19日銀座NAGANO）、阿智村（11月16日つぼや）
木曽町（12月6日ふらっと木曽）、長野市（2月7日長野県庁）



令和6（2024）年度事業の活動拠点

- 2024パレード
- A 活動推進支援プログラム
- B 活動基盤強化プログラム
- 連携・協働プログラム
- 社会包摂（インクルーシブ）プログラム
- 地域創造・交流プログラム（NOA）
- 地域創造・交流プログラム（シンビズム）
- 情報発信・認知度向上

相談・助言
149 団体

助成先
36 団体

主催事業での
支援・連携
92 団体

信州アーツカウンシルが
令和6（2024）年度に支援等で関係した団体数
277 団体

飯山市

NOA 信州フィルムコミッションネットワーク（SFN）との共同企画

上田市

- パレ** ケアのクリエイティビティ
- A11** ちいさがた未来民話研究会
- A20** 特定非営利活動法人 リベルテ
- B01** 特定非営利活動法人 アイダオ
- B08** 一般社団法人 シアター&アーツうえだ

軽井沢町

- B03** 医療法人社団オレンジ
- B11** まるっとみんなで準備室

小諸市

- A21** わかち座

佐久市

- B09** NPO法人多津衛民芸館

佐久穂町

- A09** さくほミングル

南牧村

- A07** ぐるぐるシネマ

東京都

- 発信** 銀座NAGANOでの移住定住・関係人口づくりのイベント開催
- 発信** コワーキングDAY

茅野市

- パレ** アーティストと文化施設のこれから
- A03** アトリエももも
- A10** 特定非営利活動法人 サポートC
- SBS** シンビズム2024
- 発信** コワーキングDAY

諏訪市

- B02** 一般社団法人 大昔調査会

大鹿村

- NOA** 「簡単じゃない。だから、面白い。」大鹿村アーティスト・イン・レジデンス

喬木村

- NOA** 信州フィルムコミッションネットワーク（SFN）との共同企画

飯田市

- パレ** 伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ＜後半＞
- A05** 特定非営利活動法人 いいだ人形劇センター

長野市

- パレ** 文化芸術と共創 -とものつくるムーブメント-
- A14** 特定非営利活動法人 ながのアートミーティング
- B05** 特定非営利法人 劇空間夢幻工房
- B07** 株式会社 さきわいクレアシオン
- B13** もんぜん千年芸術祭実行委員会
- B14** 特定非営利活動法人 夢空間松代のまちと心を育てる会
- SBS** 長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業との連携
- 発信** コワーキングDAY
- 連携** Shinshu Arts-Climate Camp

小谷村

- NOA** 森との関わり／地域と地球の未来

白馬村

- NOA** 信州フィルムコミッションネットワーク（SFN）との共同企画

大町市

- B06** 特定非営利活動法人 原始感覚舎
- 連携** Shinshu Arts-Climate Camp
- 包摂** ザワメキアート展／ザワメキキャラバンin大町

池田町

- 連携** アーツカウンシルしずおかとの連携事業
- NOA** 信州フィルムコミッションネットワーク（SFN）との共同企画

安曇野市

- パレ** 伝統文化がなくなると新たな関係・世代・地域～祭り芸能の担い手座談会
- A18** NPO法人 WHITE CANVAS

松本市

- A01** 合同会社 ARTWINGLABEL
- A06** おやこのカラダ
- A08** 劇団野らぼう
- A12** Torus Vil.
- A15** 人形芝居燕組
- B10** まつもとフィルム commons

木曽町

- B04** 木曽ペインティングス
- 発信** コワーキングDAY

辰野町

- B12** 一般社団法人 〇と編集社

伊那市

- パレ** はじまりの交流会
- A16** ネイチャーピアノ
- A17** 特定非営利活動法人 ふるさと芸能研究所
- 連携** Shinshu Arts-Climate Camp
- SBS** 長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業との連携

宮田村

- A19** むらびとアートプロジェクト

飯島町

- A13** どんどう流 百鬼ゆめひな

中川村

- A05** 特定非営利活動法人 F.O.P

阿南町

- NOA** 短編演劇「新野物語」再々演

阿智村

- パレ** 伝統文化とゆたかな暮らしを繋ぐ＜前半＞
- A02** 一般社団法人 阿智村全村博物館協会
- A22** 和力
- 発信** コワーキングDAY

天龍村

- 連携** 民俗芸能の担い手等の交流会

アシスタントコーディネーターによる 文化芸術の担い手調査報告

アシスタントコーディネーター | 小出 恵・北林 南

信州アーツカウンシルの 助成と伴走について

- 活動全体を繊細に見極めながら「その線でやればいいよ」と背中を押してくれる一言の大きさ。書類の書き方とか申請と矛盾がないかという視点ではなく、変化も含めて活動そのものの未来をともにつくろうとされている。その伴走の姿勢によって安心して活動に取り組めたし、「自分たちの表現として何が提示できるか」を真摯に考える時間も大事にできた。
- 助成団体となったことで、アーティスト同士のゆるいつながりが生まれた。それにより、県内の各々の表現活動が可視化され、文化（ムーブメント）となってきた感じがする。
- アートプロジェクトは複合的な要素が多いので、以前は行政に協力をお願いしても、いろんな課（文化振興、福祉、まちづくり等）をたらい回しにされ、疲れ果てていた。心折れそうになった時、アーツカウンシルとの出会いがあって、自分たちの活動が多面的であることに自信を持って取り組めるようになった。

地域におけるアートの役割

- アーティストが地域に暮らし、地域の人と仲良くなって、展示を見に来てもらう。展示をみた地域の人たちは「よくわからないなあ」とか「こういうところが面白かった」など感想を話すことでその人なりが見えて来たりする。アーティストが介入することで、地域に新たな対話の場、関係性の構築が生まれてきた。
- 地域の保存会の方たちとつながれて、悩みを共有し、共感し合えたことがうれしかった。「助け合っていけるんだなあ」って感じられるのは、この企画ができたから。

自然、経済、暮らしにまつわる 循環について

- 地域で活動するにあたって、人材育成の必要性を感じている。地元で成立させるためには、若手を育てなければならぬ。そのために仕事を生まなければならない。ぐるぐると循環させる仕組みについて考えている。
- 信州アーツカウンシルのイベントに参加することで、自分たちの活動においても自然環境への影響とか、地域経済の循環などに意識が向くようになった。3年目の公演では、ゴミを出さずにお焚き上げできるように、燃やせる素材選びから考えて制作した。

世の中の芸術文化に関する課題感

- 作品をつくり見てもらうことも大事だけれど、プロセスを開いていくことが大事だと感じている。いかにプロセスを地域に開き、その土地の文化（暮らす人々の自分ごと）としていくか。
- 子どもの内から芸能の保存会に触れ、表現を覚える機会をつくってきた。その子どもが大人になって伝える側になったことを聞いたとき、すぐに効果が出ることばかりを求めるのではなく、種をまくことも大事。10年後20年後に花開くこともある。長期ビジョンでの支援（お金の問題だけでなく）を検討してもらいたい。

活動基盤強化プログラム

※和暦西暦等の表記は
個々のレポートの内容におけるニュアンスや
わかりやすさによって表現されています



高齢者の方々のことばプロジェクト

合同会社 ARTWINGLABEL

団体所在地 | 松本市 MAP **A01**



1



1 「超老芸術展 in 池田町」での展示
2 配食サービスの配膳の様子

配食サービス×ZINE 高齢者の新たな「コミュニティ」

本事業は、松本市内に住む、行動に制約がある独り暮らしの高齢者に、配食サービスを通して、高齢者の方の様々な表現・作品、言葉から作った楽曲を掲載したZINE(小冊子)を制作し配布するというものである。

合同会社ARTWINGLABELは音楽活動と高齢者配食の事業を行っている。日々の高齢者配食は安否の見守りを兼ねた業務となっており、スタッフは配達で訪ねた際に救急車を呼ぶような事態も経験している。週に1,2回のデイサービス以外は外出の機会のない皆さんの暮らしに触れて、在宅での表現と交流の楽しさを提供しようと考えた。ミュージシャンの心が、配食を通して、独り暮らしの高齢者の現実と出逢ったのだ。

紙のZINEを作成して配布する。オンラインですぐに伝わる情報社会の現在、個人情報共有には様々な規制があり、高齢者のプライバシーは守られている。逆に言えば、新たな触れ合いが生まれにくい環境ができあがっており、高齢者自ら孤立的な状況を変えることは難しい。そこへ、配食で日々対面するスタッフが安心を基礎に、紙面に掲載する内容を一人一人と調整し、ZINEをオフラインで手渡し、という形でハブになり、ゆるく切断され繋がったコミュニティでの、新たな触れ合いを実現している。

活動が3年目となり、徐々にこの活動を知り、意義に共感する人の輪が広がっている。「えんがわ」に掲載してほしいという自薦や、ベテランの歌手や音楽プロデューサーの協力の申し出があり、公立図書館から毎号を資料として求められている。

これからも年2回発行を続けていく体制を、どのように整えていくのがよいか。持続に向け新しい課題に取り組む段階に入ってきた。

団体概要

音楽制作会社として設立、現在では高齢者配食サービスも運営し、配食に並行して日々の見守り活動を行っている。音楽も含めた社会貢献事業として持続可能な形を模索している。

活動内容

- 7月 「超老芸術展 in 池田町」
(会場:北アルプス展望美術館)で展示
- 9~10月 「えんがわ」2号取材
- 11月 「えんがわ」2号発行
- 12~1月 「えんがわ」3号取材
- 2月 「えんがわ」3号発行

コーディネーターより

高齢社会の現実と正面から、やさしく、向き合うこの活動は、高齢者ややがて高齢者となる多くの人の心に響く。これをどういう形で続けていけるか、良い方法を見出していきたい。
(野村政之)

園原の里 能楽・狂言復興プロジェクト

一般社団法人阿智村全村博物館協会

団体所在地 | 阿智村 MAP **A02**



1



1 園原能舞台での能の稽古
2 木賊獅子保存会の発表(小さなあち芸能祭)

園原の文化資源の学びと活用を通して住民が交流する

阿智村全村博物館協会は、阿智村全体を「屋根のない博物館」とみなし、そこにある歴史や自然、文化、生活を価値ある地域資源と捉えて大事にしていこうという「全村博物館構想」を実現していくために、令和4(2022)年に村民によって設立された。古民家の「つぼや」の運営、村民の観光ツアーガイドの育成や、交流イベントのマルシェの開催など地域文化に関わる様々な活動を行っている。

旧東山道の難所、神坂峠の麓にある園原の里は、源氏物語をはじめ多くの古典文学や和歌に刻まれた名跡。この園原にあり、長い間活用されていなかった能舞台を使い、住民が能狂言に親しみながら、園原を舞台とする能『木賊』や周辺の史跡等を文化資源として掘り下げ、地域づくりや観光に繋げていくのが本事業の取り組みだ。

将来、園原能舞台で能『木賊』の上演が実現することを目指しつつ、能に親しみ、演目に対する理解を深めていく目的で、講師に伊那市の観世流能楽師・中家美千代さんを招き、月1回の能教室を継続実施。また園原能舞台で初開催となった能「木賊」講座では、観世流能楽師の坂井音晴さんが中家さんとともに講師となり、映像を交えた演目解説に加え、謡い・所作の体験と実演、衣装をつける動作の実演を通して、能の魅力、理解を深めることができた。

また、「小さなあち芸能祭」は、能教室の参加者が研鑽を積んできた演舞の発表とともに、普段発表機会・鑑賞機会の限られる「栗矢銭太鼓」「木賊獅子」の郷土芸能の実演もあり、地域内で相互に知り、交流する新たな機会となった。

住民自身が学び、互いに協働して地域の文化資源を掘り下げる、価値づけていく活動が更に広がって行くことを期待したい。

活動内容

能教室開催

活動日時 | 5~2月 月1回

能「木賊」講座

活動日時 | 10/19

園原ガイドツアー

活動日時 | 10/27

小さなあち芸能祭

活動日時 | 11/24

【出演】

- ・能教室発表 謡「羽衣」・仕舞「狸々」「竹生島」
- ・栗矢銭太鼓保存会 「栗矢銭太鼓」
- ・木賊獅子保存会 「木賊獅子」

コーディネーターより

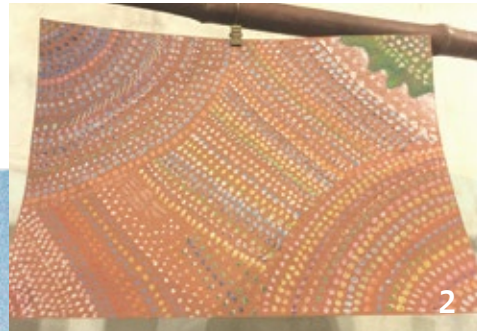
地域の文化資源を掘り下げながら、能動的に関わる住民を担い手としてサポートしていく側面もある阿智村全村博物館の中間支援的活動は、他の地域にとっても学びの多いものだと思う。(野村政之)

大人の居場所「しずかなアトリエ」

アトリエももも

団体所在地 | 茅野市

MAP A03



1 参加者はそれぞれの創作表現を楽しむ
2 しずかなアトリエで制作された作品

しずかな環境で没頭する創作活動

視覚・聴覚的にしずかな環境を好む方にとって職場や福祉施設などの通所先から外れ、行き場がなく居場所を探している人たちが多い現状がある。そういった方が創作表現を通して人と語り合い、心をほぐして楽しく生きる力を培う大人の居場所として始まったのが「しずかなアトリエ」の取り組みだ。

月2回の頻度で開催し、年間延べ参加者は43名で、参加は不定期ながら、来所が難しい方ともSNSや電話でつながりを保ったり、『「しずかなアトリエ」という場がある』ということ自体が心の支えとなっているという。また、支援者や保護者にとっても癒しの時間となり、福祉施設や教育・相談機関と連携することで利用促進や地域への認知拡大にもつながった。

アートサポーターがつなぐ参加者と地域社会

ただしずかに創作できる場ではないのがここの特徴だ。アートサポーターは、参加者が安心して創作に没頭できるように必要以上に干渉せず、自ら制作したりしながら、距離を置いて寄り添いながら支援している。また、しずかなアトリエのアートサポーターが参加者へ声がけをして自身がキュレーターを担う「対話アートNAGANO WEEK2024」への展示も実現させた。展示を通して、観客から感想をもらったり作品が売れたことなどが自信へとつながり作家活動も活発になった。家以外で安心して表現できる場所「しずかなアトリエ」は生きづらさを抱える方にとって社会へつながるきっかけになりエネルギーを育むかけがえのない場となっている。

団体概要

茅野市にある古民家の蚕室をDIYしたアトリエで、年代や障がいの有無などあらゆる枠をこえて、さまざまな人が集まり、アートを通じて交流しています。

活動内容

毎月第1、第3水曜日に開催

第1水曜日 | 13:30-15:30

第3水曜日 | 10:00-12:00 / 13:30-15:30

開催日

5/1 5/15 6/5 6/19 7/3 7/17

8/7 8/21 9/4 9/18 10/2 10/16

11/20 12/4 12/18 1/8 1/15

2/5 2/19

コーディネーターより

障がいの有無は関係なく自分の落ち着く環境で表現活動をしてほしい場所は意外と社会の中で少ない。アートサポーターの付かず離れずの適度な距離を保った寄り添いによって実現している。(佐久間圭子)

“人形劇のまち飯田”から発信 人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

特定非営利活動法人いいだ人形劇センター

団体所在地 | 飯田市

MAP A04



1 「はばたくマリオネットをつくろう」制作中の様子(飯田市) 2 「はばたくマリオネットをつくろう」参加者全員での一枚 3 「みんなで楽しむ人形劇の時間」(山梨県都留市)

人形劇のまち飯田を県内外に広め、根付かせる

飯田市では、今田人形・黒田人形・伊豆木人形の伝統人形浄瑠璃の座・クラブが複数活動し、現在の「いいだ人形劇フェスタ」に繋がる日本最大級の人形劇の祭典を、1979年から毎年開催するなど「人形劇のまち」が市民の間で定着している。

いいだ人形劇センターでは、この「人形劇のまち飯田」が培ってきた文化に親しみを持ってもらうために、令和4(2022)年度から人形作りの出張ワークショップを開催し、令和5(2023)年度には目標としていた県下4地域でのワークショップを達成した。

本年度は、飯山市・佐久市・松川村・松本市・飯田市と県内5カ所で各地域の団体と共催しながらワークショップを実施。いずれの団体もこれまでの2年間にワークショップを実施し関係を築いてきた団体であり、各地域で少しずつ人形劇が根づき始めているのを感じ取ることができる。各地域への出張ワークショップについては、訪問先への交通費が大きな負担となっていたが、本年度は飯山市・佐久市での開催を連続した日程で行うなど、経費の圧縮・削減にも積極的に取り組んだほか、飯田市で開催した張り子のお面作りにおいては、これまで制作に4日間かけていたプログラムを2日間に短縮し、参加のハードルを下げるなど、参加者の声を拾いながら、事業内容の改善に取り組んでいる。

また、本年度は長野県を飛び出し、山梨県都留市での出張ワークショップも開催。いいだ人形劇センターによるワークショップにあわせ、地元・都留文科大学OBの人形劇団による上演も実施するなど充実した内容となった。

県内全域、そして県外と、活動の場を広げていくいいだ人形劇センターの取組にこれからも期待したい。

活動内容

5/25 「はばたくマリオネットをつくろう」
飯田文化会館(飯田市)

8/10 「はばたくマリオネットをつくろう」
信毎メディアガーデン(松本市)

9/3 「ハンドパペットをつくろう」
松川村図書館 すずの音ホール(松川村)

9/28 「モンスターパペットをつくってあそぼう」
飯山市子ども館きらら(飯山市)

9/3 「ハンドパペットをつくろう」
松川村図書館 すずの音ホール(松川村)

9/29 「おやこでつくろうハンドパペット」
佐久市コスモホール(佐久市)

10/14 「みんなで楽しむ人形劇の時間」
教育プラザ都留(山梨県都留市)

10/27・11/24 「張り子でお面をつくろう」
飯田文化会館(飯田市)

コーディネーターより

助成3年目となる本年度は、経費の削減や事業内容の改善など、今後の活動継続に向けた取組を随所に見てとることができたほか、県外でのワークショップも行うなど精力的な1年となった。(藤澤智徳)

Music Art Forest 奏の森Project

特定非営利活動法人F.O.P

団体所在地 | 中川村  MAP 

1 映像作品の一幕とハニカムハウスの大黒柱 2 森の冒険ミュージカルの撮影風景 3 荒れた森を整備する様子

奏の森の記憶がつなぐ未来

奏の森は、2018年から、荒れた森を自らの手で整備しながら築いてきた、自然と人が共に生きる「暮らしを創る広場」だ。伐採した木を活用し、仲間たちと皆で建てた小屋・ステージを様々に使って、環境へのまなざしとアートを融合させた循環型の暮らしを実践している。

今年度は、荒れた森に足を踏み入れた経緯から、「みんなのハニカムハウス」ができるまでの記録など、7年間の活動の軌跡を歌やダンスとともに描いた映像作品『森の冒険ミュージカル&森から家づくりドキュメンタリー「懐かしい未来へ」』を制作した。

完成上映会では、これまで様々な形で奏の森に関わってきた人たちがハニカムハウスに集まり、映像上映と「カナデル幸響楽団」の演奏・ダンスと共に上映を楽しんだ。上映後の「懐かしい未来会議」で、作品への感想や、奏の森への想いなどを語り合った。それぞれの関わりや目線から言葉にするなかで、これまで奏の森が積み重ねてきた沢山の記憶と思い出を分かち合った。未来を見つめるそれぞれの語りからは、ここまでの過程で結ばれてきた人々の熱意や力強さを感じることができた。

子どもたちの居場所づくりや音楽・ダンスのレッスンが行われ、地域住民、多世代の人々が出会い、つながり、学び合って、共に時間を過ごす交流の場となっている。また継続の中で、自然野外保育の取組が保育無償化対象施設に認定されたり、精神障がいや発達障がいを患う人、不登校、不登園児、さらに生き方を学びたい若者が利用を始めた。地域に根差した活動が少しずつ実を結び、奏の森を起点とした人と人とのつながりが広がり続けている。今後は映像作品の県内外での上映も予定されており、その歩みと想いがより多くの場所へ届けられていくことが期待される。

団体概要

伊那谷の自然環境文化を次世代に継承する活動17年。環境活動と音楽芸術を融合し、体験会WS、作品制作、フェスなど、森と人との関係性を結び、循環型の暮らしや感じる・問う・表現すること「生きる力」を育む活動展開中。

活動内容

Webサイト作成

映像作品制作

7～9月 映像撮影

7～2月 映像編集

2/16 「懐かしい未来へ」映像作品試写会
懐かしい未来会議

広報用写真撮影

活動日時 | 4～1月

懐かしい未来会議

活動日時 | 11/10

カナデルJAM・オープンマイク

活動日時 | 4月～2月 毎月1回

収穫音楽祭(カナデルレッスン発表会)

活動日時 | 11/17

コーディネーターより

奏の森が紡いできた物語をより広く、そして未来にも共有できる媒体が出来上がった。関わった人々にとってはホームビデオでもあるこの作品。活動が広まり、物語の続きが紡がれ続けることを願う。(早川綾音)

にちカラ特別企画
「子どもとアーティストのでっこぼっこ劇場2024」

おやこのカラダ

団体所在地 | 松本市  MAP 

子どもとアーティストが創り出す民話の世界

でっこぼっこ劇場は、子どもたちが自らの発想を広げ、話し合いながら進める創作・発表を、アーティストを含む大人がサポートする企画。令和6年度は創作にあてる時間を増やし、子どもたちがそれぞれの得意や関心を深められるように音楽と美術のチームに分けた(結果的には両方とも参加する子どもが多かった)。

地域の民話「泉小太郎」の語りや地域に伝わる太鼓演奏に触れ、着想を得て創作を始めた。古民家施設を存分に使ったパフォーマンスでは、随所にこのメンバーでなければ生まれなかった表現が散りばめられ、たくさん試行錯誤して作品を創り上げていることが伝わってきた。

また上演後には、作品の中で子どもたちがつくった様々なモノを、自分たちの手で分別、処分する「お焚き上げ」も行った。これまでは上演後に大人のスタッフが廃棄をしていたが、循環型の暮らしと表現活動について子どもたちと考える機会として実施した。

親が語り合う子どもたちの成長

特に印象的だったのは、親だけで語り合う場で交わされた言葉だった。子どもたちがでっこぼっこ劇場に参加した背景にはそれぞれの理由があり、学校という枠組みのなかで自分を押し殺してしまったり、学校に通う足が遠のいていた子どもたちも共に活動した。自分の意見や表現が受け入れられ、互いの声を聞き合う安心できる場で、意見や考えが違う他者と認め合える経験をしたことで、目指す夢ができたり、学校に通いだしたり、不安に感じていたことが自信となり、子どもにとってかけがえのない経験となったようだ。

こうして、子育てについての不安や成長の実感について言葉を交わす時間がもてたことは、参加者の親にとっても安心できるつながりを得る機会になっていた。

団体概要

子どもや親子対象の体遊びワークショップを実施。子どもたちの自由な発想を大切に、普段とは違う体の動かし方や遊び方を発見できる場を創っている。ワークショップでは、ダンス、音楽、演劇、美術など多様なアーティストとも積極的にコラボレートしている。

1 子どもたちとアーティストが自由な発想でパフォーマンスを創作
2 影絵で湖の中を表現

活動内容

はじめましての会

開催日 | 7/13 場所 | 喜源治(松本市中山)
参加者 | 小学生21名、保護者14名、ファシリテーター2名
アーティスト3名、撮影1名、喜源治民話の会5名
中山太鼓連8名、アーツカウシル1名

夏のワークショップ4回

開催日 | 7/20・7/21・7/24・7/25
場所 | アルプス公園古民家学習施設(7/20・24・25)
本郷公民館(7/21)
参加者 | 小学1年生から6年生、音楽チーム15名、美術チーム17名
音楽と美術両方参加者11名。実人数21名

秋のワークショップ6回

開催日 | 9/1・9/29・10/26・11/2・11/9・11/16
場所 | 本郷公民館(9/1)第三地区公民館(9/29)
アルプス公園古民家学習施設(10/26・11/2・11/9・11/16)

公開パフォーマンス

開催日 | 11/17 場所 | アルプス公園古民家学習施設および周辺
観覧者 | 約50名

お焚き上げ・座談会

開催日 | 12/8 場所 | 喜源治
参加者 | 小学生14名、保護者8名、ファシリテーター2名
アーティスト3名、撮影1名、喜源治民話の会4名
アーツカウシル2名

コーディネーターより

3年の支援のなかで、おやこのカラダの2人やアーティストのみなさんが子ども一人ひとりに寄り添って安心して表現してもいい環境を生み出す姿勢から多くを学ばせてもらった。(佐久間圭子)

自主上映会と講演会/ ぐるぐるシネマ

ぐるぐるシネマ

団体所在地 | 南牧村

MAP A07



1 公民館での上映
2 映画を観終わったあとは車座になってお茶を片手にお話

農閑期の映画上映会で地域社会を醸成

ハヶ岳の麓、高原野菜の生産地として長野県内でも農業が盛んな南佐久郡南牧村。佐久市内の映画館の閉館により、最寄りの映画館まで車で片道1時間以上かかる状況となった。そんななかで地域の公民館を活用して自主上映会を始めたのが、ぐるぐるシネマの活動だ。

上映する作品は、地域の人たちが観ることを念頭に、メンバーで相談したり、参加者から声を聞いて決めている。令和6年度は能登半島地震が発生したを受けて、珠洲市で日本最古の揚げ浜式の塩づくりに勤しんできた職人たちの姿を追ったドキュメンタリー映画『ひとにぎりの塩』など、オンライン配信では観ることが難しい作品を中心に上映した。

毎回映画を鑑賞した後、来場者で車座になって、お茶を飲みながら感想・意見を交換する。映画のことや自分のこと、地域のこと、世界のことに関心をもち、言葉にする。こうした時間を通じて、同じ地域で様々な思いや希望をもちながら暮らす人々がいることを、参加者同士が知る機会となっている。また上映会の他に、一般社団法人戦災復興支援センター代表・長尾彰さんを招き、いま世界で起きている戦争について考えるための講演会も実施した。

ぐるぐるシネマの取り組みはとてもシンプルで、堅苦しく考えずに集うことができる。上映の後、同じ映画を観たそれぞれの人から出てくる経験や言葉に、さらにもう1本作品を観たような錯覚に陥ったこともあった。映画館に行っても、このような経験をすることは珍しい。映画や講演をきっかけに人が集まり、みんなで思考をぐるぐるとめぐらせることは、地域づくりの一助にもなる大切な機会なのではないだろうか。

団体概要

公民館を活用して開催する小さな村での自主上映会。映画鑑賞を通じ、出会い、繋がり、語らう場。子どもから大人までその回ごとに集まった人達との自由な語らいが、ぐるぐると循環し、過疎地域での豊かな暮らしにつながることを目指す。

活動内容

『ひとにぎりの塩』映画上映会

日時 | 5/2 13:30～/19:00～ 会場 | 市場集落センター

『こどもかいぎ』映画上映会

日時 | 5/26 13:30～ 会場 | 市場集落センター

『ひとにぎりの塩』映画上映会

日時 | 8/13-15 夕方 会場 | 市場集落センター

『人生フルーツ』映画上映会

日時 | 12/5 13:30～/19:00～ 会場 | 市場集落センター

『わらにほん』映画上映会

日時 | 2/6 13:30～ 会場 | 市場集落センター

講演会『いろいろな支援のかたち』

日時 | 2/15 13:00～

会場 | 市場集落センター

登壇者 | お話:WDRAC 長尾彰さん

演奏・歌:太宰文緒さんメルルのみなさん

コーディネーターより

上映会はどんな姿勢で(寝転んでも)いても良い。子どもから高齢者まで老若男女問わず集まり映画を楽しむことができる時間が暮らしのすぐ近くにあることの豊かさを実感することができた。(佐久間圭子)

ゼロカーボン演劇×テント芝居×アーカイブ

劇団野らぼう

団体所在地 | 松本市

MAP A08



1 松本市・あがたの森公園に立ち上がるテント
2 ソーラー発電した電気を使った上演

自前の電力でテント芝居をする

劇団野らぼうでは、近年「ゼロカーボン演劇」と名付けた環境配慮型の演劇創作活動に取り組んでいる。稽古場の屋根に設置したソーラーパネルで発電し、照明や音響など、演劇の上演時に必要となる電力を、自前でまかなっている。

昨年度上演したゼロカーボン演劇『ロレンスの雲』が、「第13回せんがわ劇場演劇コンクール」においてグランプリを受賞し、その副賞として同劇場で、2024(令和6)年5月に新作『内側の時間』を上演した。今年度の劇団野らぼうは、ゼロカーボン演劇の継続と並行して、劇団の旗揚げから目指していたテント芝居の公演形態を実現した。せんがわ劇場での公演は、劇場空間の中にテントを張り、その空間の中で自前の電力で上演が行われる独特の入れ子構造になった。

その後、本格的に野外でのテント芝居公演の準備を進め、9月から11月には、『新装版 内側の時間』テント芝居公演を松本、小金井、浜松の3都市の公園で上演。並行して劇団活動資金を補填するためにクラウドファンディングを実施し160万円余りを集めた。

こうした活動を通して、劇団野らぼう／ゼロカーボン演劇は、演劇界や県外からも注目を集めつつある。時代状況やテクノロジー、環境の変化によって演劇そのものの形態が更新されていく、その一つのあり方として、ゼロカーボン演劇のテント芝居は、端的なモデルかもしれない。意識を同じくする他ジャンルのアーティストや再生可能エネルギー、地球環境問題に取り組む関係者からも認知されてきており、今後はそうした人々との協働・共創の可能性も生まれている。信州から新しい芸術表現のかたちを発信していく可能性を秘めた取組である。

活動内容

ゼロカーボン演劇・テント芝居上演

5/31、6/1

『内側の時間』東京都調布市・せんがわ劇場

9/20～22

『新装版 内側の時間』松本市・あがたの森公園

10/13

『新装版 内側の時間』東京都小金井市・武蔵野公園

11/3

『新装版 内側の時間』静岡県浜松市・佐鳴湖公園

12月～2月 アーカイブ作成

コーディネーターより

劇団野らぼうの上演は、形態が現代的であるだけでなく、演劇賞受賞が示すように内容としても充実している。とはいえ現状、活動持続の盤石な基盤があるわけではない。その観点でも応援をしていきたい。(野村政之)

動きと表現・時々ミングル

さくほミングル

団体所在地 | 佐久穂町 MAP A09



1 身体表現ワークショップ中の子どもたち 2 車椅子の方と子ども、障がい者支援施設のスタッフが歩み寄る 3 破いて丸めて、新聞紙の音を使ったWS

身体表現と音を通じて「違い」をミングルする空間

佐久穂町を中心に活動するさくほミングルは、括りや所属、特性に関係なくさまざまな人が「ミングル」しながら共に身体表現を楽しむ取組を行っている。

活動の主な対象となっているのは、放課後等デイサービス施設「らいおんハート遊びリテーション児童デイ佐久穂」(以下「らいおんハート」)に通う子どもたち。らいおんハートには、さまざまな特性を持つ子どもたちが異なる地域・学校から集まっており、地域や所属によって別れがちなコミュニティが混ざり合う場所でもある。さくほミングル代表の大村麻弥さんは、自然に多様な所属の子どもたちが共にいる空間に可能性を感じ、本活動が生まれたという。

本年度は、勉強会と5回の身体表現ワークショップを実施。砂連尾理さん、竹田栄次さん、大村さんがワークショップのファシリテーターを務めた。勉強会では、映画「へんしんっ!」を鑑賞。複数の福祉関係者が集まり、全員で障がい者の表現活動について考える時間となった。ワークショップには、らいおんハートの子どもたちをはじめ、キッズダンスクラブに通う子どもや高齢者福祉施設、車椅子の方、障がい者福祉施設など、各回ごとに多様な所属の人が参加。いろいろな身体の動きと音が響くワークショップの場は、それぞれが違う身体に歩み寄り、共にある空間となっていた。らいおんハートのスタッフにとっても、初めての場や人に警戒しがちな子が身体表現の中でほぐれていくなど、新たな発見の場になっていたようだ。

この1年間の活動を経て、らいおんハートとさくほミングルが目指す、活動の方向性を見出したという。次年度は持続可能な活動体制の整備に加え、本活動を地域に伝えていく活動を展開する予定だ。

団体概要

佐久穂町を中心に団体・施設と連携しつつ、身体表現を通じて、様々な人を所属や括りに関係なく“ミングル(=混ぜる・一緒にになる)”することで、気づきや変化・共に分かち合う場を育む活動を展開している。

活動内容

5/6 身体表現ワークショップ

活動場所 | 佐久穂町高齢者福祉施設「花の里ふれあい」
参加者 | 花の里入居者、らいおんハート佐久穂の子どもたち

6/19 映画「へんしんっ!」上映・勉強会

活動場所 | らいおんハート佐久穂
参加者 | らいおんハート職員、障がい者支援施設職員
佐久穂町キッズダンス講師

7/20 ミニフェスタ1

活動場所 | らいおんハート佐久穂
参加者 | らいおんハート佐久穂の子ども、キッズダンスの子ども
親子や小学生たち

9/28 身体表現ワークショップ

活動場所 | 佐久穂町茂来館
参加者 | らいおんハート佐久穂の子どもたち
2箇所の福祉施設の車椅子使用者

11/10 ミニフェスタ2

活動場所 | らいおんハート佐久穂
参加者 | らいおんハート佐久穂の子どもたち
佐久穂町の親子や小学生、車椅子使用者

2/11 身体表現ワークショップ

活動場所 | らいおんハート佐久穂
参加者 | 陽だまりの家関係者、地域の方

コーディネーターより

身体表現という言葉によらないコミュニケーションを通じて、違いを尊重しながら楽しむ場が自ずと生まれていた。地域に芽を出したあたたかなつながりが広がっていくことを期待したい。(早川綾音)

「みつばちプロジェクト」

～あーとが届かない子どもたちのところに あちこちまわってあーとをお届けします～

NPO法人サポートC

団体所在地 | 茅野市 MAP A10

1 劇団シアターランボンの皆さんと
@岡谷で子ども食堂を真剣に考える会「だるま食堂」
2 ダンボールで工作「ひみつのきちをつくらう」
@ちの地区こども館「永明わくわく館」子どもの文化体験機会を
地域の連携で創る、を、続ける。

「みつばちプロジェクト」は、文化芸術に触れる機会が少ない子どもたちに「あーとをお届け」することを目指して、令和4(2022)年度にスタートした。音楽、演劇、工作、ジャグリング、落語などのワークショップや公演を、諏訪圏域の子ども食堂やフリースクール、地区こども館、児童養護施設、障がいのある子どもたちの学童保育等と連携して開催。それぞれの居場所の子どもの特性や、子どもたちの文化芸術への興味の持ち方の違いを考慮して、どんなプログラムを届けるかを決めている。

居場所のスタッフの方も、子どもたちの楽しむ姿を見て、アートを体験する機会を提供することが必要だと感じ、その居場所に合う内容のリクエストをするようになったという。参加パフォーマーもプロジェクトの趣旨に賛同し、子どもたちに寄り添った双方向的なパフォーマンスで楽しませてくれている。

来場した子ども達には、地元富士見高校養蜂部の生徒がデザインしたみつばちイラストのオリジナル缶バッジを配り家族の話題のきっかけにしている。昨年度のバッジをつけて参加する子もあり、リピーターの親子が日常的に連絡を取り合うようになるなど、みつばちプロジェクトを媒介にした新たなコミュニティ形成にも発展。3年間の継続的な活動によって、それぞれの関係者、担い手にとって身近な活動になり自然に根付いてきていることに、サポートCで事業を運営する皆さんも手ごたえを感じている。

他方、依頼がありながら調整がつかなかった居場所もある。文化を含む子どもの体験格差の深まりが指摘される中で、こうした活動を地域で継続していくために、多様な主体が支える環境を整えていくことが必要といえる。

活動内容

茅野市米沢地区こども館「のびっこ広場」
7/21 工作「へんてこすいぞくかん〜みずべのいきものをつくらう〜」
12/6 柏木陽 ためし演劇

この街きず放課後等デイサービス「ふ〜もん」 8/9 たもん ジャグリング
子どもカフェ「カラコエ」
9/22 浜正和 パルーンアート 12/7 たまごプリン 楽器パフォーマンス

子ども食堂「コム・きっちゃん天香」宮川かんてんぐら
10/10 たもん ジャグリング
11/14 加藤綾子「ヴァイオリンってどんな楽器?」
わくわくキッチンin楽人 10/12 西田豊子 演劇ワークショップ

岡谷で子ども食堂を真剣に考える会「だるま食堂」
10/20 (株)やすら樹社長 岩垂俊樹
～捨てられちゃうものを使って思いうかんだものを自由に作ろう～
12/15 劇団「シアターランボン」演劇
1/19 桂咲之輔 上方落語

茅野市米沢小学校学童クラブ 10/25 たもん ジャグリング
児童養護施設「つつじヶ丘学園」 10/26 たもん ジャグリング
こもアート食堂 11/23 ねこじゃらし 人形劇
茅野市金沢小学校学童クラブ 12/11 おでかけ隊 愉快的演劇

ちの地区こども館「永明わくわく館」
12/19 ダンボールで工作「ひみつのきちをつくらう」
茅野市塚原区民館 塚原区子ども育成会 1/18 桂咲之輔 上方落語

コーディネーターより

地域課題に向き合いながら、子どものアート体験機会を媒介に様々な主体と連携し、日常の中で支え合う新たなコミュニティづくりに繋ぐ。このモデル的実践が継続するために、皆で力を合わせたい。(野村政之)

環境変化と民話／過去の気候変動に関わる民話や、近年の気候変動に伴う環境変化から市井の人々に起こった出来事も採集し、現代生活に活かすため、表現として、後世に残すプロジェクト。

ちいさがた未来民話研究会

団体所在地 | 上田市  MAP **A11**



1 創作民話劇「鳴動～音が伝える災害の警鐘～」中川村公演の様子 2 創作民話劇「鳴動～音が伝える災害の警鐘～」南木曽町公演の様子
3 南木曽町公演の会場にて、災害時の服装をてるて坊主に描く取組。

多様なアーティストとのコラボで創る災害警鐘劇

ちいさがた未来民話研究会は、災害や気候変動に関する民話を収集し、それらを演劇・朗読・音楽などを用い、新たな表現として語り直す活動を行っている。活動をスタートした令和5(2023)年度には、信州AC助成事業として、創作民話劇『鳴動～音が伝える災害の警鐘～』を制作し、松本市にて上演を行った。

プロジェクト2年目となる本年度は、飯島町在住の人形師・どんどろ流百鬼ゆめひなを出演者に迎えて『鳴動』を再創作し、南木曽町・中川村の2地域にて公演を実施。『鳴動』に登場する民話「蛇抜け」が伝わる木曽地域、そして「現代の民話劇」を目指すちいさがた未来民話研究会にとって志を共にする人たちが活動拠点とする「奏の森」で上演した。

各地域では上演と合わせて、地元のアーティストのパフォーマンスを行った。南木曽町では、「木曽ペインティングス」から派生したアーティスト・コレクティブ「galaxy route nineteen (GR19)」によるライブ演奏が行われた。中川村では、会場の「奏の森」を拠点に活動する「カナデル幸響楽団」と甕えみさんによるライブ・書道パフォーマンスが行われた。各地では地域の飲食店の出店もあり、それぞれの色合いが表れた公演となった。

ちいさがた未来民話研究会とこれらの団体とのコラボレーションは、信州アーツカウンシル主催事業「Shinshu Arts-Climate Camp」での気候変動や環境問題についての学び合いから発展したものだという。今後も関心を共有する人たちと協働しながら、目下の気候変動や災害を「現代の民話」として表現していく予定であり、アートからの気候アクションとしても引き続き注目していきたい。

団体概要

2023年設立。信州の各地域に伝わる民話や伝承を、演劇・朗読・パフォーマンス・映像等で表現。一般の方々に楽しく、わかりやすく伝わる作品づくりを目的とした活動を行っている。

活動内容

創作音楽民話劇公演「鳴動2024」

総合演出：仲田恭子（アートひかり）
出演：姫凜子（パフォーマー・企画原案）
大隅健司（声・パーカッションなど）
葛目絢一（ホーメイ・イギルなど）
○特別ゲスト ＊百鬼ゆめひな（ひとかた人形師）

【南木曽町公演】

日時：10/13
会場：きこりの家（木曽郡南木曽町読書1390-1）
○地域アーティストによるパフォーマンス
＊galaxy route nineteen

【中川村公演】

日時：10/27
会場：奏の森（上伊那郡中川村片桐 1954）
○地域アーティストによるパフォーマンス
＊カナデル幸響楽団（歌・演奏）
＊甕えみ（書家）天竜川源流の湧水で磨った墨による「書」のライブパフォーマンス

コーディネーターより

信州ACの実施事業で新たな出会いを重ね、そこで意気投合した人々を次々に巻き込みながら、今まで誰も見たことがない表現を眼前させる。これからの活動も目が離せない。
（藤澤智徳）

MIKUSA PROJECT 2024

Torus Vil.

団体所在地 | 松本市  MAP **A12**



1 MIKUSA ONDO
2 新野の盆踊り リサーチ

地域の伝統文化と現代的な表現 橋を架ける試み

音楽家・佐藤公哉さん率いるTorus Vil.ではこれまで全国各地の郷土芸能や伝承歌を取材。そこから身体の使い方やリズム、発声などから新たな音楽やダンスを創作する「MIKUSA PROJECT」に取り組んでいる。

これまで県内では、阿南町の「和合の念仏踊り」や、天龍村の大河内地区の霜月神楽などに、ミュージシャン・ダンサーとともに参加し、伝承者の稽古を体験した上で、新たな楽曲、パフォーマンスを創作、上演している。

今年度は阿南町の「新野の盆踊り」をリサーチしたほか、メンバーが在住する松本市の郷土芸能である「ぼんぼん・青山様」についても取材し、それぞれ輪踊りの音楽と振付を新たに創作した。

11月2,3日にまつもと市民芸術館シアターパークで行った今年度のメインイベント『MIKUSA ONDO』は、ライブハウスや劇場で行う通常のコンサートとは異なり、文化施設の広いロビーの一角を、街場の盆踊り会場に見立てたような空間での上演。当日の来場者にも輪踊りの踊り手になってもらう「観客との関係の作り方」という意味でも、また劇場ロビーという「文化施設の使い方」という意味でも新しい実験を含んだものであった。輪踊りを踊ることで、通常「やる人」と「みる人」が「舞台」と「客席」に向かい合って分かれる現代の上演形態では生まれづらい、一人ひとりが見合う／見せ合う関係性が生まれた。

これまで県内外の郷土芸能をリサーチを重ねて創作してきた楽曲の数々を、今後、レコーディングした音源としてリリースする構想もあるという。民俗芸能の魅力が、未見の人たちにも広く伝わる活動として更に展開していくことに期待したい。

団体概要

音楽家・佐藤公哉が発足したプロジェクト／ネットワーク組織。伝統的な文化・芸術のリサーチを行いながら、現代に必要とされる文化のエッジを生み出すことを目指す。音楽を中心にダンスや美術なども合わせ公演、ワークショップなどの企画・開催を行う。

活動内容

7/6 「新野の盆踊り」の取材
7/27 「ぼんぼんの歌」取材（あがたの森文化会館 木下守館長）
8/4 あがたの森公園での夏祭りで「ぼんぼん・青山様」を見学
8/16-17 「新野の盆踊り」 本番の取材
9/8・9/17・10/10・10/21 ミュージシャン、ダンサーによるクリエイション、リハーサル

11/2-3 『MIKUSA ONDO』開催
@まつもと市民芸術館シアターパーク
音楽：佐藤公哉（唄、サンブラー）、権頭真由（唄、他）
辻村豪文（唄、ギター）、KUDO AIKO（唄）
踊り：鈴木彩華、二瓶野枝／空間演出：小林響
音響：五加音響研究所

【11/2】 ゲスト出演：金原渚（「新野高原盆踊りの会」音頭取り）
トークセッション登壇：大石始（文筆家）、金原渚
藤原佳奈（戯曲作家/演出家） 出店：sabouしが、あなぐま酒場

【11/3】 ゲスト出演：山本扶美枝（民謡歌手）
トークセッション登壇：菊地徹（菜日代表／松本市議会議員）
野村政之（信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター）
藤原佳奈（戯曲作家/演出家） 出店：kajiya、ヤマベポッサ

コーディネーターより

民俗芸能の魅力を身近に感じることができる回路が生まれることに加え、青山様の取材で継承の課題に触れることとなったように、あまり知られない現状に目を向ける意味でも重要な活動だと思う。（野村政之）

一人劇祭 伊那谷化けるんです。

だんどうろ流百鬼ゆめひな

団体所在地 | 飯島町 MAP **A13**



1 「だんどうろ寺子屋」参加者での一枚 2 2回目となる「伊那谷化けるんです」は満員御礼の内に幕を閉じた 3 「だんどうろ寺子屋」人形制作の様子

地域全体で芸能を育み、広めていく

「一人劇祭 伊那谷化けるんです。」と名付けられた本事業は、飯島町を拠点に人形師として活動しているだんどうろ流百鬼ゆめひな・飯田美千香さんが、師匠である人形師「百鬼だんどう」岡本芳一が90年代に企画した「アジア人劇祭」を新たな形で復活させたもの。2回目となる今回は2024（令和6）年12月1日に開催し、県内外3組のソロパフォーマーが、30分～70分のパフォーマンスを披露した。開催にあたっては、地域社会・コミュニティとの連携を重視し、飯島町内外の企業から協賛を募ったほか、会場設営・テクニカルワークにおいては地域のクリエイターや劇団の協力を得て実施した。

また、本年度から新たな試みとして「だんどうろ寺子屋」をスタートした。6月から11月までの6ヶ月間、9名の参加者が月1～2回のペースでアトリエに集い、人形制作から上演までを一貫して取り組んだ。人形制作の指導は飯田美千香さんが中心となり、課外授業として、奏の森（中川村）や伊吹あいパレスタジオ（飯田市）に出向き、地域のクリエイターを講師としたレッスンも実施した。全体として、人形を実際に動かし、演じるに当たっての基礎的な発声方法や身のこなし方などを学んだ。

「だんどうろ寺子屋」は、飯田さんが師匠から継承した“一人劇”スタイルの芸能を、これから如何に続け、残していくのか、という課題意識から派生して始まった。地域の住民やクリエイターとともに学び、創り、演じるという、共創の場づくりを通じて、課題に取り組もうとしている。参加者の大半が継続して参加したい意思があるそうだ。飯島町で根付き広がっていく“一人劇”の動きにこれからも注目していきたい。

団体概要

人形師・百鬼ゆめひなが中心となり設立。“ひとがた”と呼ばれる等身大人形を用いた“一人劇”の独自のスタイルでの公演や、奉納演舞や古典芸能とのコラボほかジャンルに囚われない活動を積極的に行っている。

活動内容

- 6/22 第1回 だんどうろ寺子屋
- 7/27 第2回 だんどうろ寺子屋
課外授業：ボイストレーニング
講師／福澤歩 於 奏の森（上伊那郡中川村）
- 8/24 第3回 だんどうろ寺子屋
- 9/15 第4回 だんどうろ寺子屋
課外授業：パレエ&発声レッスン
講師／伊吹あい 於 伊吹あいミュージカルスタジオ
- 10/5 第5回 だんどうろ寺子屋
- 11/4 第6回 だんどうろ寺子屋
- 11/23 《だんどうろ寺子屋 発表会》於 ゆめひなアトリエ
- 12/1 一人劇祭「伊那谷化けるんです。」公演実施
- 12/7 関係者との打ち合わせなど

コーディネーターより

“一人劇”という芸能スタイルを、人形師・百鬼ゆめひな個人だけでなく、いかに地域芸能として広げ、根ざしていくのかに真摯に向き合い、挑戦した事業だった。（藤澤智徳）

こもろのおうち・子供アトリエ かぴら・かぴら

特定非営利活動法人ながのアートミーティング

団体所在地 | 長野市 MAP **A14**



1 プロの機材で写真撮影をするWS 2 色だけで朝食べたものを表現 3 陶芸家を講師に迎えてオリジナルの食器づくり

支え合いを生む、子どもたちに寄り添うアートの居場所

月に一度、小諸市にある空き家に賑やかな声が満ちる日がある。こもろのおうちは、小諸市にある空き家を活用し、主に生きづらさを抱える子どもや大人に自己表現の場を提供するため、多様な芸術分野の専門家を講師に迎えたワークショップを開催している。

漫画イラストで感情を描くワークショップや、プロの撮影機材を使った写真撮影、版画や陶芸、木工など、幅広いプログラムを実施。継続的な活動の中で、不登校の生徒が毎回参加するようになったり、コミュニケーションが苦手な子どもが講師とは自然に言葉を交わすようになったりなど、嬉しい変化も生まれている。加えて、親同士の情報交換や、講師と地域の関わり合いの機会にもなるなど、それぞれの参加者にとって安心して自己表現と交流ができる居場所となっている。今年度の新たな取り組みとして「出前アトリエ」を実施し、こもろのおうちに来ることが難しい子どもたちへも、自己表現の場を届ける活動を行った。

2月には、1年間の活動がぎゅっと詰まった作品展を開催。個性溢れる参加者の作品や講師の作品のほか、毎月の活動をまとめたフリーペーパー「こもろのおうち通信」も展示された。作品展は、参加者の作品発表の機会になるとともに、ワークショップの参加とは異なる角度から活動を共有し開いていく場となっている。

活動の認知が広がるとともに、多様な子どもたちが参加するようになり、それぞれ特性に応じた人的サポートや空間の分割などの課題も見出されている。今後、医療・福祉の専門家と連携した受け入れ体制整備や、出前アトリエの拡大に取り組んでいく予定となっており、一層の活動の定着が期待される。

活動内容

- 4/28 漫画イラストで 喜怒哀楽を描こう！講師：CHIIHIRO（漫画家）
- 5/26 こもろのおうちが写真館に大変身！講師：大木文彦（写真家）
- 6/23 色と色、まぜたら何色？いろ博士！講師：油井祥子（画家）
- 7/28 スツール？テーブル？はじめての家具作り！①講師：出光晋（木工家）
- 8/25 スツール？テーブル？はじめての家具作り！②講師：出光晋（木工家）
- 9/29 これで何食べる？あったらいいの食器を作ろう！①
講師：角りわ子（陶芸家）
- 10/27 これで何食べる？あったらいいの食器を作ろう！②
講師：角りわ子（陶芸家）
- 11/24 君が描いて、僕が彫る！？コラボでカードを彫ろう！
講師：田嶋健（版画家）
- 12/1 Movieツェキューブをつくろう！
講師：講師：ハナサトミツキ（画家・イラストレーター）
- 1/26 重ねて描いてSDGs！講師：森泉智哉（画家・イラストレーター）
- 2/24-3/2 こもろのおうち かぴら かぴら作品展（入場者234名）
- 7/25 出前ワークショップ
長野県動物愛護センター子どもサポート事業みんなラポール①
講師：森泉智哉（画家・イラストレーター）
- 8/17 出前ワークショップ
色と色、まぜたら何色？いろ博士！@座光寺邸
- 11/28 出前ワークショップ
長野県動物愛護センター子どもサポート事業みんなラポール②
講師：プリチャード香里（写真家・ライター）

コーディネーターより

用意された内容以外の自由な制作も可能な体制を作っていたり、人の多い場所が苦手な子どもは場所を分けて活動したりなど、子どもたちが安心して表現できるよう丁寧な場づくりが行われていた。（早川綾音）

若手育成のための上演プログラム

人形芝居燕組

団体所在地 | 松本市

MAP A15



1『さんびきのこぶた』金沢地区コミュニティセンターでの上演の様子
2『さんびきのこぶた』

創作と実践を通して、人形劇の実演家を育てる3年間

松本市を拠点に国内外各地で人形劇の上演活動を行っているくすのき燕さんと人形劇を創作し、鑑賞機会が限られる子どもたちの居場所に赴いて上演を重ねる活動を通して、長野県内で人形劇の実演家を育成することを目的とする取組の3年目。

初年度、令和4(2022)年は、新作人形劇『さんびきのこぶた』を創作。県内在住の実演家、井川ちなみさん、成田明加さんがダブルキャストとなり、くすのきさんとペアを組んで県内各地の保育園等で上演を行なった。

2年目の令和5(2023)年度には、『さんびきのこぶた』と併せて上演する短編の作品『タマゴサーカス』を、人形美術作家の吉澤亜由美さんの指導のもと人形作りから取り組み、稽古を経て試演会を実施した。

本年度は、『さんびきのこぶた』と『タマゴサーカス』の稽古を重ねて、井川さんと成田さんの2人で上演を行える体制を整え、県内8ヶ所において、保育園や子ども食堂、地元団体と協働し、上演を行った。長野ろう学校での公演では字幕付きで上演する工夫を施し、森の学び舎(南箕輪村)公演では多文化LIFE(箕輪町)と協働し、地域に暮らす在留外国人の親子を主な対象に公演も実施した。ブラジル人の方から「涙が出るほど嬉しかった」と喜びと感謝の声が寄せられた。

この助成事業以外にも、全国各地の劇場や人形劇フェスティバル、被災地域での上演など、人形芝居燕組としての上演経験を積み重ねている。

「せめて1年に1回、生涯を芸術に捧げた人の表現を子どもたちに見せたい」というくすのき燕さんの強い思いからこの取組は始まった。様々な人の支え合いを通して、これからも活動が継続していくことを期待したい。

団体概要

人形芝居燕屋のくすのき燕が、2022年に県内の若手俳優と立ち上げた団体。人形劇作品の創作を行い、保育園・幼稚園などでの作品上演を通して、人形劇のアーティスト育成を行なっている。

活動内容

- 4/14 飯田人形劇定期公演(飯田市)
- 6/8 峰の原高原集会所(須坂市)
地元団体:Ne.co/みどりの図書館
- 9/18 長野ろう学校(長野市)
- 11/16 森の学び舎(南箕輪村)
地元団体:多文化LIFE
- 11/17 荒木公演館(長野市)
- 12/8 金沢地区コミュニティセンター(茅野市)
地元団体:NPO法人サポートC
- 12/14 神林公民館(松本市)
地元団体:ヒッポポ子ども食堂
- 1/19 南牧村集落センター
地元団体:ぐるぐるシネマ

コーディネーターより

人形芝居燕組の人形劇は3年間を通して延べ7回ほど拝見した。見るたびに2人の成長と新たな気づきが随所に見出すことができ、見ていて全く飽きなかった。(藤澤智徳)

ネイチャーピアノ～未来への鐘～

ネイチャーピアノ

団体所在地 | 伊那市

MAP A16



1 本番では、大鹿小中学校の児童・生徒も参加した 2 コンサート当日の様子。大鹿歌舞伎にあやかったご祝儀もたくさん集まった
3 会場となった大西公園。天気にも恵まれ多くの人が集まった

ピアノでつなぐ、過去の自然災害と今を生きる人々

伊那市在住のピアニスト平澤真希さんが中心となり、自然の中にグランドピアノを運び込み、演奏するプロジェクト。昨年度は7月に、伊那市の入笠山の森、標高1,700mの国有林の中で特別に許可を得て実施し、清涼な空気に包まれながら、鳥のさえずりや小川のせせらぎとともにピアノの演奏を鑑賞した。

本年度は、下伊那郡大鹿村の大西公園に敷設されたコンサートステージで実施した。自然の大きな力を感じさせる大西公園は、昭和36(1961)年、未曾有の豪雨により伊那谷一帯に甚大な被害をもたらした「三六災害」の際、集落を呑み込む大崩落が発生した被災の跡地であり、慰霊の場となっている。

ショパンの「バラード4番」やリストの「ラ・カンパネラ」、平澤さん作曲のオリジナル曲などを演奏。準備の過程で平澤さんが赴いてワークショップなどを行った大鹿小・中学校の児童・生徒もステージにあがり、「翼をください」「ふるさと」の合唱も披露した。また、大鹿村に伝わる重要無形民俗文化財「大鹿歌舞伎」にあやかり、ご祝儀やおひねりなども実施。ピアノ演奏や合唱に対して沢山おひねりが投げられ、大鹿村ならではの光景となった。

発生から半世紀以上が経ち、人々の中から徐々に薄れていく三六災害の記憶を、ピアノの音色を通して、今を生きる私たちへとつなげていくこと。気候の変化や災害の激甚化が叫ばれる現代社会への警鐘とすること。自然がもたらす「恵み」や「癒し」だけではなく、自然の「脅威」にも目を向けて備えること。自然の中でピアノを奏でるという手法はこれまでと同様ながら、本年度の取組は今を生きる私たちに一層響くものとなった。

活動内容

- 4/25 大鹿村教育委員会・小学校との打ち合わせ
- 6/24 会場となる大西公園の下見
- 9/2 大鹿小学校での合唱指導を実施
- 9/10 大鹿小学校・大鹿中学校でのキャリア教育授業を実施
- 9/15 ネイチャーピアノ本番

コーディネーターより

自然がもたらす恵みや癒しに主点が置かれた昨年度の公演に対し、本年度は、自然がもたらす恐れや脅威を忘れずに後世に伝えていく試みと言える。自然災害が増える現代だからこそ取り組むべき内容。(藤澤智徳)

伝統文化おやこ体験フェスタ

特定非営利活動法人ふるさと芸能研究所

団体所在地 | 伊那市  MAP **A17**



1 地域の芸能団体・出演者全員での一枚 2 まゆ玉飾り作りの様子 3 和太鼓体験の様子



活動内容

「伝統文化おやこ体験フェスタ」

活動場所 伊那市生涯学習センター
ニシザワいなっせホール
活動日時 1/13

プログラム

- 1、えらべるワークショップ
 - ・和太鼓
 - ・獅子舞
 - ・南京玉すだれ
 - ・染め付け体験
 - ・まゆ玉飾り作り
- 2、伝統文化公演
 - ・ざんざ節とキンニョンニョの実演
 - ・田楽座

コーディネーターより

まゆ玉飾りは、私も幼少期に祖父・祖母と一緒に作った記憶がある。かつて自分が体験したことを、自分の子どもと一緒に体験した人もいたかもしれない。様々な角度から楽しめる事業だと思う。(藤澤智徳)

障がい者と地域を結ぶオープンアトリエ事業 絵本作家と 土絵具づくりと土で描く会

NPO法人WHITE CANVAS

団体所在地 | 安曇野市  MAP **A18**



1 絵本作家斎藤慎さんによる土絵の具ワークショップ 2 国際ボランティアが利用者の制作をサポート



活動内容

週末ワークキャンプ

7/13-14

国際ワークキャンプ

9/8-9/15
ベトナム、インドネシア、メキシコ、日本4カ国6名参加

ワークショップ

9/13-14
講師 | 斎藤慎(絵本作家)

活動展示@穂高中央公民館

9/25-10/8

展示@高橋節郎記念美術館

10/20-10/27

コーディネーターより

地域にひらかれることで障がいのある方の創作表現に触れるだけでなく、会場ひとつとっても物理的な困難があることや福祉の国際事情まで知り考えることができる稀有な取り組み。(佐久間圭子)

地域と世界を福祉でつなぐアートの現場

手厚い支援を必要とする大人のためのものづくりのアトリエ(生活介護事業)「TIME WARP」では、日常生活を送りながら芸術活動やものづくりの仕事に取り組んでいる。アトリエを地域社会と共有し、障がいという個性を生かした芸術活動を通じた認知向上を図ることを目的に、令和5年度にこの事業を開始した。

本年度は絵本作家の斎藤慎さんを講師に迎えて、安曇野をはじめとした日本・世界各地の様々な色あいの土から土絵の具を作り、絵を描くワークショップを行った。1日目は利用者と一緒に絵の具を作り、それぞれが描きたいものをどんどん生み出した。2日目は斎藤慎さんが普段制作している絵本の制作工程を体験しながら、参加者で色付けし、組み合わせてひとつの大きな作品制作に挑戦した。この過程を通して、普段は漢字の「無」ばかり書いていた利用者が、土絵の具に触れたことをきっかけに「有」を書き始めた、という、印象に残る出来事もあった。

また、ワークショップの共同作業で制作した作品を、「対話アートNAGANO WEEK 2024」の関連企画展として、無印良品ツルヤ安曇野穂高の店舗内で展示することができ、より多くの方に知っていただく機会となった。

この取り組みの特徴として、国際ワークキャンプによるボランティアの関わりがある。アジアや中米から6名のボランティアが集まり、約1週間の共同生活を送りながら、アトリエの利用者との関係性を築き、ワークショップの際には積極的に制作サポートを担った。言葉が十分に通じ合わないからこそ、言葉で表現することが難しい利用者との関わりにおいても、言語に頼らずに協働ができる。多様な人が関わりあうことの想像以上の効果をみる機会となった。

つながりアートプロジェクト ～文化芸術による地域包括的支え合い活動～

むらびとアートプロジェクト

団体所在地 | 宮田村  MAP **A19**



1 毎月定期開催のオープンマイク 2 喜多屋で和楽器の演奏会 3 みやだのまちなかフォトコンテスト写真展

文化芸術を通じた包括的地域づくりの取り組み

本事業は、宮田村で障がいの有無や年齢を問わず、誰もが文化芸術活動を通じて繋がりを深め、互いに助け合いながら生きがいを持って暮らせる社会づくりを目指した活動である。本年度は特に、参画型イベントの充実を図り、オープンマイクを月1回定期開催した。地元アーティストや障がい者が音楽を通じて交流し、プロ・アマの垣根を超え、人前で表現したり練習の成果を披露する機会として多くの方が気軽に楽しむことができる場となっている。生きづらさを抱えている若者や障がいを持つ人たちにとっては一歩を踏み出す場であり、アーティストと住民のネットワークが広がる機会でもある。

また、障がい者のなかで芸術的価値の高い作品づくりをしても認知が広がらないことも多いことから、青木星斗グラフィックアート展や「風と太陽」展など取組を通して、才能が開花できるような活動の場、社会との接点を作り出すことを試みている。

宮田宿の町並み保全を意識した写生会や撮影会、フォトコンテスト、文化財「喜多屋東蔵」での演奏会やプロジェクションマッピングは、文化的価値の高い町並みを気軽に楽しみながら残していく魅力発信や景観保全活動として注目されている。今後は村との連携も視野に入れて展開していく。

他地域と同様、高齢化による店舗の閉店や古い建物の取り壊しが進行していくなかで、むらびとアートプロジェクトでは、引きこもりの住民や障がい者を巻き込みながら、街の活性化にも積極的に関わり繋がる場を創り出している。商店街と連携しながら、障がいの有無を問わず、共存、協調するあり方を模索することで、持続的な地域社会が見出されることを期待したい。

団体概要

様々な年代の人達が、文化芸術活動を通じて繋がりを深め、障がいの有無を問わず、助け合いながら、生きがいを持って暮らせる地域づくりを目指した活動を展開します。

活動内容

- 5/11 【環境音楽ライブ】第15回ふれあいフリーマーケット
- 6/30-7/28 青木星斗グラフィックアート展（障がい者アート）
- 7/14 【街並み保全景観イベント】宮田宿を描く&宮田宿を撮す
- 8/17 【まちなかを観て知って楽しみそして守る】あめんぼうを作ろう+音と光のアート音楽会 和楽器の演奏&プロジェクションマッピング
- 10/21 【街並み保全景観イベント】むらびとアート 景観ライブ IN宮田市
- 11/4 【みやだのまちなかフォトコンテスト】写真展 表彰式
- 11/24 みんなでカナデルライブ
- 10/21 【開花するうた・リズム・いのち吉本有里&力武誠】ストーリーのある音楽会
- 12/1-12/29 風と太陽展
- オープンマイクDAY
第3日曜日 5/12 5/19 6/16 7/21 8/18 9/15 11/17 12/15 1/19 2/16

コーディネーターより

むらびとアートプロジェクトはとにかく多彩な活動で、この地域に暮らす多様な住民たちが芸術を通じて混ざりあって認め合える環境がどんどん醸成されている。(佐久間圭子)

路地の開き 障害福祉施設の日常を開き「身近な未知」との遭遇についての展示

特定非営利活動法人リベルテ

団体所在地 | 上田市  MAP **A20**



1 展覧会「路地の開き2024 その日、何してた? あの日、この目で見返そうの巻」の様子
2 展覧会会期中に行われた「リベルテの窓」オープンイベント

「ある日」の記憶を振り返りながら、 未来への関係を積み重ねていく

リベルテでは、障がい福祉事業と文化事業を並行して行いながら、メンバー（通所者）へのケアをきっかけとして、表現活動を通じて地域に施設を開き、「障がい」や「福祉」の意味や価値を変えたり、広げたりする試みを行っている。「路地の開き」と銘打った近年のプロジェクトでは、メンバーと参加者が市街を歩くパレードや、メンバーと地域の関わりを体験する街歩きコースを実際にメンバーの案内で歩くイベントなどを行ってきた。

本事業以外の自主企画も含め、リベルテの本年度の活動の中心にあった関心は、自然災害などの状況下において、地域の人々と障がい者や、障がい者同士が、ともに暮らす、互いに助け合う関わりを想像／創造することといえる。

それはまず、施設で共に夜を越すことから始まる。通所型の障がい者施設は宿泊する想定自体が災害時の避難訓練に近い非日常。外泊そのものが希少な経験である障がい者も多い。

さらに、メンバーとスタッフが一緒に宮城県まで一泊の集団旅行を試みた。東日本大震災の経験を踏まえ、障がい者と共に生き、孤立を防ぐ取組を続けているNPO法人ボラリスを訪問した。

こうしたリベルテの活動を、現地や遠隔で参加／伴走したアーティスト・山川陸さんと協働し「路地の開き2024 その日、何してた? あの日、この目で見返そうの巻」において、インスタレーション作品として展示した。

日常・非日常の「ある日」の記憶を複数かつ多層的な視点から振り返り、その記憶を鑑賞者や地域の方へと開き、共有していく。この積み重ね＝関係性の備蓄こそが、障がいのある人と地域の人々が互いに助け合う関係づくりへと結びついていくのではないだろうか。

団体概要

障がいのある人たちの「何気ない自由」や「権利」を尊重していきける社会や人、関係づくりを行うことを目的に2013年に設立。障がい者福祉事業と文化事業という2つの事業を中心に据え、上田市にて活動している。

活動内容

- 6/21-24 山川陸さんリベルテでの宿泊(体験的レジデンス)
- 12/7-15 展覧会「路地の開き2024 その日、何してた? あの日、この目で見返そうの巻」
- <会期内イベント>
- ・出張モミモミの会
- ・陸さんと座談会
- ・出張カフェ
- ・クマキチと過ごそう
- ・リベルテの窓オープン

コーディネーターより

本事業の実施にあたっては、リベルテ代表の武捨さんから文化事業スタッフへと事業の企画・運営を積極的に任せていくことが試みられるなど、様々な点でリベルテにとって挑戦的な事業であった。(藤澤智徳)

農とアートを実践する／適地適作プロジェクト

わかち座

団体所在地 | 小諸市

MAP A21



1 BBGセッション『破戒』パフォーマンス
2 農作業ワークショップ

様々な人が集う、アートと農の広場

わかち座は演劇・ダンスの上演活動を行うとともに、家業で営むブルーベリーガーデン黒岩(以下、BBG)を地域の文化交流拠点として活用し、生活と表現活動の共存や、地域住民とアート関心層の交流をどう生むか、を課題としたプロジェクトに取り組んでいる。

「BBGセッション」では、振付家・ダンサーの鈴木ユキオさんを講師に、長期的にコンテンポラリーダンスのワークショップを継続。今年度は、BBGの劇場のネーミングにも採用されている島崎藤村『破戒』を題材に、公募の出演者とともに、鈴木ユキオさん振付でダンス作品の創作に挑んだ。この間、国内外で活動を展開している鈴木ユキオさんの県外でのプロジェクトにわかち座の司白身さんが参加したことがきっかけとなり、当地で知り合ったダンサーや市民の方がBBGセッションに参加、またイベントに来場するといった新たな繋がりが生まれている。

BBGで鈴木ユキオさんが主宰する団体の主催公演も行われ、他にも外部団体の利用が増えるとともに、BBGを拠点としている仲間達による定期的な催しも始まった。また、小諸市内で外部から依頼を受けて企画を実施し、企画者としても地域で認知されつつある。他方、折々の季節での農作業ワークショップでは、ブルーベリー畑の環境を生かしての異なる人の集いがある。アートと農、暮らしと表現を行き来するBBG独自のゆるやかなコミュニティが立ち上がってきたといえるかもしれない。

今年度、これまでの活動の軌跡をまとめた資料を制作した。数年前には想像できなかったような人の繋がりや場の発展のなかで、地域のアート拠点として新たなフェーズを迎えこれからの変化がますます楽しみだ。

団体概要

ブルーベリー畑と直売所を拠点に、さまざまな表現を制作する場と活動する人のつながりを創造することを目的に活動。農作物もアート作品も生む「畑」として、生活や地域と表現活動が両立・共存する道を模索している。

活動内容

- 5/19 鈴木ユキオ コンテンポラリーダンス体験会
令和6年度わかち座事業説明会
- 6/8 BBGセッション
- 7/7 農作業ワークショップ(草刈り)
- 9/1 農作業ワークショップ(鳥よけネットまとめ)
- 9/28-29 BBGセッション
- 10/6 農作業ワークショップ(ブルーベリー剪定)
- 10/26-27 BBGセッション
鈴木ユキオBBGセッション「破戒」
- 12月-1月 「わかち座の活動歴」作成

コーディネーターより

サントミューゼの企画に参加し、途絶えていたアートとの繋がりを取り戻してから、現在のBBGの展開まで、黒岩さん・司さんが歩んできたプロセスは、文化振興のモデル事例といえるものだ。(野村政之)

芸×農塾

農ある暮らしと芸能のつながり体験プログラム

和力

団体所在地 | 阿智村

MAP A22



1 草取りを通して田んぼでの歩き方を体験 2 田んぼで体験したナンバの身体遣いを活かした舞の稽古 3 木沢霜月祭りの舞を教わる様子

体験することで感じる地域の「芸」と「農」のつながり

和力の加藤木朗さん、平澤久美子さん、櫻田真央さんは、自らも阿智村にて農作業や薪作りなどをして生活しつつ、各地で芸能に関わる活動を行っている。芸能の中の身体遣いには、自然と結びついた暮らしが色濃く反映されているが、現代ではその結びつきを感じる機会が少なくなっている。自分たちの体感している暮らしと芸能のつながりを共有することを通じ、それぞれが見つけたものを自身の生活で活かしてくれたらという思いから本プログラムが生まれた。

プログラムは、2日間のワークショップ2回と収穫祭を実施。また、農作業に自由に参加できる日としてOPEN作業DAYが設けられた。

1回目のワークショップは、田んぼでの作業とナンバの動き、薪割りや太鼓の叩き方など、野良仕事の中での身体使いと芸能のつながりを学んだ。第2回目では、東北の鹿踊りの装束体験ののち、飯田市南信濃で地元の狩猟さんによるお話と、鹿の解体を体験。また遠山郷木沢霜月祭り野郎会の皆さんによる実演と舞の指南をうけ、参加者が地域の芸と農に出会い知る場となった。収穫祭では、五平餅作り体験、奉納神楽が披露された。神楽では、笛や太鼓、人形劇や踊りなど、参加者が様々な演目を披露し、全員が楽しみつつ田の神に祈りを捧げた。

参加者の多くは県外から参加し、本事業のなかで地元阿智村伍和地区「農び会」の皆さんとも交流した。また本事業がきっかけとなって、参加者が遠山郷の霜月祭りの現地を訪れ笛に加わるという出来事も生まれた。事業実施に際し、地域との関係性の共有を丁寧に行うことが、地域の芸能の担い手・ファンを増やすことにも繋がる。様々な発展の可能性があり今後にも期待したい。

活動内容

- 説明会
活動日時 | 6/1
活動場所 | 愛知県名古屋市中区大須シネマ
- ワークショップ1「田んぼ、薪割りの仕事から学ぶ身体遣いと芸能」
活動日時 | 7/13-14
活動場所 | 伍和高齢者生きがいセンター、田んぼ、加藤木朗自宅の庭
講師 | 加藤木朗(芸能、民舞)
協力 | 農び会
- ワークショップ2「霜月祭りの里で狩猟と芸能のつながりを体験しよう」
活動日時 | 11/2-3
活動場所 | 飯田市南信濃地区、伍和高齢者生きがいセンター
加藤木朗自宅の庭
講師 | 益山勝人(南信濃猟友会)、木沢霜月祭り野郎会、加藤木朗
協力 | 遠山愛猟会

- 収穫祭
活動日時 | 12/7
活動場所 | 伍和高齢者生きがいセンター
協力 | 農び会

- OPEN作業DAY
活動日時 | 9/7
活動場所 | 阿智村(田んぼ)
協力 | 農び会

コーディネーターより

WSでは参加者や講師、地域の方と一緒に昼食をとる時間が設けられていたが、食卓に並ぶ地域の食材や料理、準備・片付けの時間も含め、地域と参加者、芸と農をつなぐ時間となっていた。(早川綾音)

映画の学校2024「映画と対話する/わたしたち」 -うえだ子どもシネマクラブ-

特定非営利活動法人アイダオ

団体所在地 | 上田市  MAP **B01**



1 子どもたちの声を集めた映像制作風景
2 映画『石がある』鑑賞後に石に絵を描く

映画館で学ぶ、わたしの声——表現と対話の実験室

「うえだ子どもシネマクラブ」は、5年前から、地域にある映画館・上田映画館を“子どもの学びの場”として開いてきた。ここに通うことが学校への出席認定されるようになり、更に、この場での『学び』のあり方を模索するため、本年度は「映画と対話する/私の声を聞く」「子どもたちの声を集めた映像制作」の企画でより実験的・先駆的な取組を行い、総括としてシンポジウム「映画館が学びの場になるということ」を実施した。

「映画と対話する/私の声を聞く」は、通常の上映会で映画を観たあとの感想を、言葉だけでなくあらゆる表現方法を用いて引き出してみる試み。ファシリテーターとともに紙や石に色を塗ったりなど、より遊びに近い形でを行った。

また「子どもたちの声を集めた映像制作」では、映画監督の深田隆之さんとともに、上田の或る風景映像に写っているもの／写っていないものを想像し、子どもたちがそれらを音として自分の声で映像に重ねて制作した。子どもの思考と想像力を主体に、前衛的で唯一無二の作品に仕上がった。

映画館だからこそ生み出すことができる子どもの学び

シンポジウム「映画館が学びの場になるということ」では、うえだ子どもシネマクラブの5年間で振り返りながら「鑑賞・表現・創造」のプロセスに学びがどう交わるかをテーマに、映画、教育、文化芸術の専門をもつ登壇者と議論した。制度や評価がついて回る学校教育に対して、学校外の上田映画館で、多様な解釈に開かれた映画を通して、試しながらそれぞれの子どもの好奇心が働くことを手がかりに、結果的に学びになる機会を得る。本事業のポテンシャルを確認する機会となった。

団体概要

中間支援NPOアイダオがコーディネーターとなり、上田映画館を子ども・若者たちの居場所と新しい学びの場として活用する取り組みを行なっています。学校に行きづらかったり、行くのをやめてしまった子どもたちに向けて「映画館においでよ」と呼びかけています。

活動内容

●映画と対話する/私の声を聞く

活動日時 | 2024年5月・1月末まで 活動場所 | 上田映画館、トラウム・ライゼ
ファシリテーター | 南澤諒真、いしざかきょうこ
対象作品 | 5/13『カラオケ行こ！』『夜明けのすべて』、5/20『リングはチキンがたべたい』『クラユカバ』『クラメルカガリ』、7/22『ブルーを笑えるその日まで』『ブルーバック』、8/26『SCRAPPERスクラッパー』『ふたごのユーとミー』、10/21『BISHU』『石がある』、11/11『パリのちいさなオーケストラ』『ふれる』、11/18『祝日』『ネネ エトワールに憧れて』、12/9『ココではなし』『うんこと死体の復讐』、1/20『I like Movies』『ルックバック』、1/27『Route29』『型破りな教室』

●子どもたちの声を集めた映像制作

活動日時 | 12/22・12/23 活動場所 | 上田映画館、トラウム・ライゼ
映像作家 | 深田隆之 ファシリテーター | 南澤諒真、いしざかきょうこ
内容 | 声を出す練習・映像を観る・声を録音する・映像と合わせる
二つの映像を上映する

●シンポジウム「映画館が学びの場になるということ」

活動日時 | 2/17 11:00-16:00 活動場所 | 上田映画館
登壇者 | 池田啓慈、浦生志乃(第1部)、浅見孟、深田隆之(第2部)、浅見孟(一般社団法人こども映画教室®)／荒井英治郎(信州大学/松本市教育顧問/教育学)／中村哲(東信教育事務所 生涯学習課)／野村政之(信州アーツカウンシル)／深田隆之(映画監督/一般社団法人こども映画教室®)
司会 | 直井恵(うえだ子どもシネマクラブ)(第3部)
内容 | 第1部: うえだこどもシネマクラブの5年間
第2部: こどもと映画のアカライ未来
映画とこどもが出会う「こども映画教室」のこと
映画の学校2024「声の映画」をつくってみたい
第3部: パネルディスカッション「映画館がこどもたちの扉をひらく」

コーディネーターより

ここを居場所としている子どもにとって「何かをやらされるのでは？」と敏感になってしまうことも多いなか、大人と子どもがゆっくりと関係性を築き安らぎや学びを生み出すことができる貴重な場。(佐久間圭子)

SUWA×文楽2024

一般社団法人大昔調査会

団体所在地 | 諏訪市  MAP **B02**



1 『本朝廿四孝』諏訪湖畔でのラストシーン 2 八重垣姫像と諏訪湖上の宮坂清・八剱神社宮司 3 上演風景

文楽の歴史に刻む、諏訪湖畔での八重垣姫の舞

「八重垣姫」が登場する『本朝廿四孝』は、人形浄瑠璃や歌舞伎などの伝統芸能では人気演目として知られる。諏訪は、その物語の舞台であるだけでなく、地域の歴史(諏訪社や諏訪法性の兜)や伝承(武田と上杉の話)、現象(御神渡り)などが取り込まれる作品である。本事業は、『本朝廿四孝』を地域の文化資源として掘り下げ、地域住民と共有するとともに、観光資源としても活用することを視野に入れ、2022(令和4)年度から取り組んできたものである。

本年度は『『本朝廿四孝一奥庭狐火の段一』を物語の舞台である諏訪湖畔で野外上演する』という前代未聞のドリームプランに挑み、歴史的快挙とも言える形で成し遂げた。

これを実現するためにまず7～8月にクラウドファンディングを実施。先の2年間の地域への普及振興の実績(照光寺公演や諏訪清陵中での普及振興)と、今回のプランの意義を広くアピールし570万円余の資金が集まった。これにより、諏訪湖畔での「SUWA×文楽」を映像化するプロジェクトが本格稼働し、寄付者向けの限定公演(武田勝頼とゆかりある照光寺での『本朝廿四孝一十種香の段一』上演)と併せて、映像に収められることとなった。

10月26日当日、秋晴れの好天に恵まれ、日が暮れ暗闇に包まれていく諏訪湖のほとりで、吉田勘彌さんから技芸員の見事な演技が披露された。文楽の無料野外公演は非常に珍しく、文楽ファンから初観劇の市民まで、沢山の観客にとって記憶に刻まれる公演となった。

本事業はNHK長野放送局で番組化され、年末にはETVの全国放送でも取り上げられた。諏訪の深い魅力を印象づける基盤のひとつとして、これからも活かされていくことを期待。

団体概要

「あの頃を、あたらしく、おもしろく。」をテーマに、考古学や歴史学等に根ざして、地域の大昔(原始・古代)や昔(中近世・近現代)に関わる歴史的文化遗产の保護・活用に資する活動を行う社会貢献団体。



1 『本朝廿四孝』諏訪湖畔でのラストシーン 2 八重垣姫像と諏訪湖上の宮坂清・八剱神社宮司 3 上演風景

活動内容

クラウドファンディングによる資金調達

活動時期 | 7月-8月

照光寺奉上文楽公演

『本朝廿四孝 十種香の段』

活動日時 | 10/25

活動場所 | 照光寺本堂

諏訪湖奉上文楽公演

『本朝廿四孝 奥庭狐火の段』

活動日時 | 10/26

活動場所 | 諏訪湖畔公園

諏訪圏フォーラム特設ステージ

諏訪湖マラソンとの協力

活動日時 | 10/27

活動場所 | 諏訪湖マラソン会場

映像制作

活動時期 | 4月-2月

試写会

活動日時 | 2/25

コーディネーターより

諏訪の豊かな文化資源を支え活用する民間力の核であり、ハブとしての地域連携の底力が表れた快挙。大昔調査会は「広域圏における文化の中間支援団体」のあり方、モデルとして、貴重な存在。(野村政之)

つながるサーカスキャラバン

医療法人社団オレンジ

団体所在地 | 軽井沢町  MAP **B03**



1 ムーンナイトサーカス in うえだ
2 松本でのオーディション風景

多様な背景の人たちが混ざり合い、 次の社会の創造を試みる場

軽井沢町を拠点とする医療法人社団オレンジが、松本市在住のサーカスアーティストの金井ケイスケさんと協働し、障がいの有無・国籍・年齢・性のあり方に関わらず、多様な背景の市民と共に舞台創作・公演を行う取組。企画段階から地域の医療福祉分野の専門家・関係者と互いのノウハウの共有や認識の向上を目指すとともに、公立文化施設を含む関係機関と取り組む創作・上演環境の整備・改善、10代、20代の若い担い手の発掘・育成も合わせて推進している。

この取組が特に素晴らしいのは、多様な出演者が参加する上演の見事さ、作品から醸成される寛容な関係性やオープンな雰囲気に加えて、観客としても多様な背景の市民が集い、鑑賞を通して交流する場を創りあげていることだ。ワークショップ、公演の運営では、障がいの有無にかかわらず参加しやすくする工夫を行った結果、延べ850名以上の地域住民が参加・来場し、19名の一般キャストが参加した。公演に来場した観客の約12%は障がい者またはその家族・介助者等関係者で、公演地の住民構成における割合とほぼ同じとなっている。普段障がい者との触れ合いが少ない市民にとっては、地域社会の様態を知る機会でもあるのだ。

また、本事業に関わる障がいや医療的ケアと共に生きる出演者が、実技の稽古～発表を行う経験を通して、生きる力が引き出され、健康面においても医療行為だけでは得られない身体的、精神的変化を得る例がある、ということにも注目したい。障がいや疾患の有無にかかわらず、全ての人が、共に生活する他者との関係性の中で生きており、アート創作や協働活動はその関係性に影響を与え、健康や充実した暮らしに結びつくものだともいえるのだ。

団体概要

軽井沢町で「診療所と大きな台所のあるところ ほっちのロッヂ」を運営。「年齢や状態じゃなくて、好きなことをする仲間として出会おう」を合言葉に、地域の文化や暮らしと共にあるケアのあり方を模索しています。

活動内容

一般キャスト公募開始

活動日時 | 5/27～

選考

活動日時 | 6/30(書類審査)、7/14・15(面接)

アクセシビリティ講座(オンライン)

活動日時 | 6/9・8/2・11/27

稽古

活動日時 | 9月～(月2回)

「ムーンナイトサーカス in まつもと」公演

活動日時 | 12/21・22

「ムーンナイトサーカス in うえだ」上演

活動日時 | 1/5

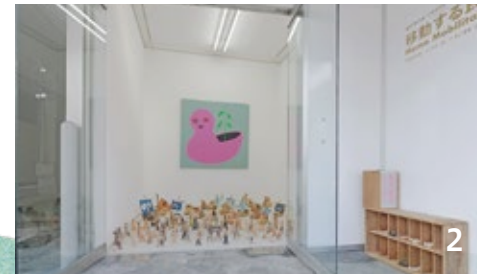
コーディネーターより

アートによる自己解放や自由は、人の前向きな意志を引き出し、それは自己治癒力と結びつく。医療法人が社会貢献活動というより医療実践としてアートのポテンシャルに目を向けている。(野村政之)

移動する民 ホモ・モビリティス

木曽ペインティングス

団体所在地 | 木曽町  MAP **B04**



1 木曽地域のフィリピンコミュニティとの交流の様子 2 「移動する民 ホモ・モビリティス」@マツモトアートセンター
3 「移動する民 ホモ・モビリティス」@マツモトアートセンター

「移動」から眼差す人々の営みと環境変化

木曽地域で地域芸術祭「木曽ペインティングス」に取り組んできた岩熊力也さんが中心となり結成したアーティスト・コレクティブ「GR19[galaxy route nineteen]」。令和5(2023)年度は「route＝道」をテーマに、大桑村の古民家を会場に開催した展覧会「土着とストリート」、古着をアップサイクルしたファッションショーや演劇公演を複数の会場で実施した。

本年度は、人間や生き物の「移動」をテーマに、リサーチ、作品制作、展覧会を行った。古代、九州北部から現在の安曇野地域に移り住んだと言われる“安曇族”にフォーカスし、中條聡さんを中心に安曇野各地域の神社の「お船祭り」を現地でリサーチ。さらに、安曇族のルーツとされる九州、志賀島、対馬を訪問した。

また近年の温暖化でより高所へ棲息域の移行を余儀なくされている“ライチョウ”をモチーフに、奥野宏さんが、大桑中学校の生徒とワークショップを行い植木鉢状の土偶を制作。岩熊さんは、戦争や自然災害などで半強制的に移動を迫られている“難民”を象った土偶を大量に焼いた。並行して、木曽へ移住してきたフィリピン人コミュニティとコラボレーションして、音楽作品を制作、合同ライブも実施した。

1月、マツモトアートセンターのビルの様々な場所を利用して、これらのリサーチ～創作活動を集約した展示を行った。ビルの入口に多数の難民土偶が待機する「IMMGRATION」、2Fに「VIP LOUNGE」とライチョウ土偶の数々、そして屋上から松本平を見渡すように「お船」が据えられ、不透明な未来の方舟の行方、わたしたちの行方についての想像をかき立てるものとなった。

活動内容

安曇族リサーチ(以降複数回実施)

活動日時 | 4/28

地域のフィリピンコミュニティとの音楽活動(以降複数回実施)

活動日時 | 4/20

ライチョウ土器プロジェクト(以降複数回実施)

活動日時 | 6/20

「繋がろう! 紙づくり&絵本朗読会」

活動日時 | 8/2・4

たかはしそなた監督による映画を作るワークショップ

活動日時 | 9/21・22

企画展「Bliss and Chaos」開催

活動日時 | 9/28-10/31

安曇族リサーチ(九州リサーチ)

活動日時 | 11/14-18

展覧会「移動する民」開催

活動日時 | 1/11-26

展覧会「難民土偶が木曽プラネットで漂流してるらしいよ知らんけど」開催

活動日時 | 2/7-22

コーディネーターより

国道19号を木曽から北上し、本年度は松本での開催となった。地域性を大事にしながらも、様々な場所でリサーチし、作品作りを行うアーティスト・コレクティブならではの軽やかさが魅力に感じる。(藤澤智徳)

劇空間夢幻工房「ひかる翼」プロジェクト

特定非営利活動法人劇空間夢幻工房

団体所在地 | 長野市  MAP 



1「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」フルサイズ版の上演の様子 2 エコ★ミュージカル版の上演の様子
3「ひかる翼」チャイルド・プレイワーク

もっと舞台を身近に！エコ★ミュージカル版完成！

令和4(2022)年度から実施している本事業では、鈴木メソードに出会い左手のハンディを乗り越えて活躍するバイオリニスト・牧美花さんの半生を描き、本人も出演するミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」を創作。これまで県内7地域での劇場公演に加え、本年度は小諸市で公演を行った。また乳幼児向け才能開花講座「ひかる翼」チャイルド・プレイワークを月1回、通常講座として実施するのに加え、出張講座・日曜講座・夏休み特別講座、各地への出前講座を行い、活動が定着してきている。

さらに本年度は、令和5(2023)年度から継続して取り組んできた「エコ★ミュージカル『チュイチュイ』」を創り上げ、長野市と辰野町で上演した。劇場公演を脚本から再創作し、上演時間70分、舞台装置や音響・照明を簡略化。劇場設備がない空間でも小規模公演として実施可能な形とし、人形美術家の吉澤亜由美さんが制作した人形が登場する演出を取り入れるなど、劇場版には無い、「エコ★ミュージカル」版ならではの工夫・見どころも盛り込んだ。出演者・スタッフの上演に係るチームの人数もコンパクトにすることで、予算面も含めて、これまで届けることができなかった地域の公民館や学校、保育園等にも届けられるような形が整った。すでに、令和7(2025)年度に県内での「エコ★ミュージカル『チュイチュイ』」の上演も予定されている。また「ひかる翼」チャイルド・プレイワークの実施については、新たな資金的支援の目処がつき継続されることが確定しているとのことだ。

さまざまな手法を通して演劇体験を広めていく、夢幻工房の歩みに今後も期待したい。

団体概要

長野市を拠点に活動するプロ劇団。1999年の劇団旗揚げ以来、市民参加型演劇の上演や小学生らを対象としたキッズクラスの開講など、幅広い世代を対象に演劇を広めるための活動に取り組んでいる。

活動内容

「ひかる翼」チャイルドプロジェクト

①通常講座

活動時期 | 4月から月1回実施

②出張講座

活動日時 | 6/24

活動場所 | 幼稚園型認定子ども園 旭幼稚園(長野市)

③日曜講座

活動日時 | 7/14・12/8

活動場所 | 篠ノ井交流センター(長野市)

④夏休み特別講座

活動時期 | 8/4

活動場所 | 須坂市南部公民館

「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」エコ★ミュージカルver.

8/11 リサイクルプラザ多目的ホール(長野市)

12/14 信州豊南短期大学(辰野町)

フルver.

1/12 小諸市文化センター

コーディネーターより

エコ★ミュージカル版については、私たちコーディネーターも台本のテキレジ作業に一部参加させていただいた。この作品が県内のさまざまな人々のもとに届くことを望む。(藤澤智徳)

信濃の国 原始感覚美術祭2024

原始感覚一座県内公演

木崎湖畔の創造性を育む環境づくりプロジェクト

特定非営利活動法人 原始感覚舎

団体所在地 | 大町市  MAP 



1 ザイ・クーニンの展示作品 2 原始感覚会議の様子 3 安藤榮作《光のさなぎ》滞在制作の様子

地域に根ざし、地域を越え、原始感覚をひらく祭りへ

2010年に始まり、15年目を迎えた原始感覚美術祭。杉原信幸さんら地域在住のアーティストが主導し、変化を重ねながら、独自の個性ある地域芸術祭を形成してきた。今年は「水のうつほ」をテーマに、木崎湖畔や千年の森、市街地などの自然や地域に根ざした会場を舞台に、国内外から80名のアーティストが集い滞在制作やパフォーマンスを行った。県内在住のアーティストが各地から集い交流する場ともなっている。

芸術祭では、多様なジャンルや文化背景を持つ表現者が招聘され、北アルプスの豊かな自然の中に滞在し、外と地域が混じり合うことで、その場だからこそ現れる表現を皆で尊び、つくりあげる「祭り」の場が生まれている。大人も子どもも関係なく自然と踊り出すような場面では、あらゆる人が表現者となる原始感覚美術祭ならではの一体感が生まれていた。

本祭には地域の内外から、家族や子ども連れでの来場者が増えている。活動の継続、定着により参加の間口が広がり、より多くの人がこの芸術祭を理解し楽しむ場となってきている。

今回は例年より長く2ヶ月の期間が設けられ、安藤榮作さんの野外展示作品などいくつかの作品が長期展示された。加えて、池田町の北アルプス展望美術館やマツモトアートセンターでも、原始感覚美術祭参加作家によるグループ展示が開催された。大町を拠点に活動の半径が広がり、地域を越えて県内の芸術団体との関係構築にも繋がっている。

参加作家が自らの得意分野を活かし協働する運営の仕組みも根付き始めている。今後はコアなファン層に向けた発信やドネーション制度の整備など、自立した祭りの可能性を模索していく予定である。

活動内容

原始感覚一座県内公演 活動日時 | 6/29 活動場所 | 旧松代駅舎

中村綾花帽子展 活動日時 | 7/19-30 活動場所 | 安曇野ひつじ屋

ワークショップ

- ・7/5-6 土づくりワークショップ@西丸震哉記念館
- ・8/24 杉の皮剥ぎワークショップ@まればとの家
- ・8/24 織りの喜びワークショップ@西丸震哉記念館
- ・8/25 ワークショップ「わたしたちの身体を編みましょう」@平公民館
- ・8/24-31 高床の住居を作るワークショップ@千年の森自然学校

信濃の国 原始感覚美術祭2024－水のうつほ作品展示

活動場所 | 木崎湖畔、信濃公堂、西丸震哉記念館、千年の森、美麻爽風館
木崎湖POWWOW、まればとの家、山の子村、松葉屋ゲストハウス
北ヤマト園(大町市)

活動日時 | 8/30-11/4 (8/30:千年の森祭 8/31:宵祭 9/1:本祭)

北アルプス展望美術館での展示

日程 | 9/7-10/20 会場 | 池田町北アルプス展望美術館

ワークショップ2

- ・9/14-15 土器作りワークショップ@西丸震哉記念館
- ・9/4-11 安藤榮作木彫ワークショップ@山の小村

まつもと原始感覚 日程 | 2/16-24 会場 | マツモトアートセンター

原始感覚一座県内巡業公演 日程 | 2/24

記録集制作・発行

コーディネーターより

原始感覚美術祭の場が、安心して息ができるようなコミュニティ＝居場所にもなっているという。今後活動の場が広がる中で、共に支え合い協働する仲間や支援者がさらに増えていくことを願う。(早川綾音)

戸隠・是色館プロジェクト第五章 佐藤健作和太鼓ライブ「鬼神 KISHIN」

株式会社さきわいクレアシオン

団体所在地 | 長野市  MAP **B07**



1



2

1 和太鼓奏者・佐藤健作氏とダンサー高瀬譜希子氏による
圧倒的なパフォーマンス
2 ワークショップの様子

戸隠に泊まり、非日常空間で体験する良質な公演

和太鼓奏者の佐藤健作さんは、稽古場になっている戸隠・是色館で、異分野のアーティストとコラボレーションした舞台公演を、コロナ禍以降実施している。令和6年度は8月24日にダンサー高瀬譜希子さんを招き舞台公演「鬼神」を開催。県内外から64名が来場し、高いクオリティーと非日常な空間によるパフォーマンスが好評を得た。本公演では、戸隠・鬼無里に伝わる「鬼女紅葉伝説」をテーマとした新作『青月鬼譚』をはじめ、過去に共演した「サラスパティの鏡」「たまゆら」「生々流転」など全7曲を披露。圧倒的な身体表現と生の和太鼓演奏が融合、トークセッションではアーティスト同士の素顔が垣間見え、観客との距離を縮める貴重な時間となった。

翌25日には、高瀬氏のダンスと佐藤氏の和太鼓によるワークショップ(各70分、各回16名)を実施。高瀬氏による「体の感覚を宇宙に広げる」ダンスと、佐藤氏独自の「不ニメソッド」によるボディワークで、初心者から経験者までが一体となり、体を動かす楽しさを体感した。ワークショップ後には即興コラボや全体ダンスも行われ、参加者からは「楽しかった」「また開催してほしい」との声が多数寄せられた。

戸隠観光協会との連携や、2日間のプログラム構成の工夫により、今回、遠方からの来場者の大半が戸隠に宿泊。協会からも好評を得た。また、戸隠太鼓の定期指導を佐藤氏が開始し、太鼓を媒体にした地域での交流が確実に広がっている。公演の運営を地域の方の協力を得て、担当していただくなどの繋がりも生まれている。

今後は子どもや高齢者向けにも是色館を開き、ボディワークワークショップを開催するなどして、さらなる交流を深めていくという展望である。

団体概要

和太鼓奏者・佐藤健作が2020年より長野市戸隠にある稽古場「是色館」で小規模自主公演を開始。戸隠の観光と連携強化を図り、継続的な活動基盤づくりに繋げて行きます。

活動内容

戸隠・是色館プロジェクト第五章
佐藤健作和太鼓ライブ 鬼神 KISHIN

活動日時 | 8/24 14:00開演(13:30開場) 1回公演

活動場所 | 是色館(長野市戸隠宝光社地区)

出演者 | 和太鼓 佐藤健作
ゲストダンサー 高瀬譜希子

ワークショップ

活動日時 | 8/25

ワークショップ①

高瀬譜希子ダンスワークショップ(70分)

ワークショップ②

佐藤健作ボディワーク・和太鼓ワークショップ(70分)

コーディネーターより

その道を極めたアーティストによる圧巻のパフォーマンスだけでなく、ワークショップで一緒に動いて楽しみながら人柄に触れることができる機会も含めて他では味わうことができない良質な時間だった。(佐久間圭子)

サイノツノ・アーティスト・イン・レジデンス2024 (略称:サイノツノAIR)

～犀の角×柏屋別荘 月影瞳氏による別所長唄とお座敷文化の復刻～

一般社団法人シアター&アーツうえだ

団体所在地 | 上田市  MAP **B08**



1



2



3

1 中間発表パフォーマンス&トークの様子 2 別所長唄のリサーチの様子 3 当時の別所長唄お披露目の様子

地域の記憶から失われた唄声に耳を澄ます

本プロジェクトは、かつて上田市別所温泉地域に伝わる「別所長唄」「別所小唄」に光をあて、唄を通して今を見つめ直すことを目的とした取り組みである。俳優の月影瞳、演出家の藤原佳奈、音楽ユニット・三日満月の榎藤真由と佐藤公哉の4名のアーティストと共に、滞在制作とリサーチを行った。

別所長唄は、タカクラ・テルが作詞した。かつては旅館で芸妓が唄や踊りを披露していたが、今では継承者がおらず、披露される機会はほとんどない。今回のリサーチでは、タカクラ・テルに関する資料の収集や地域の方々からのお話を聞くとともに、県内の長唄・小唄や新民謡運動に関しても調査を実施。さらに、上山田温泉で現存するお座敷文化を体験し、文化継承の背景や長唄・小唄の違いについても理解を深めた。

約半年にわたるリサーチの成果は、中間発表の場で多角的に共有された。トークでは、リサーチの過程やタカクラ・テルという人物について、また新民謡運動や小唄・長唄ブームの背景などが、明治維新以降の時代の流れと共に語られた。合間には、タカクラ・テルが別所温泉で過ごした日々を描いた朗読劇も行われ、会場には当時の風景が静かに立ち上がるような時間が流れた。パフォーマンスでは、月影さんによる別所長唄の語りと、三日満月による演奏が披露され、今回のメンバーならではの表現で別所長唄が唄われた。

発表後の来場者も含めた感想を交わす時間では、別所温泉の地域の方々から新たな別所長唄の情報が寄せられ、また地域の人間も関わって唄を残していきたい、という声もあがっていた。一度地域で失われた唄に光が当たり、再び地域に戻っていく兆しを感じた初年度。これからの活動に一層期待が高まる。

活動内容

リサーチ

活動時期 | 6-11月

活動場所 | 上田市、別所温泉地域、中野市、
佐久市望月、千曲市上山田

滞在制作

活動日時 | 7/2-5、11/21-24・30

中間発表パフォーマンス&トーク

活動日時 | 12/1

開催場所 | 柏屋別荘倶楽部

コーディネーターより

リサーチの結果がパフォーマンスも含めて共有されることで、より深く地域ごとになっていく様子が伺えた。今後地域の人々にとって別所長唄がどのような存在になっていくのか、注目していきたい。(早川綾音)

「平和と手仕事」を21世紀へ

NPO法人多津衛民芸館

団体所在地 | 佐久市  MAP **B09**



1



2

- 1 アート・コーヒー・クラブでは様々な切り口でアートに触れる
- 2 ワークショップで行燈作り

「平和と手仕事」を21世紀につなぐ

1995年佐久市望月に民間の力によって立ち上がった多津衛民芸館は、「平和と手仕事」の言葉を理念として30年に渡ってものづくりや生涯学習の場として運営されてきた。令和6年度は役員の世代交代を行い、新館長の就任に伴って21世紀に合わせた取り組みをスタートさせた。

主な取り組みの民芸館学校ではアートコーヒークラブ「アートは時代とどう共鳴するか？6つの窓から見えてくる芸術の風景」をテーマに全6回講座を実施。新館長のロジャー・マクドナルドさんが講師となり、コーヒーを飲みながら現代社会の課題について参加者と共に考え好評を得た。全プログラムに参加する方や複数回参加する方が多く、次年度の開催を望む声も多く寄せられている。その他、望月歴史講座や協同組合入門講座、子どものための手仕事ワークショップなど、多様で深い興味関心を刺激するテーマを取り上げ地域内外から多くの参加者を惹きつけていた。

また「行燈ナイト」では、日が暮れ徐々に暗闇に包まれる時間帯に、ワークショップで制作した行燈の灯りで照される民芸館の空間でピアノ演奏を堪能した。望月の豊かな自然環境の中でこそ感受できるエコロジーへの意識醸成であり、五感で感じる良質な非日常の時間となった。

さらに企画展でのギャラリートークや「猪口でつながるプロジェクト」、機関誌第29号の発刊を通じて、様々な分野の人々との連携が生まれ、人の輪が確実に広がっている。これらは単なるイベントを超えた人的ネットワークの形成という面でも大きな意義を持つ。

「学び」から「実践」へと活動の質を深化させ、知恵や技術の共有を通じて、人々が安心し、喜びを分かち合えるような場の創出を目指していく。

団体概要

教育者であった小林多津衛が蒐集した民藝のコレクションや書籍の展示紹介をはじめ、「平和と手仕事」の理念を実践した、ものづくり・食・農を含めた総合的な文化芸術の拠点。世代を超えて共に学び、喜びを共有できる場として活動。

活動内容

〈企画展〉 4/27-5/27 “生活の輪”展

〈講座〉

- 5/11 “生活の輪”展～望月の素材と手仕事～「北沢正和×柳澤真理 対談会」
- 9/7 秋の企画展「直感のカタチ～民藝とシュルレアリスムの不思議な眼差し～」ロジャー・マクドナルド ギャラリートーク

〈民芸館学校〉

- 5/26 アート・コーヒー・クラブ(※以下ACC)「気候危機とアートの現在」
- 6/16 望月歴史講座「社会教育の歴史とこれからの学び」
- 6/23 ACC「アート、病院、そしてケアの力」
- 7/20 協同組合入門講座「社会的発明としての協同組合」
- 7/28 ACC「アートと精神的衝動」
- 8/3 子どものための手仕事ワークショップ「陶芸」1 日目
- 9/14 子どものための手仕事ワークショップ「陶芸」2 日目
- 9/15 行燈ワークショップ①陶芸1 日目
- 9/29 ACC「アート、手仕事、オルタナティブな生活」
- 10/5 協同組合入門講座「社会的刷新としての協同組合」
- 10/13 行燈ワークショップ①陶芸2 日目
- 10/27 ACC「アウトサイダー・アートとは何か？」
- 11/16 行燈ワークショップ②木工
- 11/24 ACC「そもそも現代アートとは何か？」

〈民藝の燈〉 12/15 「行燈ナイト」ギャラリートーク
駒場拓也ピアノ演奏

〈機関誌〉 10/9 機関誌「平和と手仕事」29号完成

コーディネーターより

多津衛民芸館に行くとかくさんの素晴らしい民藝品を間近でみることができるが、それ以上に地域社会やコミュニティのあり方まで想いをめぐらせて自分の暮らしを見つめ直したくなる力がある。(佐久間圭子)

8mmフィルムの保存・活用を通した コミュニティ再生と多世代が参加する地域映画づくり

まつもとフィルム commons

団体所在地 | 松本市  MAP **B10**



1



2



3

- 1 まつもと日和2完成上映会 2 インタビュー取材 3 まつもとフィルム commonsのメンバー

市民にひらかれ自分ごとになっていく 地域映画の制作過程

令和4(2022)年に活動を開始、地域映画『まつもと日和』を令和5(2023)年2月に公開。令和6(2024)年度は、前年度から着手していた第2弾の制作～公開を中心に活動を進めた。フィルム収集、デジタル化、フィルム提供者や関係者83名へのインタビュー取材。音楽を松本市内在住のミュージシャン・3日満月が担当し、市内の演奏家や音楽団体が奏で収録したBGMに加え、エンディングテーマ曲では市民公募参加者100人の手拍子を録音、ボーカルに松本市出身のダンサー・俳優、アオイヤマダさんを迎えて構成した。

地域映画『まつもと日和2』の完成上映会では、『まつもと日和』二作の上映に加え、三好大輔監督とフィルム提供者との座談会、3日満月×辻村豪文ライブなど様々な関連企画も開かれた。素材となったデジタル映像アーカイブを鑑賞できるサブシアター、8mmカメラなどの機材展示、古道具の座席で飲食が楽しめるお休み処なども設け、前後の時間も楽しめる工夫が施されていた。

“地域映画”の文字通り、実に多くの市民が映画制作の過程に参加、関与し、共有できる機会がある取組である。松本に住み、愛着を感じて、関わりたいと思う人々が、10代から高齢者まで集い、作品ができあがっていく。完成した映画の鑑賞・交流を通して、家族や大切な人を思う気持ちを共有したり、新たに人々が出逢ったりする機会となっている。

『まつもと日和』二作は助成事業外でも、市内公民館等での市民による自主上映会、キッセイ文化ホール主催事業での上映、山形村アイシティ・シネマの通常プログラムなど様々な機会が上映が継続されている。海外の映画祭への出品も検討されている。さらなる展開を楽しみにしたい。

活動内容

「まつもと日和2」制作

37人合計347本の8ミリフィルムのうち130本をデジタル化。インタビュー取材83名。BGM録音に3日満月と共に松本に住まう8組のアーティスト・団体の皆さんの演奏を録音。エンディングテーマは、松本出身のダンサー・俳優アオイヤマダさんがボーカルで参加し100人の手拍子録音も加えBGM参加人数は総勢150名となった。

まつもと日和2完成上映2DAYS @信毎メディアガーデン

活動日時 | 10/26-27

延べ800人を動員。上映だけでなくサブシアター、ビューア体験、フォトブース、機材展示、感想コラージュ等の各ブースあり。8ミリだよ全員集合座談会では、多世代が交流する場となった。

「まつもと日和2」上映会

『まつもと日和』19回上映、延べ508人が鑑賞、

『まつもと日和2』は10回上映、751人が鑑賞。

Vimeoでの有料配信は29本販売。

2作品合計上映料等の売上総額は189万円。

「まつもと日和」英語版

『まつもと日和』(73分)だったものを60分に編集し直し、英語『MATSUMOTO～Life in Frames』が完成。海外映画祭にエントリー。

コーディネーターより

8mmフィルムの映像がもつ懐かしく親しみを感じる力や、人間がもつそれぞれの接点と結びつけながら共感する力が合ったり、松本の宝物が生み出された過程が素晴らしく松本市民として誇りに思う。(佐久間圭子)

まるっとみんなで映画祭2025 in KARUIZAWA

まるっとみんなで準備室

団体所在地 | 軽井沢町  MAP **B11**



1 上映会の様子 2 ラウンドテーブル「誰も取り残さないまちづくり」においてわたしたちができることは何か？
3 軽井沢高校の美術の時間で制作した看板



「誰も取り残さないまちづくり」をシミュレートする映画祭

軽井沢で2回目の開催となったユニバーサルな映画祭。バリアフリー字幕や音声ガイド、英語字幕などを施した映画作品の上映と、ドラッグクイーンとの読み聞かせや手話通訳つきの感想シェア会などの関連イベントに、親子、学生、シニア層の幅広い年代、障害のある人や外国語話者など、地域に住む多様な人が参加した。観客としてだけでなく、ボランティアスタッフ、プログラム提供や出店など、様々な角度から約430名が参加者として関わった。令和4年度に地域の担い手を公募し「まるっとみんなの調査団」を結成、軽井沢～東信地域で社会包摂的な活動をしている団体へのリサーチを土台に映画祭の準備を進めた。令和5年度からは企画運営チームに役割を変えて継続し、月1回程度の会議での会場や作品の選定を行い、メンバーそれぞれの関心・スキルを生かした活動を通して、地域に根ざしたユニバーサルな映画祭の実施に携わった。令和6年度は軽井沢の観光オフシーズンの1月に時期を移したことで、町内参加者が増えたほか、高校との連携、社会福祉協議会との協働による高齢者への案内など、多方面への関係構築によって映画祭について地元の認知が広がった。この取組のユニークな特徴は、「映画祭へのアクセスをユニバーサルにする」という具体的な場面を想定することで、様々な領域・属性の関係者の幅広い協働・共創を試みるきっかけが生じ、映画祭の実施が地域社会の連携のシミュレーションの機会となっていることである。観客として映画鑑賞するだけでなく、障がい者によるコピー提供や青少年による発表機会など、主体的な参加が可能な場面が設けられている。また、軽井沢町内の文化、福祉、様々な民間団体に加え、新設された町の共生社会推進担当をはじめ町役場の複数の部局が関わり、県外の実践者と町内有識者、近隣市町村の議員もラウンドテーブルに参加し、「誰も取り残さない」地域社会づくりを考える実践的な議論の機会となった。

団体概要

軽井沢でユニバーサルな映画祭の開催を契機に、高校生からシニアまでの市民が参加し、東信地域でユニバーサルな創造・鑑賞機会の充実を目指し、企画や調査、ワークショップや上映会を実施している。

活動内容

「調査団会議」実施 活動期間 | 5月-1月 月1回実施
クラウドファンディング実施 活動日時 | 10/1-12/20

まるっとみんなで映画祭2025 in KARUIZAWA

活動会場 | 軽井沢町中央公民館
中軽井沢図書館 多目的室、上田映劇

活動期間 | 1/17-20

- ・『土を喰らう十二月』上映会
- ・まるっとフレンドリー上映会
- ・『恋人はアンバー』上映会
- ・映画『窓ぎわのトットちゃん』上映会
- ・信州監督特集上映会
- ・おたのしみ上映会&DJパーティ
- ・音で遊べるワークショップ型上映会
- ・『私だけ聴こえる』上映会
- ・ドラッグクイーンによる読み聞かせ&パフォーマンス（ほっちのロッチ連携企画）
- ・子ども向け手話ワークショップ
- ・『コード あいのうた』上映+感想シェア会
- ・『悪は存在しない』上映会
- ・遠足上映会『I Like Movies アイ・ライク・ムービーズ』（うえだ子どもシネマクラブ協力企画）
- ・ラウンドテーブル「誰も取り残さないまちづくり」においてわたしたちができることは何か？

コーディネーターより

本事業代表者の中村茜さんは2022年に移住。様々な専門的経験を有する移住者の方に、地域社会での文化振興や事業展開においてどう活躍していただけるか。その点でも重要な事例といえる。（野村政之）

トビチ美術館 2024 森と空き家の分水嶺 展

一般社団法人〇と編集社

団体所在地 | 辰野町  MAP **B12**



1 街なか1 2 森の作品 3 街なか2



団体概要

「未来はワクワクするもの」「〇の未来にワクワクする人を増やす」をミッションに、辰野町で企画・デザイン・建築を使って、今より生きやすい暮らしをつくるために活動するまちづくり会社。

街と森のリノベーションと連動する国際滞在制作

辰野町の下辰野商店街界隈の空き家・空き店舗を使用し、エリア全体を美術館ととらえる「トビチ美術館」の取組。2021（令和3）年より毎年開催、空き家から出た古道具等の「空き家の幸」を用いて創作し、空き店舗等で空間芸術／インスタレーションを発表するプロジェクトである。

2023（令和5）年からは旧旅館をリノベーションした宿泊滞在施設KOUTENが滞り場所となり、多くのアーティストやインターンが同時・長期に滞在することが可能となった。また辰野町在住のアーティスト・千田泰広さんのアトリエ共用で制作環境が向上。積極的な海外への発信も行い、今年は92件の応募があり、そのうち海外から70組以上の応募があった。前年度滞在した海外アーティストが翌年度の審査員になり、本事業の中での人々の交流が今後に展開していく仕掛けも施している。審査により、公募アーティストが6名（うち海外4）、招待アーティストとローカルアーティストを含め8組13名が参加した。

今年は「空き家も森も、『課題』にもなり『資源』にもなる“分水嶺”にある」という発想から、新たに森をフィールドにした作品創作を開始した。会場となった信州豊南短期大学からの関心も得て、来年以降も継続するプロジェクトとなっている。

リノベーションによる街の再生を進める「トビチ商店街」の活動から派生した「トビチ美術館」は、〇と編集社のまちづくり事業に個性を与えるとともに、街と繋がる関係人口を構成する人の多様さにも繋がっている。明るい、楽しい、寛容性のある空気に引かれて、様々な種類の小さな商いを興す店が少しずつ集積し、創造的な街の文化が育まれつつある。

活動内容

アーティスト募集開始
活動日時 | 6/2

公募アーティスト審査会
活動日時 | 7/17

トビチ美術館2024 森と空き家の分水嶺 展開催
活動日時 | 10/5-12/1

森フィールドワーク
活動場所 | 信州豊南短期大学
活動日時 | 10/20・11/4・11/23・12/6

アーティストトーク
活動日時 | 11/4

トビチ美術館2024 森と空き家の分水嶺 展
ぬりえ展開催
活動日時 | 1月

アーカイブブック完成
活動日時 | 2月

コーディネーターより

トビチ美術館以外に、ストリート・カルチャーのベース「& garage」があり、町立の辰野美術館も注目を集めている。常設インスタレーションもオープン予定で、今後の展開も目が離せない。（野村政之）

もんぜん千年祭2025

もんぜん千年祭実行委員会

団体所在地 | 長野市  MAP **B13**



1 西之門よしのや精米蔵での郡司ベギオ幸夫の作品展示 2大勸進奥書院での高木こずえの作品展示 3「もんぜん千年アートトーク」の様子

アートを通じてもんぜんの「千年」を共に考える芸術祭

もんぜん千年祭は、善光寺門前エリアを中心とし、アートを通して地域の歴史や伝統に出会う芸術祭である。門前界隈で活躍する多世代かつ多様な分野の担い手が協働し運営を行っている。2024（令和6）年2月のプレイベントを経て、今回が第1回目の本開催となった。

展示プログラムは、善光寺大勸進、西之門よしのや、KANEMATSU、R-DEPOTの4会場にて計11名のアーティストが作品を展示。なかでも、普段は一般公開されていない大勸進奥書院や行在所で展示が行われたことは大きな試みであり、増田洋美作品のガラスと雪景色との調和は、善光寺という歴史的空間の新たな魅力を引き出した。西之門よしのやでは蔵の壁を活用した映像作品の投影が行われ、同時期に開催された長野灯明まつりの期間中には多くの通行人の目に触れる仕掛けとなった。舞台プログラムの「もんぜんまち劇場」や、他のイベントやフリンジ企画も合わせ、寒波の中でも多くの人々が訪れ、地域の歴史や文化をどう未来につなげるかを多角的に考える場が生まれた。

新たに挑戦したクラウドファンディングでは目標を超える支援が集まったが、準備に多くの労力がかかり、運営面での負担が課題として残った。一方、会期中には学生ボランティアが積極的にに関わり、地域の文化を支える次世代の担い手を育成するという芸術祭の目指す方向が形になってきている。

今回の展示では、善光寺大勸進からもアート展示への共感と協力の姿勢が示されるなど、地域に根差した芸術祭としての手応えが感じられる初回となった。今後も地域との関係性を丁寧に築きながら、無理のない形で持続可能な運営体制を模索していくことが望まれる。

団体概要

千年余も続く善光寺門前で、アートや芸能、遊びを通じて、中世から続く救いの場としての善光寺信仰とアートが出会います。門前を拠点とするアートやまちづくりなどの多種多様な人材が集まり、活動しています。

活動内容

もんぜんトーク「善光寺本堂の謎」
開催日時 | 12/21 開催場所 | 西之門よしのや穀蔵
講師 | 土本俊和（信州大学工学部教授）

大倉源次郎特別講演会「能から見た善光寺」
開催日時 | 1/15 開催場所 | 善光寺大勸進

もんぜん千年祭2025
開催日時 | 2/5-11
展示作家（会場） | 小山利枝子・ナカムラジン・岡崎乾二郎（大勸進紫雲閣）、高木こずえ（大勸進 奥書院）、増田洋美（大勸進御行在所）、郡司ベギオ幸夫（西之門よしのや精米蔵）、中村恭子（西之門よしのや穀蔵）、光明制作所（KANEMATSU）、岡澤喜美雄・宮本忠長+信州大学（R-DEPOT）

- ・2/1-16 もんぜんまち劇場
- ・2/7 もんぜん千年アートトーク「女性アーティストたちが今、話したいこと、聞きたいこと」、もんぜん寄席、アーティストと「もんぜんの食」を楽しむ夜
- ・2/8 もんぜん街中トーク「〈まち〉の現在と未来：宮本忠長アンビルト計画と長野西後町マッププロジェクト」
- ・2/9 ワークショップ「もんぜん七福神パネル」

フリンジ企画

- ・夏至「きものはちすのきものはじめ」展
- ・まちなかみどりラボ「みどりワサワサのかたを作ろう」原画展
- ・秦雅則「PARALLEL MIRROR」展（信州アーツカウンシルバレード連携企画）

コーディネーターより

善光寺や灯明まつりに来た方々が作品を鑑賞する姿がみられたり、地域住民でも普段入れない場所で展示が行われたりと、まさにアートを通して善光寺や地域について深く知る機会が開かれていた。（早川綾音）

松代の文化で町と人を未来に繋ぐプロジェクト

NPO法人夢空間 松代のまちと心を育てる会

団体所在地 | 長野市  MAP **B14**



1 子ども勝どき太鼓の上演
2 GIANT STEPSと松代中の生徒による「真田節」

暮らしの中にある歴史・文化を通して 地域と世代を繋ぐ試み

NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会（以下、夢空間）は、長野市松代町が有する様々な時代の歴史文化遺産を継承し、地域住民や来訪者に向けた魅力発信、新たな文化の創造を目的に2002年に発足。松代のまちづくりを住民が主体となって支えている。

中心的な役割を担っているメンバーが高齢となる中で、本事業は、子育て世代である理事・青木恵さんが主導し、松代在住のアーティストや地域の様々な年代の人たちが、松代の文化に関わる企画を担うことを通して、夢空間の活動に参画するきっかけをつくる取組である。

真田子ども勝どき太鼓や、松代特産のあんずの栽培加工に関わる体験、松代の街の特徴である泉水路について先行世代から学ぶ機会など、松代の地域文化を通して交流。松代城本丸跡で2回目の開催となった「松代の文化と町と人を未来につなぐプロジェクト」では、こうした取組を多世代で共有するような発表を行った。昨年度復活した真田子ども勝どき太鼓は、子どもたちの上達・成長が目覚ましい見事なステージとなった。地元アーティストと中学生が協働したオリジナルソング、獅子舞、巨大人形、ダンス、ポップス等、子どもから高齢者までそれぞれが交わりあいながら、楽しめるよう工夫された構成となっていた。

加えてステージ周辺に様々な子ども向け文化体験ブースを配置し、長野市が実施する「みらいハッケン！プロジェクト」のクーポンを利用可能としたことで、地域外からも親子の参加の敷居が下がった。

多彩で層の厚いプログラムの運営を、地域との細やかな繋がりを築いてきた夢空間のメンバーが支え、城下町松代を象徴する場所を活用して多世代が交流する素晴らしいイベントとなった。

活動内容

真田子ども勝どき太鼓練習
活動日時 | 4月-2月 毎週月曜日

松代の文化と町と人を未来につなぐプロジェクト
活動場所 | 松代城本丸内
活動日時 | 11/4
・こども勝どき太鼓 ・せんぜもん ・GIANT STEPS
・Spinna B-ILL ・NOBYAN a.k.a 八百ヤーマン
・Okika Oriental Dance ・一緒に歌おう！「紡」「松代の風」
・一緒に踊ろう！「真田節」など

出張夢空間『泉水路ってなんだろう』
活動日時 | 11/6-18 対象：松代中学校1年生

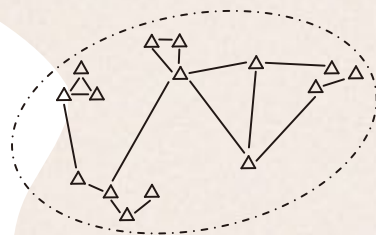
あんず摘果・収穫・ジャムづくり体験
活動日時 | 4月、5月、2月 対象：松代中学校1年生、3年生

記録映像制作
活動日時 | 2月
・松代オリジナルソング「紡」
・「松代の文化と町と人を未来につなぐプロジェクト」イベント

コーディネーターより

本事業以外にも音楽フェスを主宰している青木さんによる、アーティストと住民が絡まる組み立てが絶妙。多世代と一緒に観るからこそ、誰かにとって新鮮な体験になっている。ハイレベルな企画力。（野村政之）

Shinshu Arts-Climate Camp／信州アーツ・クライメート・キャンプは、2023年より発足した信州アーツカウンシルと信州大学人文学部の連携事業です。文化芸術の視点から気候変動や地域環境の課題を見つめ、長野県において行われているさまざまな取組を知り、人に学び、共に考え、変化していくコモンスペースを作っていこう、というプロジェクトです。



キャンプ

長野県内で自発的に行われている気候変動や環境へのアクションを〈キャンプ〉と位置づけ、活動内容や実践者を紹介。既にある取組や人とアイデアを発掘し、ネットワークをつないでいきます。

Facebookグループ「Shinshu Arts-Climate Camp交流スペース」に寄せられた〈キャンプ〉の事例

- 劇団野らぼう 「ゼロカーボン演劇×テント芝居×アーカイブ」 ▶▶▶ P25
- 木曾ペインティングス 「移動する民 ホモ・モビリティ」 ▶▶▶ P43
- 多津衛民芸館 「アート・コーヒー・クラブ：気候危機とアートの現在(5/26)」 ▶▶▶ P48

会議

気候変動へのアクションに関する知識や情報、視点を学ぶとともに、各地域の文化芸術、環境活動等の様々な声に耳を傾け対話する〈会議〉として、北アルプス国際芸術祭2024やシンビズムと連動した活動を行いました。

座談会 | 気候とアートのダイアログ ～北アルプス国際芸術祭2024編～

第一弾 《森づくりアート》北アルプス林研グループ アーティスト・トーク

日時	9月25日(水)
会場	くらしふと信州
登壇者	小林雅文、荒山雄大、荒山あゆみ(北アルプス林研グループ)
聞き手	金井直、野村政之
内容概要	参加アーティストの北アルプス林研グループをゲストにお招きし、作品発表までの経緯や作品に込めた想い、大町における林業の課題や魅力などをお話いただきました。聞き手の金井直さんからは、今回の北アルプス林研グループの作品を美術史的な視点から紐解くお話もあり、林業とアートの接点について考える機会となりました。



第二弾 《熱の連帯》村上慧 アーティスト・トーク

日時	10月14日(月)
会場	信濃大町駅前公園、信濃大町駅前インフォメーションセンター
登壇者	村上慧(アーティスト)
聞き手	金井直、野村政之
内容概要	参加アーティスト村上慧さんをお招きし、展示作品《熱の連帯(足湯)》を中心としたお話を伺いました。発酵熱を利用した作品構想のプロセスや、細菌の活動によって生まれる熱と土壌、そして人体の近似性など、作品を通して、私たち自身や環境と熱の関係について意識をむける時間となりました。



Shinshu Arts-Climate Camp × SHINBISM 上映会&シンポジウム「地域とアート現場における資材循環を考える」

日時	12月22日(日)
会場	inadani sees
登壇者	岡碧幸(周活shukatsu)、持田敦子(シンビズム5参加作家)、山本麻友美(KYOTO MATERIAL YARD)奥田悠史(inadani sees/株式会社やまとわ)、赤羽孝太(〇と編集社)、岸本優芽(リビルディングセンタージャパン)
聞き手	ロジャー・マクドナルド(インディペンデント・キュレーター／NPO法人Arts Initiative Tokyo ディレクター)、金井直、野村政之
内容概要	資材循環をテーマとした上映会&シンポジウム。第1部は、シンビズム5参加作家持田敦子さんのプロジェクト「解体 / Unbuilding」記録映像の上映会、第2部は資材循環に対するゲストの方々の取組を紹介しました。作品制作時の資材の使用や処理に関する現実的な話題から、地域における資材循環の今後のヴィジョン、そしてアートと地域の資材循環の関わり方など、多角的な視点から活発なディスカッションが行われました。



ダイジェスト映像

第1部 「解体 / Unbuilding」映像記録上映会

「解体 / Unbuilding」映像記録

監督 | 持田敦子+青山真也 / 上映時間: 50分 / 公開年: 2024年

支援 | 三菱商事アート・ゲート・プログラム、令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業

持田敦子「解体 / Unbuilding」(2021-2023)

長野県飯田市において行われたアートプロジェクト。作品の制作に加え、作品をどう終わらせるかについて考える中で、解体業者と共に古民家を解体しつつ、作品を制作する本プロジェクトが生まれた。つくると壊すという過程が共存する中で、「解体」の持つ創造性や可能性を開いた。

第2部 シンポジウム

モデレーター | 金井直、ロジャー・マクドナルド、野村政之 ※1、2、3共通

1.各地のアート現場の資材循環の試み

各登壇者からの講義15分、終了後ディスカッション

登壇者 | 岡碧幸(周活shukatsu/札幌市)、持田敦子(「シンビズム5」参加作家/大鹿村)、山本麻友美(KYOTO MATERIAL YARD/京都市)

2.地域の課題を資源に変える循環

各登壇者からの講義15分、終了後ディスカッション

登壇者 | 奥田悠史(inadani sees/やまとわ/伊那市)、赤羽孝太(〇と編集社/辰野町)、岸本優芽(リビルディングセンタージャパン/諏訪市)

3.ディスカッション

各シンポジウム登壇者、モデレーターによるディスカッション

報告

〈キャンプ〉や〈会議〉の内容についてSNSを活用してオンラインで共有、交流を図るとともに、その内容をPodcast番組として発信しました。

Podcast 「気候とアートのダイアログ」

文化芸術の視点から気候変動やアートについて考えるポッドキャスト番組。信州・長野県において、アートを通して気候変動や気候危機の課題に取り組んでいる担い手へのインタビューを配信しています。



案内人

金井直(信州大学人文学部教授)
ロジャー・マクドナルド(インディペンデント・キュレーター／NPO法人Arts Initiative Tokyo ディレクター)

主催

信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)
信州大学人文学部、長野県
令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

連携・協働プログラム 伝統文化の支援体制構築に向けた連携

南信州民俗芸能継承推進協議会、ならびに(公財)八十二文化財団と連携し、地域の民俗芸能などの継承の課題に対して支援を進めていく体制づくりの取組です。

南信州の祭り・芸能についての座談会 vol.2

7月14日(日) 天龍村坂部地区

南信州地域の祭り・芸能の担い手が地区を越えて集まる座談会。大森山諏訪社の祇園祭に参加したあと、左閑辺屋でお祭りへの思いや課題意識などを語り合いました。



長野×沖縄交流事業「琉球花火復元と清内路の手作り花火」

11月16日(土)13:30～16:00 阿智村中央公民館

約200年前に琉球王国に存在したからくり花火の復元に、阿智村清内路の手作り花火の伝統の技が貢献したことをきっかけとして、講演とシンポジウムを通して、互いの文化への理解を深める機会となりました。(登壇者等はp5参照)

主催 阿智村、長野県、信州アーツカウンシル
南信州民俗芸能継承推進協議会

後援 上清内路煙火同志会、下清内路煙火有志会
国立劇場おきなわ、沖縄県



第3回南信州民俗芸能フェスティバル「信州の三番叟一祝福と祈りの芸能」

1月26日(日)10:30～15:30 飯田市県文化センター

長野県内で継承されている歌舞伎・能楽・人形操りの三番叟のうち、国・県の文化財に指定・選択されているものすべてを一堂に集めて紹介しました。(演目はい5を参照)

主催 南信州民俗芸能継承推進協議会、長野県、信州アーツカウンシル
協賛 南信州民俗芸能パートナー企業

後援 阿南町教育委員会、飯田市教育委員会、大鹿村教育委員会
小海町教育委員会、佐久市教育委員会、箕輪町教育委員会



レポートはこちら

<https://www.culture.nagano.jp/special/12793/>



オープンカウンスル! vol.6

「伝統文化がつなぐ新たな関係・世代・地域～祭り芸能の担い手座談会」

3月1日(土)13:30～16:45

安曇野市豊科交流学习センター「きぼう」多目的交流ホール

【プログラム】

事例発表 1. 岩原祭典保存会 尾日向和孝 三枝修
2. 木沢霜月祭り野郎会 木下隆彦
3. (公社)全日本郷土芸能協会 小岩秀太郎

座談会 【登壇者】尾日向和孝・三枝修、木下隆彦、中山洋介(田楽座)、近藤大知(飯田市美術博物館)【モデレーター】小岩秀太郎、野村政之

結び 1. 南信州民俗芸能継承推進協議会アドバイザー 櫻井弘人、笹本正治
2. 長野県県民文化部文化振興課

コロナ禍以降の状況を踏まえ、地域の高齢化・過疎化などによる祭り芸能の継承の課題や、伝統文化とともにある地域の暮らしの魅力、課題を乗り越える新たな発想、地区を越えて人々が協力し合う環境づくりなどについて、地域の担い手の皆さんとともに話し合いました。



連携・協働プログラム 他地域のアーツカウンシルとの協働

超老芸術展 in 池田町

【アーツカウンシルしずおかとの協働】

主催 | 7月6日(土)～8月25日(日)

協力 | 北アルプス展望美術館(池田町立美術館)

企画 | 株式会社テレビ静岡
アーツカウンシルしずおか、信州アーツカウンシル

高齢になってから、または高齢になってもなお、独自の創作を続ける高齢者による芸術表現を取り上げる「超老芸術」展の池田町開催にあたり、本展キュレーター・櫛野展正さん(アーツカウンシルしずおか)、野村政之(信州アーツカウンシル)、ゲストに武捨和貴さん(NPO法人リベルテ)を招いたトークセッションや、ARTWINGLABEL(松本市)の展示・コンサートを行い、共同企画としてコラボレーションしました。



社会包摂（インクルーシブ）プログラム

障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生などに関わる文化芸術活動を、課題を共有する団体等と共同して取り組みます。令和6年度は、「ザワメキサポートセンター」（長野県障がい者芸術文化活動支援センター／長野県社会福祉事業団）との協働を推進しました。

ザワメキサポートセンターとの連携



- ザワメキサポートセンター（長野県障がい者芸術活動支援センター／長野県社会福祉事業団）連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換
- ザワメキアート展およびザワメキ・キャラバンin大町を共催（2024年10月12日-11月4日）
- 信州アーツカウンシル2024パレード×ザワメキ・キャラバンin大町
アーティスト浅井真至氏による〈名店街のどうぶつを描こう〉ワークショップの実施（9月16日）
- 信州アーツカウンシル2024パレード×ザワメキ・キャラバンin大町×北アルプス国際芸術祭2024
「北アルプス国際芸術祭2024を障がいのある方と巡るモニターツアー」の実施（9月23日）

信州アーツカウンシル2024パレード×ザワメキ・キャラバン in 大町 名店街のどうぶつを描こうワークショップ

日 時	9月16日（月・祝）13:00-15:00
会 場	大町市総合福祉センター2階大会議室（長野県大町市大町1129番地）
一緒に描く人	浅井真至（アーティスト／大町市在住）
参 加 費	無料
主 催	信州アーツカウンシル ザワメキサポートセンター （長野県障がい者芸術活動支援センター／長野県社会福祉事業団）
参 加 者	一般12名+がんばりやさん6名（介助者含む）



大町市在住のアーティスト浅井真至さんを中心に、共同作業所「がんばりやさん」の協力を得て、信濃大町駅から徒歩10分ほどのアーケード街「大町名店街」に住んでいる動物たちを描くワークショップを行いました。ワークショップの準備として「がんばりやさん」の通所者の方にどうぶつの元となる絵を何枚も描いてもらって浅井さんがその絵を元にパーツを制作。ワークショップではそのパーツに参加者が好きな色をつけて隣にまわしながら、どうぶつを生み出していきました。ここで完成した作品はザワメキ・キャラバンin大町での展示を経て現在も「大町名店街」の常設展として見ることができます。

信州アーツカウンシル2024パレード×ザワメキ・キャラバン in 大町 ×北アルプス国際芸術祭2024 「北アルプス国際芸術祭2024を障がいのある方と巡るモニターツアー」

開 催 日 時	9月23日（月・祝）9:30-16:30
参 加 者 数	6家族（うち障がいがある方7名）ほか 計20名
行 程	9:30～10:00 受付@信濃大町駅前インフォメーション 10:00～11:00頃 市街地エリア 【2】村上慧 【3】ムルヤナ 【5】ポウラ・ニチヨ・クメズ 【6】浅井裕介 11:20～11:40頃 東山エリア 【32】ヨウ・ウェンフー 12:00頃～13:30 昼食タイム（基本的には自由行動。） 13:30～16:00頃 仁科三湖エリア 大町市営東町駐車場から出発 ◎木崎湖 【21】ケイトリン・RC・ブラウン&ウェイン・ギャレット 【20】木村崇人 ◎中綱湖 【25】コタケマン 【26】蠣崎誓 16:00頃～16:30頃 時間と体力がある参加者の方と感想シェアタイム 16:30頃 解散
企 画	信州アーツカウンシル 野村政之、佐久間圭子、早川綾音 ザワメキサポートセンター（長野県障がい者芸術活動支援センター／長野県社会福祉事業団） 中村勘二、持田めぐみ ザワメキ・キャラバンin大町 キュレーター 鈴木真知子
協 力	北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局

ザワメキアート展／ザワメキ・キャラバンin大町（10月12日-11月4日）、北アルプス国際芸術祭2024（9月13日-11月4日）をあわせて楽しんでいただきたい！という想いから、障がいのある方たちと芸術祭を巡るモニターツアーを行いました。準備段階として、各アートサイトのリサーチや福祉の現場でケアをしている方へのヒアリング、どんな人に参加してもらうかなどについてチームで丁寧に検討を重ね、旅のしおりを制作しました。ツアー当日は、計画通りにいかないことを念頭に、各参加者が自分のペースを保てるゆるやかな進行を心がけました。それぞれの障害特性への配慮もしつつ、参加者全員で楽しい芸術祭鑑賞ができたことにアートの魅力やアーティストが人を惹きつける力をあらためて実感する機会となりました。

レポートはこちら



「NAGANO ORGANIC AIR」は、様々なジャンルで活躍するアーティストが、長野県内の各地域に滞在し、創造活動を行うアーティスト・イン・レジデンス(AIR)の取組です。公立文化施設や地域の文化芸術団体、教育委員会などがホストとなり、地域での創作のプロセスをコーディネートしながら、アーティストとの双方向的な協働を試みます。「ORGANIC=有機的」をキーワードに、アーティストの創作意欲を刺激するローカルな営みとの出逢いにフォーカスした滞在制作を実施。2024年度は、初めての試みとなった信州フィルムコミッションネットワークとの協働事業も含め、長野県内6市町村でアーティストが活動、県内他地域にも展開しました。



NOA小谷

「森との関わり／地域と地球の未来」

アーティスト | フロリアン・ガデン

ホスト | 小谷村(観光地域振興課)

北アルプスなどの山々に囲まれた小谷村に、地域の自然環境に生息する多種多様な生き物を繊細な筆致で描くフロリアン・ガデンさんが滞在。3回の滞在を通して、地域住民と関わりながら生態系をリサーチし、絵画制作を進めました。茅葺屋根の中で風雨をしのぐ昆虫、屋根の材料となるカヤを栽培する茅場でさえずる小鳥、そこで行われる野焼きで炎になめられ、豊かになった土壌の上を闊歩するたくさんのバッタ…。小谷村の滞在を通して描いた40点以上の作品を、滞在の最後に展示しました。

滞在日程: 4/15-20, 7/7-16, 10/9-18, 1/14-19

○小谷村立小谷小学校1,2年生とのワークショップ
7月10日(水)

○生き物観察とアートのワークショップ「架空のハイブリッド」
10月12日(土) 10:00~13:00 会場: 小谷村複合拠点施設 おたりつぐら

○フロリアン・ガデン作品展「小谷村の秘密—そこに棲む生き物の調査」
1月18日(土)~2月23日(日・祝) 会場: 小谷村複合拠点施設 おたりつぐら
[ギャラリートーク] 1月18日(土) 11:00~11:30



NOA大鹿

「簡単じゃない。だから、面白い。」大鹿村アーティスト・イン・レジデンス

アーティスト | 秦雅則

ホスト | 大鹿村(教育委員会・総務課)／信州大鹿歌舞伎愛好会

大鹿歌舞伎にまつわる営みを村民と協働して撮影し、写真集を編む取組。前年の秋の定期公演に続き、春の定期公演を撮影。2月には長野市で写真集の制作過程の展示を実施しました。オートフォーカスカメラと使用期限が切れつつあるフィルムで様々な人が撮影した写真群が、ズレた時間感覚と異世界の趣きの不思議な存在感をたたえていました。

滞在日程: 5/2-4, 12/10-12, 2/3-5

○秦雅則「PARALLEL MIRROR」展
2月5日(水)~11日(火) 会場: R-DEPOT

NOA阿南

「短編芝居『新野物語』長野県縦断ツアー」

アーティスト | 山田百次

ホスト | 新野だら実行委員会

2021年に滞在し、新野の盆踊りを題材に制作した短編芝居『新野物語』を、阿南、諏訪、長野に県内縦断公演。上演とセットで新野の盆踊り・盆唄についてわかりやすく解説するWSを行いました。

滞在日程: 8/12-17, 12/7-10, 1/22-2/3

○短編芝居『新野物語』長野県縦断ツアー

脚本・演出: 山田百次 出演: 金原渚、栗生みな、山田百次 方言指導: 金田信夫

[阿南公演] 1月31日(金) 18:30開演 会場: まるはち旅館

[諏訪公演] 2月1日(土) 15:00開演 会場: 片倉館 1階中広間

[長野公演] 2月2日(日) 15:00開演 会場: 満留八総本店

主催: 信州アーツカウンシル、長野県

共催: 新野だら実行委員会

協力: NPO法人サポートC 助成: 一般財団法人地域創造

令和6年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



信州フィルムコミッションネットワーク×信州アーツカウンシル 連携事業

観光分野との協働の新たな取り組みとして、信州フィルムコミッションネットワーク(SFN)との連携事業を実施しました。長野県内の文化資源や自然などに関心をもつ映画クリエイター／プロデューサーが、フィルムコミッションがまだ設置されていない地域に滞在し、地域のホストの方とともに次の作品創造のリサーチをしていただきました。

●SFN×NOA池田

アーティスト: 太田達成(映画監督) ホスト: 一般社団法人池田町観光協会
滞在日程: 10/27-11/2

●SFN×NOA喬木

アーティスト: 鶴岡慧子(映画監督) ホスト: 喬木村役場 産業振興課
滞在日程: 11/25, 2/20-28

●SFN×NOA飯山

アーティスト: 森井勇佑(映画監督) ホスト: 一般社団法人信州いいやま観光局
滞在日程: 2/10-17

主催 信州アーツカウンシル、長野県

共催 信州フィルムコミッションネットワーク

●SFN×NOA白馬

ホスト: 白馬五竜観光協会

「白馬五竜グリーンAIR」滞任アーティスト公募を実施し、脚本家の大井里花子さんを選出。2025年秋に滞任予定です。

主催 信州アーツカウンシル、長野県、信州フィルムコミッションネットワーク



- I 「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展
- II 長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業(対話鑑賞)
- III 北アルプス国際芸術祭県内学芸員ツアー
- IV 第72回全国博物館大会発表
- V 障がいのある方への合理的配慮を学ぶ研修会



Re-SHINBISM2ーそして未来へ展 チラシ

【シンビズム2024 事業概要】

シンビズム※は、県内美術館・博物館などの学芸員が所属を超えて協働結集し、同じ立場で協議しながら県ゆかりの出品作家を選定、紹介するグループショウを県内各地で開催しています。故本江邦夫長野県芸術監督の「全国一のミュージアム数を有し、学芸員が一人体制の館が多い長野県においては、学芸員同士の分け隔てない関係構築こそがミュージアム・ネットワーク化の一番の近道である」との思いから、2016年度に長野県監督団事業として活動がはじまり、2022年度からは信州アーツカウンシルのプログラムになっています。

これまで延べ214名の学芸員が参加、第1回～第5回展の計18会場にてグループショウを開催、全76名の作家を紹介してきました。事業の継続的な実施により、県民の芸術鑑賞機会の拡大や現代作家への全県的支援、学芸員の意識共有と資質の向上、県内美術館・博物館のネットワーク化の促進を図り、県全体の美術振興を進めています。

2024年度事業では、上記の特長を一層発展させ、シンビズムの展覧会開催を基盤として「美術館等の文化施設と地域の協働」、「多様な参加者に向けて創作現場や展覧会をひらく」ことを試みました。

また、長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業(対話鑑賞)、北アルプス国際芸術祭県内学芸員ツアー、第72回全国博物館大会発表を通して、学校の先生方や文化施設等の職員のみなさん、県内外の博物館関係者のみなさんにシンビズムの活動を知っていただきながら、交流をする機会をつくりました。

I 「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展

本展は、2018年度に開催した、「シンビズム2」の作家たちに焦点をあて、県内4館で同時開催した作家の作品が茅野市に一堂に会することで、その後の5年間を振り返り、作家たちがいかに進化し、現在どのような作品を作っているかを示し、今を見つめる企画展としたいと考え、「Re-SHINBISM 2」と名付けました。

「Re」には「再び」の他に、Reconsider(再考する)、Reborn(再生)、Relate(共感する)、Respect(尊重する)の意味も込めています。

■出品作家

上田謙二(ミクストメディア)、越ちひろ(絵画)、西澤千晴(絵画)、Yoshimi Hayashi(インスタレーション)、山上渡(絵画、立体インスタレーション)、伊藤純代(彫刻)、伊藤三園(切り絵)、カミジョウミカ(絵画、ミクストメディア)、OZ-尾頭-山口佳祐(絵画、パフォーマンス)、末永恵理(油彩)、橋本遥(漆芸)、山内悠(写真)、齋藤春佳(油画、インスタレーション)、高木こずえ(写真)、中村真美子(版画)、藤野貴則(陶芸)、山上晃葉(ソフト・スカルプチュア、ペインティング)

■主催等

主 催 信州アーツカウンシル、長野県
共同主催 茅野市美術館、茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造
共 催 東御市、小海町教育委員会、信濃毎日新聞社
後 援 岡谷市教育委員会、茅野市教育委員会、下諏訪町教育委員会
諏訪市教育委員会、富士見町教育委員会、原村教育委員会
助 成 令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人地域創造

◇顧問:笠原美智子(長野県立美術館長)
◇運営アドバイザー:石川利江(ISHIKAWA地域文化企画室代表)
◇エデュケーショナルアドバイザー:三澤一実(武蔵野美術大学教授)
◇企画・構成:信州ミュージアム・ネットワーク「シンビズム」ワーキンググループ

工藤美幸(佐久市)、由井はる奈(佐久市立近代美術館)、名取淳一・中嶋実・鈴木一史(小海町高原美術館)、清水雄・山極佳子・大塚菜々美(上田市立美術館)、加藤泰子(心の花美術館 in 上田)、佐藤聡史(丸山晚霞記念館)、山崎麻由・佐野悠斗・小沢和実(東御市)、伊能あずさ(川越市立美術館)、鷹野雪菜、山岸吉郎・河西見佳(イルフ童画館)、前田忠史・中田麻衣子(茅野市美術館)、小松由以(信州高遠術館)、矢ヶ崎結花、伊藤幸穂(木曽町教育委員会)、坂口佳奈(木祖村教育委員会)、三澤新弥・塩原理絵子(安曇野市教育委員会)、武井敏((公財)碌山美術館)、富永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館)、大竹永明、田中想子(須坂版画美術館)、五味大樹・中村綾子(世界の民俗人形博物館)、田中新十郎(田中本家博物館)、布谷理恵(千曲市アートまちかど)、水橋絵美(中野市立博物館)、小林宏子(前中野市立博物館)、阿部澄夫((一社)一本木公園バラの会 信州中野銅石版画ミュージアム)、関千尋(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館)、小野佳奈、松井正・梨本有見・宮下真実・早川綾音・伊藤羊子((一財)長野県文化振興事業団)



作家、学芸員、顧問によるギャラリートーク

■ おもな関連事業 (詳細は別表「シンビズム2024入場者・参加者数」を参照ください)

1. 作家、学芸員、顧問によるギャラリートーク

日時:8月4日(日) 13:30～ 場所:茅野市美術館

8月4日には出品作家12名が一堂に会して、笠原顧問やワーキンググループ学芸員とともにギャラリートークを行いました。出席が叶わなかった5名については作家メッセージを学芸員が代読しました。

作家たちはそれぞれにコロナ禍を挟んだこの5年半の制作活動や思いについて語ってくれました。なかにはシンビズム作家や学芸員との繋がりによって制作を再開することが出来たというエピソードも伺え、胸が熱くなる場面もありました。

2. 〈Re-SHINBISM2ーそして未来へ〉展 学校連携プログラム アウトリーチ「アートカードゲームで遊ぼう!」、対話鑑賞「きてみて!おしゃべりアート」

本プログラムは、茅野市美術館サポーター、シンビズムWG学芸員による共創事業として、小学校2校、計6学年、計164名に対し、アウトリーチ「アートカードゲームで遊ぼう! (学校連携)」と展覧会会場での対話鑑賞「きてみて!おしゃべりアート」を実施しました。展覧会出品作をアートカードにしたゲームでは、児童は「思ったことを話しても大丈夫」というルールの中で、安心して発言し、受容しあう環境を創出できました。その後の美術館での対話鑑賞では、作品の大きさや素材等、作品本体への関心だけでなく、作家の人物像にも興味を持つ様子が見られました。

現代美術作品の対話鑑賞が有効であること、また地元ゆかりの作家を通じたキャリア教育としても効果がありました。

II 長野県「アートを活用した学び」推進事業(対話鑑賞)

シンビズムでは2023年度から県の「アートを活用した学び」推進事業のなかで学校での対話鑑賞の普及を目的として教員向けワークショップの実施やプログラム実施校へのファシリテーター(学芸員)派遣を進めています。

本事業では、子どもたちのアクティブ・ラーニングに寄与する事業として2023年度から市内小中学校の全学級にて”朝鑑賞”を実施している東御市と連携し、普及活動に努めています。

(1)「子どもの発想を活かし育てる学びづくり」教員向けワークショップ
東北信会場:長野県庁西庁舎 西111号会議室
中南信会場:長野県伊那合同庁舎 講堂

(2)プログラム実施校へのファシリテーター(学芸員)派遣
伊那市立伊那中学校 1年生全4学級 129名対象

III 北アルプス国際芸術祭県内学芸員ツアー

シンビズムWG学芸員だけでなく広く県内文化施設の学芸員等職員にもよびかけて、北アルプス国際芸術祭 総合ディレクターの北川フラムさんのレクチャーや出品作家さんの解説を得ながら巡る、学芸員ツアーを実施しました。

本ツアーでは、信州アーツカウンシルが支援した、「ザワメキ・キャラバン」の視察を行いました。

IV 第72回全国博物館大会発表

松本市を会場に行われた、第72回全国博物館大会 分科会1「地域の魅力発見～文化資源の高付加価値化の取り組み～」において報告「県内学芸員の共同企画展覧会「シンビズム」で発見する地域の魅力」と題して、シンビズムワーキンググループの中嶋実議長(小海町高原美術館)がシンビズムの活動について発表をしました。

報告後、出席者から「シンビズムではミュージアム連携が、多くの館や参加者によって、長期にわたって実現できている」ことについて質問が相次ぎました。

V 障がいのある方への合理的配慮を学ぶ研修会

R6年度シンビズム事業報告会にあわせて、北アルプス国際芸術祭2024にてザワメキ・キャラバンをキュレーションした、鈴木真知子さん(アトリエもも共同代表/キュレーター、この街学園 生活支援員(アート担当))を講師として、障がい者への合理的配慮への対応を学ぶ講座を実施し、シンビズムWG学芸員の意識共有を図りました。

【実績概要】

シンビズム2024

Re-SHINBISM2ーそして未来へ展入場者数・地域交流プログラム参加者数

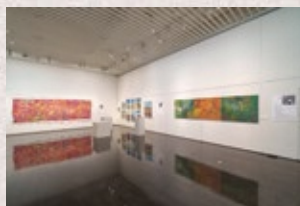
【展覧会】

日付	事業内容 展覧会・地域交流・授業・普及事業・展示案内等 (県アートを活用した学び推進事業含む)	参加人数 (一般)	参加人数 (学生)	備考 (シンビズムWGファシリテータなど)
令和6年7月28日 ～令和6年9月1日	「Re-SHINBISM(リ-シンビズム) 2 ーそして未来へ」展	1,145	289	会場:茅野市美術館 参加作家:17人

【地域交流プログラム】

まとめ項目別

交流事業内容	のべ回数	のべ参加者
県内市町村施設と障がい者への合理的配慮への 対応を学ぶ講座	3	67
アーティストとWG学芸員による一般市民にむけた交流事業	6	300
作家、WG学芸員、市民サポーターによる児童生徒にむけた 対話鑑賞事業(学校へのアウトリーチを含む)	6	512
教員および地域の担い手にむけた対話鑑賞事業、 ファシリテーター研修	3	69
作家・WG学芸員による学校や福祉施設等への アウトリーチ実施に向けた情報交換及び研修	10	130
合計	28	1,078



Re-SHINBISM2ーそして未来へ展
会場風景

【事業の成果等】 当初の目的・趣旨(■)に対して得られた成果

■美術館等文化施設の連携、協働

文化施設の連携や協働とは、施設の“担い手”との連携や協働に他なりません。本年度シンビズムワーキンググループ(以下WGと標記)には、県内美術館の新人学芸員や地域おこし協力隊などの新規参加が増え、県内の公共施設からシンビズムが新人(人材)育成の場としての認識が広がったと実感しています。

■多様な参加者にむけて創作現場や展覧会をひらく

●当初目的のひとつである「多様な参加者にむけた具体的な手法」を学ぶため、北アルプス国際芸術祭2024でのザウメキ・キャラバン視察研修や、同事業キュレーターによる障がい者への合理的配慮への対応を学ぶ講座を実施し、シンビズムWG学芸員の意識共有を図りました。

●「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展、長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業(対話鑑賞)による本成果は、次の地域交流プログラムの成果を参照ください。

■文化施設と地域の協働

「Re-SHINBISM2ーそして未来へ」展を基盤として、諏訪地域において作家やWG学芸員、会場館市民サポーター、そして信州アーツカウンシルの助成団体を巻き込んだ地域交流プログラムを実施したことで、美術だけでなく演劇、パフォーマンス等、様々な分野のアーティストや担い手、鑑賞者が協働・交流し、新たな関係性を築くことが出来ました。



長野県「アートを活用した学び」推進事業
教員向けワークショップの様子



北アルプス国際芸術祭県内学芸員ツアー
出品作家 布施知子さんによる解説

【地域交流プログラムの成果等】 当初の目的・趣旨(■)に対して得られた成果

■地域の様々な担い手と連携し相互に交流する場作り

歴代のシンビズム出品作家に参加を呼びかけた「アーティスト交流会」では、出品作家以外のさまざまな分野のアーティストや助成団体の担い手、鑑賞者、研究者や学生が集まり、継続的な作家と担い手との関係構築や今後のシンビズムの活動に関する提案、孤立しがちなアーティストが集える場づくりの要望がなされました。(信州アーツカウンシル 2024 パレードプレスvol.2参照)

■県内学校への対話鑑賞事業の普及

シンビズムが担う長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業(対話鑑賞)として、教員向けワークショップを県内2会場で開催し、校内での対話鑑賞の有効性を普及することができました。また、プログラム実施校の伊那市立伊那中学校1学年全4学級では、県内各地から各回6名のWG学芸員が参加、ファシリテーターを担い、実践後の情報共有や学芸員相互の学び合いを行いました。(北林南「アート×対話で育む、表現・創造・コミュニケーションの力～対話鑑賞プログラム～」信州アーツカウンシル レポート参照)

■気軽に現代美術に親しむ鑑賞活動

茅野市美術館サポーター、シンビズムWG学芸員による対話鑑賞体験のオープンディ「きてみて!おしゃべりアート」を2日間実施したところ、高齢者の参加が多く、参加者それぞれが自分の感じた事を話し、他者と共有する場を楽しみました。対話鑑賞事業が芸術鑑賞のみならず、生きがいがづくり、孤立防止策として有効であることを実感しました。



北アルプス国際芸術祭
県内学芸員ツアー
総合ディレクター 北川フラムさんの
レクチャー

【制作手法の成果等】 当初の目的・趣旨(■)に対して得られた成果

シンビズムは「県内の学芸員の自力強化」を目的とする所属を超えた学芸員の協働体系です。県事業団がつなぎ役となって県内文化施設や学芸員による先進活動を他地域の担い手と協働することで、経験を共有しています。この学芸協働は、当県に多数を占める小規模館が抱える現状の課題(下記①～③)を克服し、館に閉じこもることなく信州全体をひとつのミュージアムと見立てる信州型の学芸モデルといえます。(金井直「シンビズムの成果そして未来について」『シンビズムの軌跡』(信濃毎日新聞社2022年3月、27ページ抜粋)

■現状の課題①～③に対するシンビズムの取り組み

- ①各館では一人学芸員として日々の業務に忙殺され学芸活動に重心を置けない。
WGメンバーの状況によって可能な範囲のシンビズム事業(展覧会や教育普及、広報等)に参画が出来、かつ事業全体を共有しています。
- ②そもそも館にひとりでは、学芸としての知・技・倫理を先輩から後輩へ、あるいは同僚で分かち合うことはできない。
経験の少ないメンバーは、所轄地域ゆかりの現代美術作家との交渉や展覧会制作、あるいは対話鑑賞事業を他館のベテラン学芸員のノウハウや手法をそばで見ながら体験、研修をしています。また、教育普及分野では対話鑑賞事業におけるファシリテーター業務や学校の受入れ、さらには市民サポーターの育成、自治体全体の政策としての取り組み等、様々な段階の取り組みを担当者から直接学ぶことが出来ています。
- ③公立館にあっては自ずと官の論理が優勢となり、人類の共有材としてのミュージアムや文化芸術といった本質は語りにくくなる。
WGメンバー間の関係性は年を経ることに重層的に厚みを増しており、本事業の連絡だけでなく、日常の本務の相談事を気軽に相談し合える状況が拡大しています。集合知としての機能を果たしているといえます。

■地域の担い手との共創

会場館の茅野市美術館は、市民参加型事業を推進する先進館であるため、同館サポーターとシンビズムWG学芸員との共創を通して、サポーター業務を学ぶことができました。

【課題】

■新たな自治体での文化施設と地域の協働

本年度会場とした茅野市美術館を核とする諏訪地域は、前述のとおり市民参加型の事業運営の先進館と信州アーツカウンシルの意欲的な助成団体が点在する地域であったため、順調に文化施設と地域の協働が実現できました。しかし、次年度の会場館・地域では基盤となる環境づくりから始めなくてはなりません。展覧会等の事業と並行して地域の担い手を掘り起こし、共創できるかが課題となります。

【次年度以降の継承・展開】

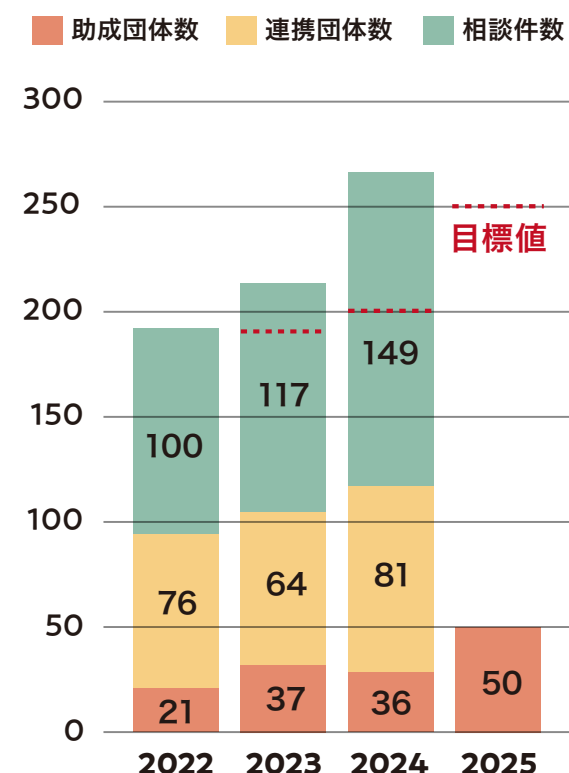
次年度は「地域と美術」をシンビズムの大テーマとし、本年度培った障がい者への合理的配慮への対応や高齢者の生きがいがづくり、文化施設と地域の担い手との協働を継承し、多様な参加者に向けて創作現場や展覧会をひらく活動を各会場館を拠点に展開したいと思います。また、学校への対話鑑賞事業の普及においては、県とともに教員向けワークショップ・プログラム実施校での実践を継続します。子どもたちのアクティブ・ラーニングに寄与する事業として市内全小中学校で朝鑑賞を実施する東御市との連携を強化し、同市における2年間の実施例の分析、転出された実施教員の追跡調査を行いながら、県域での実施市町村、実施校の拡充をはかり、「連携・協働型アウトリーチ」プログラムの企画制作力の向上をめざしたいと思います。

まだまだ担い手が発掘されている

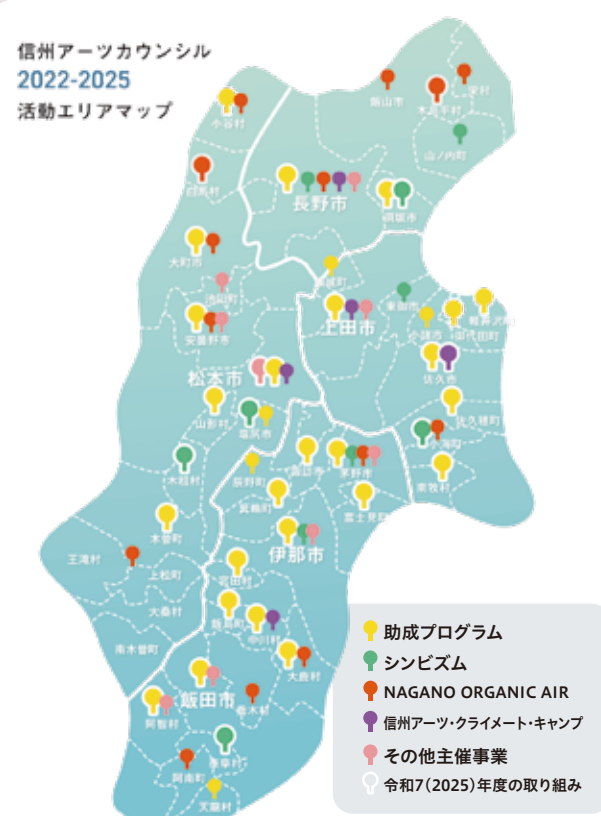
信州アーツカウンシルの活動が始まって3年が経ちました。これまでの活動を数にすると【図1】のような形になります。

令和4(2022)年の初年度に設定した「関係団体数」の目標値に関して結果をみると、前年度に翌年度の目標をクリアしています。目標値が低いというよりは、当初想定していたよりも、長野県内に自発的に活動する担い手が多かったというのが、私たちの実感でもあります。

【図1】信州アーツカウンシル 関係団体数



【図2】活動エリアマップ 2022-2025



令和7年度の助成事業では、令和4～6年度に3年間継続して助成を受けた団体(15団体)からの申請を対象外としました。意義のある事業計画を応募しながら、入口で不採択となり支援を提供できていない団体が多いことからです。それでも、令和7年度は申請件数が10件以上増加しており、まだ活動的な団体を汲み尽くすには至っていない、という認識です。

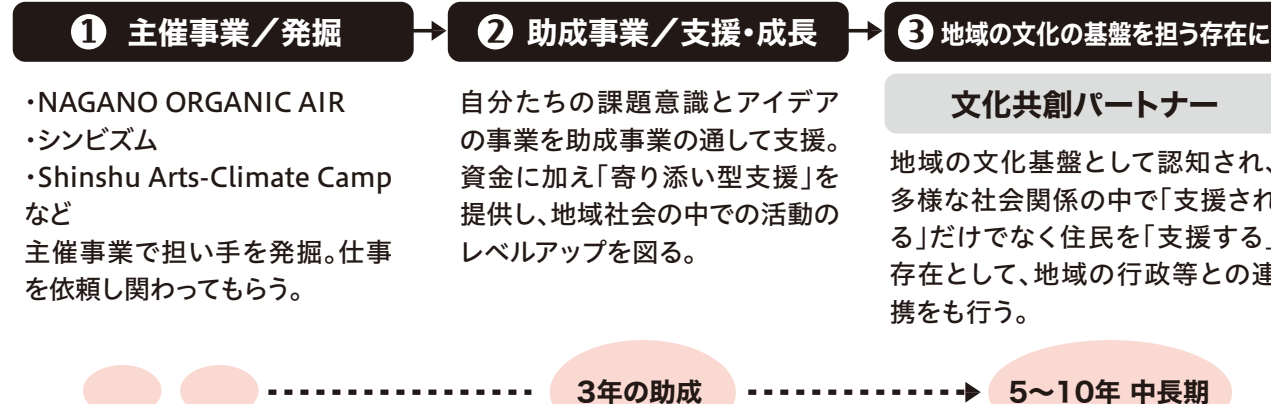
担い手の支援から「文化共創パートナー」へ

この度、信州アーツカウンシル助成事業で令和4～6年度に3年間継続した団体を「文化共創パートナー」と位置づけることにしました。

文化共創パートナーの皆さんとは、長野県内において地域の課題や新たな価値創造に向かう事業と一緒に取り組み、展開していくとともに、「支援する」側のプレイヤーとして、県内でさらに活躍していただけるような環境づくりをしていきたいと考えています。ある意味で、人材の循環のような考え方です。

信州アーツカウンシルにおける担い手への支援とステップアップの構造を現状、次のように捉えています。

【図3】信州アーツカウンシル 担い手の発掘／支援／共創



① 主催事業での発掘とネットワーキング

信州アーツカウンシルの主催事業において活動に関わっていただき、地域の担い手として共に取り組む「仕事」をお願いします。(例えば、NAGANO ORGANIC AIRのホストとして、アーティストの受け入れと地域での活動のコーディネートをお手伝いいただくなどの形)

② 助成事業での伴走支援

地域の担い手の皆さんに、自分たちの課題意識に基づいた企画アイデアを助成事業の公募に出していただき、採択された場合は寄り添い型支援で伴走を行います。担い手自身が発想した事業・活動の中にある公共性を感じていただくとともに、経験を積む中での運営の向上や支援者の輪の拡大などを後押しします。

③ 文化共創パートナー～地域の文化基盤を担う存在に

地域の文化の基盤を支え、多様な社会関係の中での文化芸術を通じた協働・共創を行う存在として認知され、活動が続いていく段階です。地域の市町村行政との協力を図ったり、他地域や他領域との協働を進める、ということを経験し、信州アーツカウンシルとして共に進んでいきます。

広域アートコミュニティの共創に向けて

【図2】に令和4～7年度の信州アーツカウンシルの活動領域があります。信州アーツカウンシルでは全県での活動を通して担い手のネットワークを形成しているともいえます。

全県域にアクティブな団体が存在することは、「アートを身近に」という私たちのキャッチコピーの実現という意味で重要です。

加えて、人口減少社会が続いていく中で、県内の各広域エリアに、民間で自発的な意志をもって活動する担い手が居り、アクティブに活動することで、中山間地や小さな町村の文化事業・文化施設の存続に向けた協働の選択肢が生じます。旧来の村落・地縁共同体／自治会での日常生活、セルフケアの維持が難しくなるなかで、様々な「文化」を媒介にして地域の多様な人が繋がり合い、支え合い、今後の地域社会に寄与する「広域アートコミュニティ」をつくること。

信州アーツカウンシルのこれからの活動のひとつのビジョンになります。

信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター
野村 政之

腕の長さで

アーツカウンシル(以下A.C.)の説明に、よく「アームズレングス」という言葉が登場します。「腕の長さ」。当事者間の適正な距離の確保の意で、たとえば親会社と子会社や、政府組織と独立団体が、それぞれの活動において、一方の利害に回収されず、独立性の高い関係を保つことです。つまり付かず離れず。文化芸術支援の場面では、為政者・行政側の政策や思惑で、創造的で自由な活動が阻害されることのないよう、中間支援組織がその専門性と公正さをもって活動する状態を指してよく用いられます。そもそもA.C.の元祖、アーツカウンシル・イングランドが、第二次世界大戦中に文化芸術が政治利用されてしまったことを教訓に、1946年に創設されたことも思い出しておきましょう。文化芸術におけるアームズレングスというのは、端的に言えば、表現の自由を支える大切な間合いなのです(表現の自由を明記する日本国憲法公布も1946年です)。

とすれば、話は大学にも関わってきそうです。今、ますます学問の自由が大切になってきていますが、そこで問われるのも一種のアームズレングスだと思います。設置者や限られたステークホルダーの利害に流されることなく、専門性や公正さが担保され、学びの自由が肯定される場所、それが大学でなければなりません。いま、私自身、信州A.C.との協働に重きを置く、大切な理由がこのあたりにもありそうです。A.C.という現場から学ぶことは大です。

ところで、「腕の長さ」というのは、比喩としてよくできているというか、付かず離れずのよい関係性を感じさせてくれます。それはちょうど対話のときの距離でもあり、また手の届く範囲でもあって、密度ある／節度あるコミュニケーションの間合いを思わせます。とすると、「腕の長さ」は、A.C.と助成を受ける方々の関係性においても大切になりそうです。審査して、資金を配分して、あとは報告書の提出を待つといった仕組みで、A.C.という組織を手の届かぬところに置くのではなく、あるいは逆に既存の価値観・芸術観で手を出し、口を出し、文化芸術の実践者をA.C.が手懐けるわけでもなく、コーディネーターが文化の担い手に常に伴走する姿には、まさに腕の距離ほどの、絶妙の間合い、手応えが感じられます。そのことは、2022年の信州A.C.設置以来の事業実績の多様さにもよく表れているでしょう。単一ジャンルには収まらぬ(行政的にはつい分類したくなるのですが)、脱領域的な、あるいは未分の試みの数々に、私は毎年わくわくしています。

加えて言うと、「腕の長さ」的間合いの妙が、信州A.C.をきっかけに知り合い、つながっていく県内の実践者間にもあると思うのですが、いかがでしょうか。直接的・財政的な、支援する／されるの関係ではありませんが、世代や地域、団体の規模感などにはまったく関係なく、つまり、一方が他方を呑み込むようなことなく、それぞれのあり方や違いを尊重しながら、横連なりの協力を重ねる人々の姿には、相互扶助の思想と実践を強く感じます。腕力や腕前を誇示するのではなく、握手を交わすような親しさと丁寧さが、信州A.C.発のネットワークとして県全体を包んでいるのです。

「腕の長さ」を振り出しに、その本来の意味からはだいぶずれたお話をしてしまいましたが、そもそも腕armとアートartには語源上の近さもあるようです。言ってみれば、さまざまな長さで腕を利かすこと自体、ひとつのアート。つまり、私たちの文化と表現を守り育む日々の関係性もまたアートたりえるのでは、ということです。信州A.C.の実践を通して、私たちのアートはさらにどう広がっていくか、ひきつづき注目し、折々に協働していきたいと思います。

信州大学人文学部教授
金井 直



水平の感覚がもたらした3年間(足掛け6年)の実り

設立に向けた意見交換会に2019年に参加してから、2022年の発足を経て現在に至る6年を振り返ると、よく集い、話し合う信州アーツカウンシルの姿がはっきりと思い浮かぶ。さまざまな立場の人たちが言葉を交わす場を、県内各地で、公式・非公式に、実にたくさんつくってきた。私が参加してきたアドバイザリーボード会議も、形式的な承認の場だったことは一度としてない。ボード会議は、オープンカウンシルや拡大ボード会議、県内各地の助成事業を巡るフィールドワークにまで変幻自在に発展し、創造的な活動に取り組むたくさんの方々を知る機会を得た。

設立から3年、信州アーツカウンシルの個性として際立って来たのは「集って語らう姿勢」である。2024年度を通して開催された3年間の集大成「パレード」事業においても、それは一貫していた。パレード公式サイトで公開されている記録動画や写真を、ぜひともご覧いただきたい。はじまりの交流会(助成事業のキックオフ)から大盛況の最終報告会に至るまで、とにかく皆がよく語らっているのだ。この語らいの特徴は「水平感」である。信州アーツカウンシルの諸事業では、上下という縦方向ではなく、フラットな関係性や横のつながりを感じてきた。アーツカウンシルという中間支援機関(機能)には不可欠な感覚であり、信州アーツカウンシルと関係者との関係性が垣間見える。

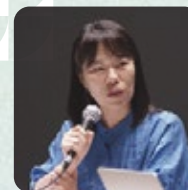
文化振興機関としてこの感覚を最も必要とするのが助成事業である。信州アーツカウンシルは、この3年間、長野県内各所の、幅広いテーマの多彩な活動を支援してきた。現代美術、演劇、音楽、ダンス、文楽、映画、人形劇、民話、伝統芸能、工芸といった多様な芸術ジャンルに、子育て、医療、環境、障害福祉、子育て、地域活性、居場所、里山、農業、郷土研究、交流の場などの切り口が掛け合わされ、「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり」の事例が豊かに積みあがっている。

その助成事業の報告会を兼ねたパレード最終日のクロージングイベントは、3年間の実りがぎゅっと凝縮した印象的な時間だった。大ホールの舞台上に設えた会場で、参加者全員が輪になって踊った時の一体感と高揚。まるで演劇のように、皆で作り上げる助成報告会であった。輪踊りに続く2024年度助成事業採択者のマイクリレーも心に残っている。短時間で次々に自己紹介と活動報告をしていくのだが、すべての人(活動)の語りとパフォーマンスにしっかりと光が当たり、そこにも水平感があった。発表者は口々に、アーツカウンシルスタッフの伴走支援に感謝の言葉を添えていく。現場に足を運んで、相談に乗り、言葉を交わしあっているからこそこの信頼関係が見て取れ、助成する側と受ける側という構図ではなく、今期の助成事業を経験した全体が仲間と感じられる関係性ができていた。

こうした積み重ねが、2025年度に新たに導入した「文化共創パートナー」につながったのだろう。3年間の助成期間を満期卒業した団体を、今度は支援する側のパートナーに迎え、知見・経験を提供いただく。大変心強くありがたい。こんな仕組みを思いつくこともすばらしいが、それを実装できるのは信頼関係を3年間かけて築いてきたからこそ。伴走支援流行りの昨今だが、KPI追求型の伴走だったらこうした展開は生まれなかっただろう。

まさに「共創:ともにつくるムーブメント」が体现された初動の3年であった。「アートを身近に、暮らしをゆたかに、様々な人が文化を創り支え合う」ために、態度や姿勢、関係性の持ち方といった部分で、全国の地域アーツカウンシルを牽引して一いや、牽引しなくてもいいので、数字では表しにくいところのありようで、引き続き独自に輝き続けてほしい。

プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院 教員
若林 朋子



これまでとこれから ～コーディネーター 座談会 (2025.5.14)

アートカウンシル長と専門スタッフが集まって、
3年間の活動について語りあいました。



■「信州アートカウンシル 2024 パレード
～ともにつくるムーブメント」はとても意
欲的な取り組みでしたね。

野村 アートカウンシルの立ち上げの準
備の段階から「3年くらいで何か形を見たい
」と言われていて。支援している団体の
活動を紹介して県民の皆さんが直接参加
できる事業をやって、それを記録に残せば
いいんじゃないかと考えました。
県内広いので巡回する必要がある、「パ
レード」という名の事業になったなりまし
た。

藤澤 支援する・支援されるという関係
ではなくて、一緒につくるということにも
大きな意味があったと思います。

■「パレード」も含めこれまでを振り返っ
ていかがですか？

野村 アートカウンシルの活動の指標と
して、全文化芸術活動をやりたい、という
自発的な思いを持った人が県内に想定し
ていた以上にたくさんいて、関わってくれ
た。そして関わってくれる人が増えていっ
た3年間だったと思います。



ゼネラルコーディネーター 野村 政之

佐久間 とにかく県内たくさん移動しま
したね(笑)。信州アートカウンシルの説明
の中には、「長野県の自然豊かな風土」と
いう文言があるんですが、各地に足を運
ぶ道中の景色を見ながら、山、谷、川と
いった地形によって人々の暮らしや地域
の文化がつけられていることを実感しまし
た。



コーディネーター 佐久間 圭子

藤澤 文化芸術というと、“都会から来た
ありがたいもの”みたいな崇高なイメージ
が何となくあるように思いますが、アーツ
カウンシルで3年を過ごして、自分たちが
担い手にもなるような身近なものだとあ
らためて感じました。

■アートカウンシルの役割については、ど
のように考えていますか？

藤澤 長野県は広くて、地域によって特
性も異なりますが、各地で活動している人
たちは、なかなか交わる場がありません。
お互いに何をやっているのかを知ること
ができる場として、交流イベントや勉強会
など、結節点を作っていくことは、役割の
一つだと思います。

早川 私たちは、担い手の皆さんに、何を
しているのか、これからどうして行きたい
のかという話を聞く立場です。その一方
で、単純にその団体のファンにもなる。と
ても近いところで、一緒にやりたいもの、
見たいもの、その未来を見据える部外者
みたいな感じです。だからこそできること
もたくさんあると思っています。

伊藤 2016年に「シンビズム」を始める
ときに、とても印象に残っていることとして、
小海町高原美術館学芸員の中嶋実さん
が、「一人じゃないんだ」って可愛らしく
言ったんです。そのときに、県内各地の学
芸員の皆さんが一生懸命やっていること
や頑張っていることを、「ちゃんと見てい
るよ」「すごいことやっているね!」と伝え
なさいいけないと思いました。一番の応援団
という立ち位置で、言い続けていきたいで
す。



チーフコーディネーター 伊藤 羊子

野村 「一人じゃないよ」というのはすご
く大事ですね。地域で文化芸術活動をし
ている人は、孤立していたり、孤独を抱え
ていたりすることが結構あります。周りか
ら「何、遊んでるの?」「余計なことやっ
ている暇があったら仕事しな?」みたいなこ



とを言われる雰囲気が、人の心の余裕を
奪っていく。ポジティブなアクションとして
文化芸術活動が続けている人に、私たち
は伴走して、支援しています。
同時に、発見されていない場合もありま
す。助成事業はリサーチでもあると言われ
るんですが、公募することで県内各地で
さまざまな団体が活動していることが見え
ようになる。そして私たちが現場に足を
運んで、地域の状況を実際に見て理解を
深めていきたいと思っています。

■研究者、調査リサーチャーという役割で
すね。

野村 この前、夏のスキー場を使ったイ
ベントで知り合いと鉢合わせて「文化人類
学者か!」って言われたんですけど(笑)、
そう言われるのは嬉しいですね。
「パレード」の中でも“文化のソーシャル
ワーカー”という視点で座談会を行いま
したが、良い出会いになれば、自然とコラ
ボが生まれるので、接点を作っていく感じ
です。

津村 「パレード」で面白いと思ったのは
まさにそれです。普段なかなか出会わな
いようなアーティスト同士が、仲良く話し
ていて、マイクリレーで「今度、この人とコ
ラボします!」って発表する。お見合いの世

詳しくは
長野県文化芸術情報発信サイト
CULTURE.NAGANO
特集に掲載中!



話人じゃないですけど、こちらが何もして
いないのに「いつの間にそんなに仲良く
なったの?」と驚きました。

■これまでで、特に印象に残っている出来
事がありますか？

佐久間 障がいのある方と芸術活動を行
う「TIME WARP」を運営している助成団
体の「WHITE CANVAS」で開いた、土で
作った絵の具を使って絵を描くワーク
ショップです。絵や字を描くのがすごく好
きな方がいて、「無」という漢字を3年間
ずっと描き続けていたそうなんですが、土
の絵の具を手にしたら、急に「有」という漢
字を書き始めた。どうしてなのか、本人も
説明がうまくできなくて、それを「WHITE
CANVAS」の皆さんがどう言葉にしよう
か悩んでいた姿も含めて、印象に残ってい
ます。

早川 「北アルプス国際芸術祭2024を障
がいのある方と巡るモニターツアー」は印
象に残っています。自然の中で行われる芸
術祭のアクセシビリティはある種、諦める
しかないみたいに思っていたのですが、参
加者からすれば、単純に「見たい」だけな



コーディネーター 早川 綾音

んですよ。見たい人に見てもらえるよう
にするにはどうすればいいかというシンプ
ルな話で、それを考えて実現することの重
要性を感じました。

藤澤 2021年から「NAGANO
ORGANIC AIR」に携わってきて、山田百
次さんが滞在制作した『新野物語』を、4年
間で3回上演したのですが、その間に、関
わった皆さんも年齢を重ねて立場や環境
も変化がありました。出演者の1人が結婚
されて、物語の中と自分とを重ねて話して
くれたことがあって、「人生の一部になっ
ているんだな」と思ってジーンとききました。



長野県伊那文化会館
(令和6年度までコーディネーター)
藤澤 智徳

■清水さんは令和6年度まで長野県伊那
文化会館にいたわけですが、信州アーツ
カウンシルの印象は？

清水 ちょっと性質が違うというか…正
直に言うと「訳が分からなかった」という
か(笑)。伊那にいた頃は、いろんな現場に
アートカウンシルの人が居たので、どうい
う動き方をしているのかなと不思議に
思っていました。

これまでとこれから ～コーディネーター 座談会

藤澤 清水さんと入れ替わりで、今は伊那文化会館にいます。館やホールの業務は、比較的イメージしやすいですが、アーツカウンシルは難しいんでしょうね。

伊藤 藤澤さんと清水さんが入れ替わったことを機に、事業団の各施設の“中の人”にも、アーツカウンシルの活動が伝わっていく。それによって互いに協力して、地域の文化芸術活動の発展に向けて尽力できる。良い循環になっていけばと思います。

■今後については？

清水 支援を受けながら芸術文化活動をすることに対して、抵抗を感じなくなってもらえればいいなと思います。自分たちの表現が、公益性を伴っていると思えば、違和感を抱くことも減るかもしれない。私たちはその第一歩となるような組織でありたいと思います。



コーディネーター 清水 康平

早川 1年間やってきて、コーディネーターとしてやっと寄り添い方が見えてきたという段階です。これからも真摯に向き合い続けたいです。

佐久間 今年度、助成事業の対象は50団体あるので、寄り添い方を工夫する必要がありますと話しています。無理に私たちだけが頑張るのではなく、これまでの活動で生まれたつながりを活かす形で、皆で支え合うことで解決していきたい。頑張りすぎ



ず楽しめる余裕を持つことが、継続のためには大事だと考えているので、その下地を作る意識をしていきたいです。

野村 「Shinshu Arts-Climate Camp」が好例ですが、地域社会の日常と、文化芸術の接点はさまざまなところにあります。“〇〇×文化芸術”をある程度可視化できてきたので継続していきたい。今、一番課題だと思っているのが高齢化と人口減少です。「祭り芸能の担い手座談会」などもそういった意図でも企画しています。

津村 私がここ数年、ますます強く思っているのは、「歩きやすい道は技術とお金で作れるが、歩きたい道は文化でしか作れない」ということ。歩きたい道は、地域の中で作っていくことが重要で、その街に行ってみたくとか、住んでみたいというのは、文化でしか作れません。いま全国で“地域”にスポットが当たるようになってきたと感じています。この先、県だけではなく他の市町村でもどうやって受け入れ、てそして進めていけるか。アーティストや担い手の支援以外にも、アーツカウンシルとして何ができるかが重要な

数年間になると考えています。

野村 最近は市町村からの相談も増えてきています。人口減少社会の中で、公立の文化施設の運営や文化事業を、今までのまま継続していいのか、できるのか。人やお金の見通しの課題があります。文化施設や文化事業のなかには、市町村よりも広いエリアから人を集める企画もありますし、その地域の文化芸術の拠点としての役割もある。それをどう維持していくのか、そのためにはどんなサポートが必要なのかを本腰を入れて検討しなければならぬ時期にきています。

津村 アーツカウンシルを含めた長野県文化振興事業団として、行政とも連携しながら、地域の文化芸術活動の担い手と共に長野県の豊かさを発信できるような環境を整えていくことが、次のフェーズだと思います。



アーツカウンシル長 津村 卓

聞き手・文：山口敦子〔(株)タナカラ〕
構成：野村政之
写真：平松マキ



SHINSHU Arts Council 2024 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル 令和6年度活動報告

令和7(2025)年 8月発行

企画・編集 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局)

編集デザイン | 北林 南 (合同会社伊那谷サラウンド)

発行 | 信州アーツカウンシル

〒380-0928 長野県長野市若里1-1-4 県立長野図書館1階

T E L | 026-223-2111

F A X | 026-223-2112

MAIL | artscouncil@naganobunka.or.jp

WEB | shinshu-artscouncil.jp

信州アーツカウンシルは、長野県文化振興基金により運営されています

 文化庁 令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

 信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)

環境に配慮した用紙を使用しています